



させない、されたい、環境づくり

ALLINONE
SECURITY SYSTEM

監視カメラシステム



はじめに□□□

このたびは、をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

当ソフトウェアは、通信販売の受注から納品までのスピーディな一連動作に加え、明日の店舗運営を戦略的なものにするための分析ツールとして、皆様の業務効率化のツールとして、お役に立てれば幸いです。

1. 注意事項

このマニュアルでは、製品を安全にお使いいただくための項目を次のように記載しています。傷害や事故の発生を防止するために、記載内容を守ってください。

- ・ DVRは適度な温度・湿度の環境で使用して下さい。
- ・ 湿気、煙、塵が多い場所で使用しないでください。
- ・ 本製品は水平で安定した場所で使用してください。
- ・ 通風良好な場所に置き、通風口をふさがないでください。
- ・ 製品の上に液体の入った容器を置かないでください。
- ・ 本製品の上には何も置かないでください。
- ・ 本製品の分解・改造を禁止します。
- ・ 製造元推薦のハードディスクを選んでください。正しく動作するハードディスクを組み込んでください。

2. 付記

- ・ 本マニュアルは参考程度のもので、まずは製品を使用してみてください。
- ・ 本マニュアルの内容には万全を期しておりますが、説明不十分な点や印刷ミスがありましたらサポートセンターまでご連絡下さい。
- ・ 本マニュアルに記載の製品は改善、更新、バージョンアップされる可能性があります。その場合の通知はありませんので、ご注意下さい。
- ・ 本マニュアル中の図には、実際の製品画面等とは異なるものが含まれております。
- ・ 新しいマニュアルをご希望の場合や、ご質問等は田中商事株式会社のサポートセンターにお問合せください。

目次

1. 注意事項	1
2. 付記	2
3. 製品紹介	4
3.1 製品概要	4
3.2 製品機能	4
3.3 設置マニュアル	5
3.4 パネルの説明	6
3.5 マウス操作	20
3.6 入力	23
3.7 電源オン/オフ	24
3.8 アイコン	26
3.9 リアルタイムブラウザ	27
4. 操作ガイド	28
4.1 マウスの右クリックメニュー	28
4.2 メインメニュー紹介	31
4.3 録画検索	30
4.4 設定管理	34
4.5 保存管理	51
4.6 周辺機器管理	54
4.7 メンテナンス管理	61
4.8 ログアウト	65
5. WEB 及びクライアント	66
5.1 WEB運用	66
5.2 クライアント運用	75

6. 拡張機能の紹介	76
6.1 DDNS機能	76
6.2 ポートマッピング	79
6.3 NTP機能	81
6.4 PTZ機能	82
6.5 音声通信	85
6.6 冗長ハードディスク	86
6.7 ハードディスクS.M.A.R.T 技術	86
7. 付録	89
7.1 用語の説明	89
7.2 HDD容量の計算とメンテナンス	90
7.3 よくある質問	93

3. 製品紹介

3-1 製品概要

本製品はセキュリティ分野に向けて設計された、ビデオコーディングと録画が可能な製品です。H.264の動画圧縮フォーマット、大容量ハードディスクメモリTCP/IPのネットワーク技術、Linuxシステムとその他多くの先進電子情報技術を搭載しており、高画質、低ビットレートの動画と、安定した良好なシステムを保証します。

本製品は録画、再生、監視が同時に実行できます。先端制御技術があり、ネットワークでのデータ転送能力も高いのが特徴です。

3-2 製品機能

・リアルタイム監視

複合動画信号のポートがあります。TV、TGA、HDMIの同時出力をサポートします。圧縮処理機能H.264の動画圧縮標準とG.711の音声圧縮標準により、最大D1まで解像度コーディングをサポートします。

・録画機能

マニュアル、時間指定、アラーム連動、モーション検知などの録画モードがあります。SATAハードディスクとローカルハードディスクの「S.M.A.R.T」技術をサポートします。ハードディスクの録画資料をUSBポートとネットワークでバックアップすることができます。

・再生機能

多くの方法で動画検索が可能です。ローカル再生とネットワーク再生ができ、複数チャンネルの同時再生、早送り、遅送り、巻き戻し、フレーム再生モードなどの再生モードがあります。再生時の時間を正確に表示することができます。

・カメラのコントロールとアラーム

カメラの遠隔コントロールをサポートしています。複数チャンネルのアラーム入力ポートがあり、各種アラーム機器と接続できます。モーション検知、動画紛失時、カメラ遮断時などのビデオアラーム機能があります。複数チャンネルのアラーム出力をサポートし、アラームの連動および現場で点灯コントロールもできます。

・通信インターフェース

USB2.0の高速インターフェースで様々な外部機器と接続できます。様々なネットワークで使用できる標準イーサネットポートも備えています。

・ネットワークプロトコル

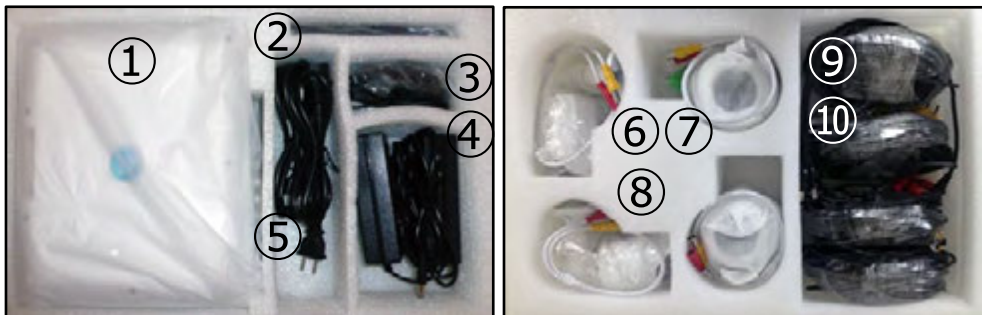
TCP/IP、UDP、RTP/RTSP、DHCP、PPPoE、DDNS、NTPなどをサポートしています。ネットワークでのリアルタイム監視、録画、再生、コントロール機能もサポートします。WEBサーバーを内蔵し、ブラウザから直接アクセスできます。

・操作モード

本体パネル、リモコン、マウスなどの操作モードがあります。図形等を使用し簡単に直観的に操作できます。

3.3 梱包内容

オールインワン監視システムの同梱品は以下の通りです。全て揃っているかご確認ください。



①	本体		1	⑧	映像ケーブル		4
②	リモコン		1	⑨	電源分岐ケーブル		1
③	マウス		1	⑩	カメラ用 取付工具 /ネジ		4
④	電源		2	⑪	C D		1
⑤	電源 ケーブル		2	⑫	説明書		1
⑥	カメラ		2	⑬	保証書		1
⑦	カメラ		2	⑭	検品証		1

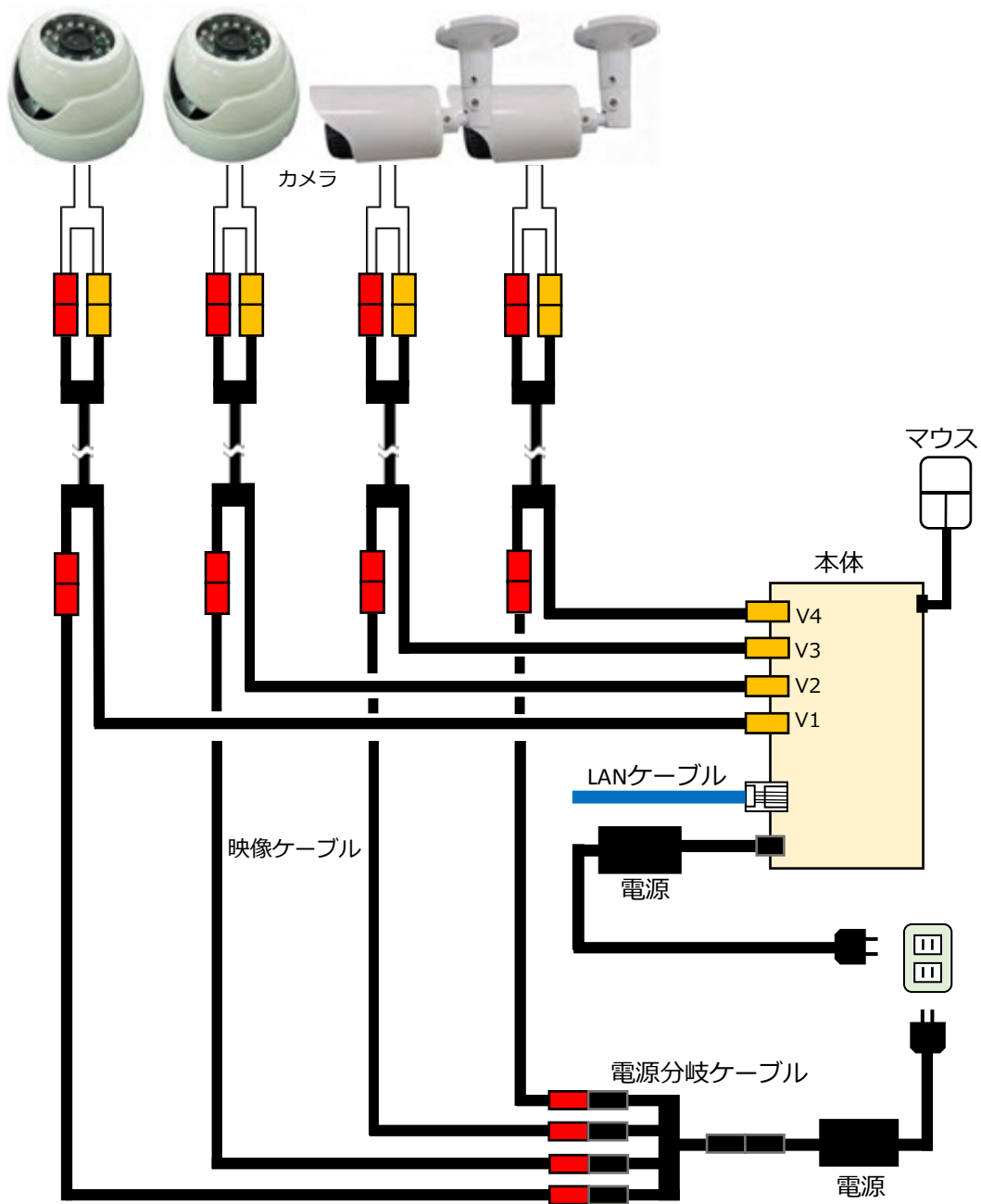
3.4 仕様

モデル	4チャンネル	8チャンネル
操作システム	組み込み Linux オペレーションシステム	
操作インターフェース	GUI、サポートのマウス、リモートコントロールの操作	
ビデオ標準	PAL(アナログカラーテレビ規格)、VTSC (カラーテレビとそのテレビ放送の方式)	
システムリソース	マルチタスク動作、同時マルチスキャン録音、同時ビデオの再生やネットワークへの同時操作	
ビデオ圧縮	G.711A	
録音モード	マニュアル、タイミング、モーション検知	
検索モード	時間、録画タイプ、チャンネル	
バックアップモード	ネットワークのダウンロード、USBバックアップ	
ビデオ入力	4 ch BNC	8 ch BNC
ビデオ出力	デジタル液晶パネル：10.5インチ（解像度：1024×766） CVBS/VGA/HDMI	
オーディオ入力	2 ch RCA	
オーディオ出力	1 ch RCA	
音声トーク	1 ch RCA	
ライブビデオ解像度	PAL:720×576 (D1)、NTSC:720×480 (D)	
再生時の解像度	4×D1	2×D1+6×CIF
画像コントロール	1から6までのレベルが選択されています。	
モーション検出	各チャンネルは独立した検出ゾーンとマルチレベルの感度を設定することができます。	
ビデオディスプレイ	1/4multiple 表示	1/4/8multiple 表示
録画フレームレート	PAL：25/秒（調整可能）、NTSC：30f/秒（調整可能）	
記録の保管	ローカルHDD、ネットワーク	
ローカルでの再生	4チャンネルまで同時再生可能	8チャンネルまで同時再生可能
PTZコントロール	RS485	
HDインターフェース	RJ45 10M/100M 適応イーサネット	
携帯電話の表示	Android、iphoneなどスマートフォンをサポートします	
USBインターフェース	2 USB2.0 ハイスピードボード	
電源	12V 3A	

3-3 設置

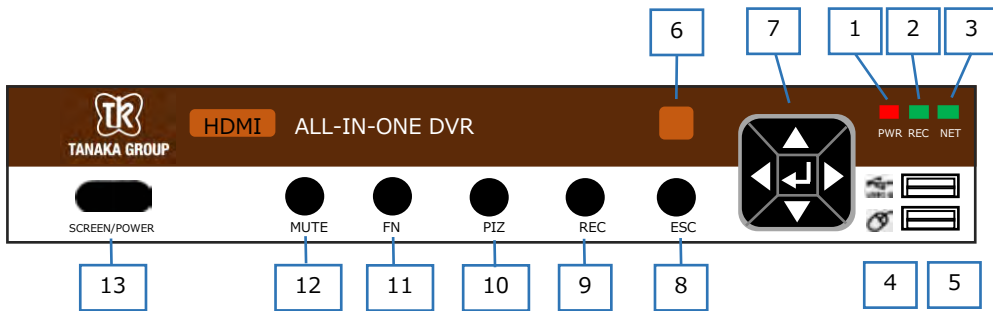
3-3-1 配線接続

- 1) カメラ、本体、映像ケーブル、LANケーブル、マウス及び各種ケーブルを用意して下さい。
- 2) 下記図を参考に接続してください。



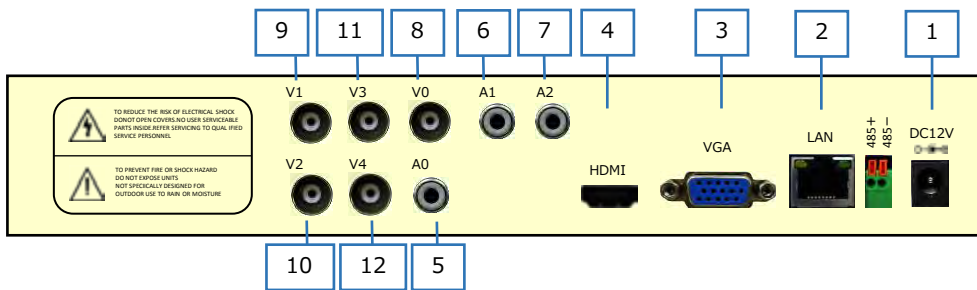
3.4 パネル

3.4.1 前面パネルの説明



番号	名称	機能
1	POW	点灯時：電源オン
2	REC	点灯時：録画機能がオン
3	NET	点灯時：LANケーブルがあるときに点灯します。 IP衝突時点滅します。
4	USB2.0	マウス、USBメモリなどの接続
5	マウス	マウス、USBメモリなどの接続
6	IR	リモコン信号の受信
7	方向キー	カーソルキー、メニューオプションキー 上、下方向：設定オプションあるいは数値を変更。 プレビュー画面切替。 左、右方向キー：選択事項
8	Esc	前の操作に戻ります。または、今の操作を取消。
9	REC	ボタンを押すと録画が始まります。
10	PIZ	PTZコントロールメニューを呼び出します。
11	Fn	指定のプレビュー画面時に補助機能ページを 表示します。入力ボックスで長押しで入力方法を 切替、短く押して文字を削除します。
12	MUTE	マナーモード
13	SCREEN/ POWER	電源のオン/オフ

3.4.2 後面パネルの説明



番号	名称	機能
1	DC12V	電源入力
2	LAN	LANポート
3	VGA	VGAポート
4	HDMI	HDMIポート
5	A0	オーディオ出力
6	A1	オーディオ入力出力
7	A2	オーディオ入力出力
8	V0	ビデオ出力ポート
9	V1	ビデオ入力ポート
10	V2	ビデオ入力ポート
11	V3	ビデオ入力ポート
12	V4	ビデオ入力ポート

3.5 マウス操作

前面パネルのキーとリモコン以外では、マウスでメニューの操作ができます。本製品のUSBポートにマウスを接続します。

マウスの左クリック

- ・リアルタイム監視時に、マウスを左クリックするとメインメニューに入ります。システムにログインしていない場合、ログイン画面が最初に表示されます。
- ・オプションのアイコンを左クリックするとその機能のメニューに入ります。
- ・操作の実行を指示します。
- ・チェックボックスやモーション検知の状態を変えます。
- ・コンボボックスをクリックすると、ドロップダウンリストがポップアップされます。
- ・3D PTZ コントロールモードで左クリックし、右下のボックスヘドラッグすると、拡大機能を使用できます。右下から左上にドラッグすると、縮小機能を使用できます。

マウスの左ダブルクリック

- ・選択・確認し、その機能を開きます。例：録画の再生
- ・複数チャンネル表示の状態では任意のチャンネル画面をダブルクリックするとそのチャンネルがフルスクリーンで表示されます。もう一度ダブルクリックで元の画面に戻ります。

マウスの右クリック

- ・リアルタイム監視画面でサブメニューをポップアップします。
- ・メニュー画面で保存せずに戻ります。

ホイールのスクロール

- ・数字ボックスに数字を入力する際にスクロールで数字の値を増減できます。
- ・ボックスのオプションを切り替えます。
- ・前後にスクロールで3D PTZ の拡大・縮小機能を使用できます。

マウスの移動

- ・現在の操作ポイントを移動させます。

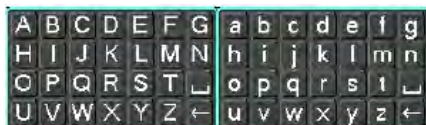
マウスのドラッグ

- ・ダイナミック検知エリアを選択します。
- ・ダイナミック検知エリアを上書き設定できます。
- ・3D PTZコントロールの拡大・縮小機能を使用できます。

3.6 入力

入力ボックスで数字、記号、英字を入力できます。パネルの文字をクリックすると入力できます。「←」はバックスペース、「_」はスペースを意味します。

- 英字入力画面：



- 数字入力画面：



4. 基本操作

4-1 電源オン

本体の電源スイッチを入れると、電源ライトが点灯します。その後「ピッ」というブザー音が鳴り、システムが起動して、複数画面のリアルタイム監視状態に入ります。この時デバイスの操作、設定ができます。

録画設定時間内の場合、電源をオンにする時間は、システムは自動で提示録画機能を起動します。



4-2 電源オフ

方法1：【メインメニュー】>【シャットダウン】>【シャットダウン】を選択してください。







方法2：前面パネルの【SCREEN/POWER】を長押しでシャットダウンできます。

3.7.3 停電時等の回復機能










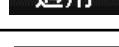


録画されている状態でDVRが停電等によって強行シャットダウンされた場合、再度電源を入れると、自動的にシャットダウンされる前の録画を保存し、通常の状態で作動します。

3.8. アイコン

3.8.1 状態アイコン

	録画状態を表します。
	動画紛失時に表示されます。
	音声出力時に表示されます。
	モーション検知時に表示されます。
	監視チャンネルをロックした時、表示されます。
	画面の切り替えができます。

3.8.2 操作アイコン

	未選択状態
	選択状態
	メニューをポップアップします。
	変更した設定の確定/メニューに入る。
	変更した設定の取消し
	パラメータの設定
	現在のパラメータを保存する。
	デフォルトの状態にします。パラメータを修正してから、このボタンをクリックすると前回の設定に戻ります。
	現在の設定を適応する。
	現在の設定を他のチャンネルにコピーする。
	パラメータ設定メニューに入る。
	アラーム、ビデオ検知触発の動作処理を選択、設定します。

3.9 リアルタイムブラウザ

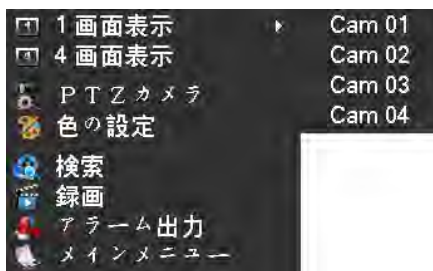
DVRは正常起動後リアルタイム監視画面に入ります。各画面で録画とアラームの状態を示す日付、時間、チャンネル名のアイコンが表示されます。前面パネル、リモコンまたはマウスで表示画面の切り替えが可能です。



4. 操作ガイド

4.1 状態アイコンマウスの右クリックメニュー

電源を入れ、リアルタイム監視画面に入った後マウスの右ボタンをクリックすると、操作メニューをポップアップします。



4.1.1 画面の切替

1つの画面に最大16チャンネルまで表示可能で、必要に応じて、1チャンネル、4チャンネル、9チャンネル、16チャンネルに調整出来ます。

4.1.2 PTZコントロール

【P/T/Z】から【PTZの設定】に入り、PTZプロトコル、通信速度、アドレスビットなどのパラメータを設定できます。

4.1.3 画像の色彩

指定した画面（1画面）の画像の色相、明度、コントラスト、彩度、ゲイン、ホワイトレベルのパラメータを調整出来ます。

設置環境の昼と夜の明るさの違いに合わせて、2つの時間帯でそれぞれ調整出来ます。

4.1.3 画像の色彩

指定した画面（1画面）の画像の色相、明度、コントラスト、彩度、ゲイン、ホワイトレベルのパラメータを調整出来ます。

設置環境の昼と夜の明るさの違いに合わせて、2つの時間帯でそれぞれ調整出来ます。



利用するにはチェックボックスにチェックをいれる必要があります。

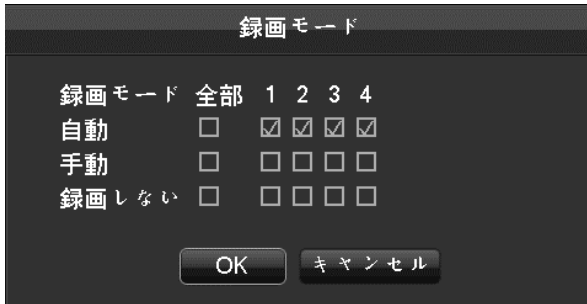
【時間帯】	2つの時間帯を設定できます。昼と夜の明るさに従い設定します。設定完了後、設定した時間帯に合わせたカラーモードに自動的に切り替わります。
【色調】	現在映っている画像の色相を調整します。
【明るさ】	環境に合わせて明度を調整し、画像を鮮明にします。
【コントラスト】	画像の白と黒の比率を調整します。比率が高いほど、画像は明るくなります。
【彩度】	彩度の値を高くするほど画像色は鮮やかになります。

4.1.5 手動録画



手動録画の操作には“録画”の操作権限が必要です。

リアルタイム監視画面でマウスを右クリックし、【手動録画】をクリックまたはリモコンの【録画】ボタンを押し、図 4-3のような手動録画の画面に入ります。



【手動】	優先レベルは最高です。各チャンネルの状態を問わず、“手動”ボタンを押すと対応するチャンネルの録画を開始します。
【自動】	録画設定で設定された録画タイプ（通常、モーション検知、アラーム）で録画します。
【停止】	すべてのチャンネルの録画を停止します。

あるチャンネルの録画状態を変える場合、まず、このチャンネルが選択状態か、非選択状態なのか（非選択状態は録画していない状態、選択状態は録画している状態）チェックします。そして、マウスでクリックするか、左右の方向キーでそのチャンネルのボックスに移動します。

そして上下の方向キーまたは数字キーでチャンネルの録画状態を切り替えます。



すべてを選択するとすべてのチャンネルの録画状態を変更できます。

4.1.7 メインメニュー

【メインメニュー】をクリックし、ユーザー名とパスワードを入力して【OK】をクリックするとシステムメニューに入ります。

初期設定ユーザー：

ユーザータイプ	ユーザー名	初期パスワード
管理ユーザー	Admin	123456
普通ユーザー	User	123456
隠しユーザー	Default	Default



パスワード安全対策：

3回入力を間違えるとアラームが鳴り、5回間違えるとロックされます。30分後、自動的にロックは解除されます。安全のため、パスワードを初期のものから変更して下さい。ユーザーやグループの追加、ユーザー情報の修正及びユーザーの操作は 4.4.5 ユーザー管理を参照してください。

4.2 メインメニュー紹介

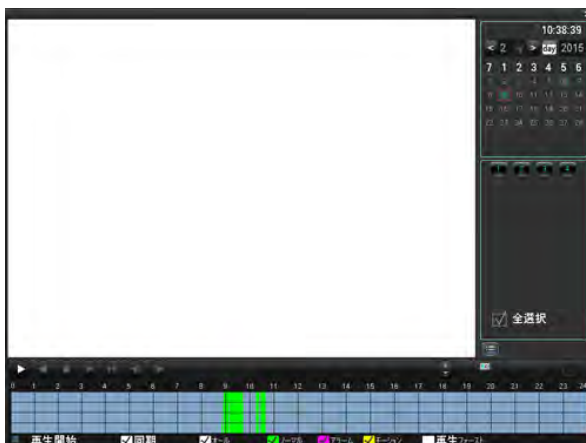
メインメニューは下図のように録画検索、設定、メモリ管理、出力管理、メンテナンス管理、シャットダウンの機能があります。



【録画検索】	録画のタイプ、チャンネル、時間別に録画を検索し再生します。
【設定】	録画、モーション検知、異常検出、アラーム、システム、ネットワーク、ユーザー管理などの設定をします。
【メモリ管理】	ハードディスク管理と録画バックアップ管理をします。
【出力管理】	PTZ、アラーム出力、シリアルポート、出力モードの設定をします。
【メンテナンス管理】	システムのログ情報、バージョン情報、ストリーム、オンラインユーザーの表示、初期化、自動メンテナンスの設定をします。
【シャットダウン】	ログアウト、シャットダウン、再起動、ユーザーの切り替えなどの操作をします。

4.3 録画検索






リアルタイム監視画面でマウスを右クリックし、【検索】をクリックまたはメインメニューから録画再生画面に入ります。



録画検索画面の説明：

番号	タイプ	説明
1	カレンダー機能	カレンダーアイコンをクリックし、録画リストを表示します。（記録のある日は緑色で表示されます）そして調べたい日付をクリックすると、自動的にその日の録画リストを更新します。
2	時間選択	録画検索の開始・終了時間を選択します。
3	再生操作	次の再生操作をします。 再生/停止、一時停止、早送り、スロー再生、一時停止状態で前/次のフレームへ移動
4	録画モードの選択	外部アラーム、モーション検知、全アラーム録画、またはすべてのモードを選択し検索します。
5	チャンネル	検索したいチャンネルを選択します。
6	再生状態	前後のファイル・チャンネルを選択して再生します。
7	検索	開始時間、チャンネルを選択し、[検索]をクリックで録画リストの結果を表示します。
8	バックアップ	リストボックスでバックアップしたいファイルを選択し、リストボックスにチェックを入れます。（2チャンネル同時に選択できます。） バックアップボタンをクリックすると、バックアップ操作メニューが表示されます、そこでバックアップをクリックします。バックアップファイルを取り消す場合は、リストボックスのチェックを外して下さい。 （一画面のリスト数字は 128）
9	録画リスト	検索の結果をボックスにリストの形で表示します。リストには検索されたファイルが128個まで表示されます。▲/▼キーまたはマウスのホイール上下で録画ファイルを確認できます。必要な録画ファイルを選択し、ENTER キーまたはマウスの左ダブルクリックで、再生できます。 ファイルタイプ：R—通常録画 A—アラーム録画 M—モーション検知録画
10	チャンネル検索	再生したいチャンネルを選択します。

再生操作ボタンの説明：

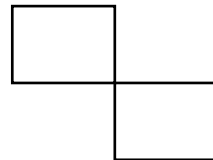
ボタン	説明	備考
早送りキー 	再生状態でこのボタンをクリックすると、早送りスピードを数段階切り替えることができます。	実際の再生スピードはバージョンによって異なります。
スロー再生キー 	再生状態でこのボタンをクリックすると、スロー再生のスピードを数段階切り替えることができます。	
再生/一時停止キー 	スロー再生時にこのキーで再生/一時停止を切り替えます。	
逆再生キー 	通常再生時に、再生コントロールバーをクリックした上で“◀”ボタンをクリックすると逆再生できます。	 キーで通常再生状態に戻ります。
手動シングルフレーム再生	通常再生の一時停止時に◀ ▶キーをクリックするとシングルフレーム再生します。	



- 再生コントロールバーでは、ファイルの再生スピード、チャンネル、時間、再生進捗などの情報を表示します。
- 再生スピードや巻き戻し機能は本体のバージョンによって異なります。

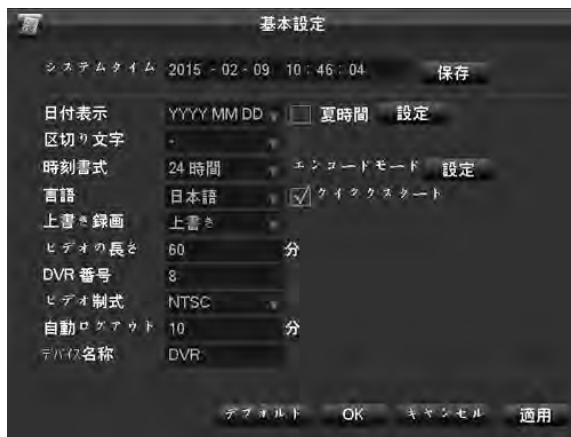
4-4 設定管理

メインメニューから設定管理メニューに入ることができます。このメニューではシステム設定、録画設定、ネットワーク設定、ユーザー管理、異常管理設定ができます。



4.4.1 システム設定

設定管理メニューの基本設定に入ります。

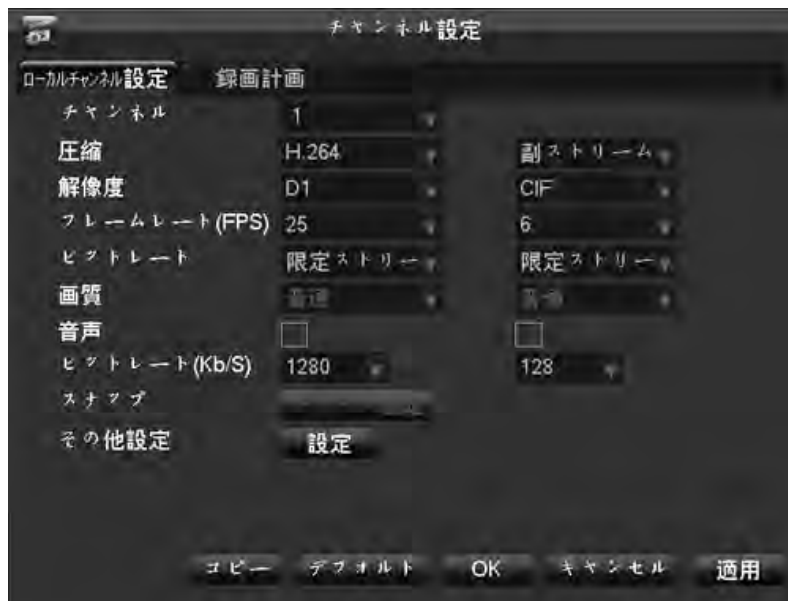


【システムタイム】	現在の時刻を設定します。 注：時刻を変更したら、保存キーをクリックして保存して下さい。
【日付表示】	日付の表示形式を選択できます。
【夏時間】	ボックスにチェックを入れ設定ボタンをクリックして、サマータイムの開始時間と終了時間を設定できます。
【区切り文字】	日付を区切る符号を選択します。
【時刻書式】	24 時間制と 12 時間制があります。
【言語】	メニューの表示言語を切り替えます。 (型番によって、選択できる言語が異なります)
【上書き録画】	ハードディスク容量がいっぱいになった場合、録画停止または上書きを選択できます。録画停止を選択した場合、現在使用中のハードディスクの容量がいっぱいになると録画を停止します。上書きを選択した場合、現在使用中のハードディスク容量がいっぱいになれば、一番古いファイルから上書きして録画が続行されます。
【録画の長さ】	各ファイルの録画時間の長さを設定できます。初期設定は60分間で最長120分間です。
【DVR番号】	同じリモコン等で複数のDVRを操作する場合は、リモコンの「アドレス」キーを押して、製品番号と同じアドレスを入力すれば操作できます。
【ビデオ様式】	PAL / NTSC の2つからビデオ様式を選択します。(カメラの様式と同じものを選択してください)
【自動ログアウト】	メニューのスタンバイ時間を 0～60分間で設定します。スタンバイ時間を設定しない場合は0と入力します。設定したスタンバイ時間になると、自動でログアウトされます。操作する場合は再度ログインが必要です。

4.4.2 録画設定

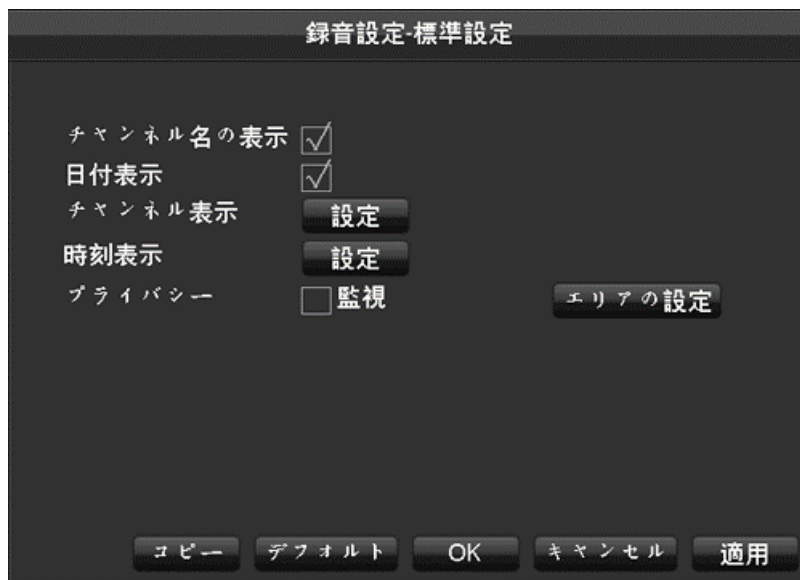
基本設定

録画設定メニューからローカルチャンネル設定画面に入ります。



【チャンネル】	設定したいチャンネルを選択します。
【圧縮】	H.264
【解像度】	メインストリームのタイプは D1 / CIF の2種類です。チャンネルや解像度の違いによって、フレームレートの設定範囲も変わります。サブストリームの解像度は CIF / QCIF をサポートします。メインストリームパラメータは必要に応じて組み合わせて下さい。
【フレームレート】	PAL : 1~25 フレーム/秒 NTSC : 1~30 フレーム/秒 注 : 解像度とフレームレートは製品の型番・バージョンによって異なる場合があります。
【ビットレート (FPS)】	固定ビットレート、可変ビットレートの2つがあります。ここでは固定ビットレートを選択して下さい。可変ビットレートでは画質を6段階に調整できます。
【音声】	メインストリームの拡張音声コーディングのオンまたはオフを選択します。
【ビットレート (Kb/S)】	
【スナップ】	トリガーモードでは、アラームが鳴った時のスナップショットをキャプチャーします。
【その他設定】	「設定」をクリックして、メニューの設定画面に入ります。

設定



【チャンネル名の表示】	スクリーンでチャンネル名を表示・非表示を選択できます。
【日付表示】	スクリーンで現在の日付の表示・非表示を選択できます。
【チャンネル表示】	チャンネルタイトルをドラッグして、タイトルの位置を自由に移動出来ます。移動後、マウスの右クリックで戻ると保存され、チャンネルタイトルの位置はモニター上では変わりませんが、録画とネットワーク画面上では変更した位置で表示されます。
【時間表示】	時間の表示をドラッグして、表示位置を自由に移動出来ます。移動後、マウスの右クリックで戻ると保存され、時間の表示位置はモニター上では変わりませんが、録画とネットワーク画面上では変更した位置で表示されます。
【プライバシー】	マスキングエリアを調整し、プレビュー・監視時に最大4つのプライバシーエリアを設定できます。
【監視】	監視状態でマスキングエリアを設定すると、リアルタイム監視状態でスクリーンにマスキング有りが表示されます。録画画面上にもマスキングがかかります。

録画計画

録画設定画面は下図のとおりです。



【チャンネル】	チャンネル番号を選択します。緑のバーは通常録画、黄色はモーション検知録画、赤はアラーム連動録画をそれぞれ示し、1週間ごとの録画計画を設定します。日付ごとに【設定】をクリックし修正出来ます。
【コピー】	設定を他のチャンネルにコピーします。
【時間帯】	録画の時間帯を設定します。 毎日、時間帯を6つまで設定できます。
【通常】	通常録画が有効になります。
【モーション】	モーション検知が有効になります。
【アラーム】	アラーム連動録画が有効になります。

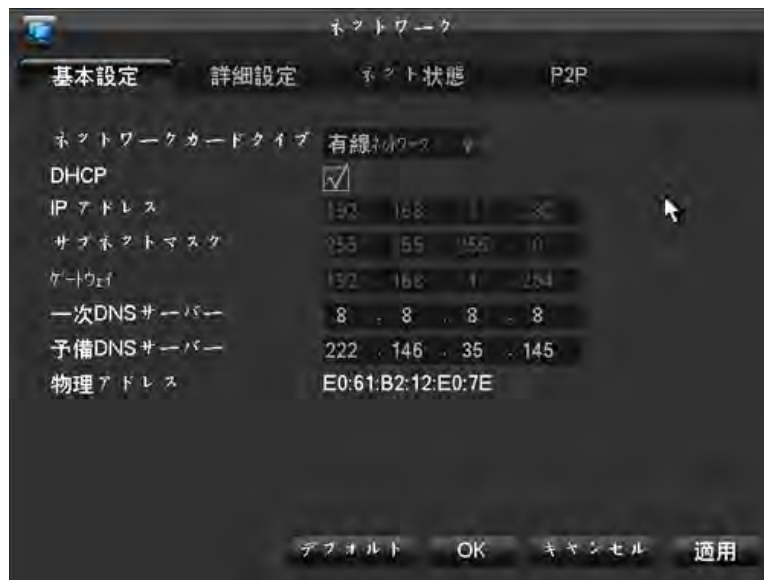
【設定】をクリックして、プラン画面に入ります。



4.4.3 ネットワーク設定

ネットワーク設定画面で、DVRのネットワークパラメータを設定できます。初期IPアドレスは192.168.1.88です。

基本設定



【DHCP】	自動IPアドレスの取得（DHCP）が有効になります。有効にするとIP/マスク/ゲートウェイは設定できません。DHCPを有効にすると、DVRは再起動し、DHCPサーバーを検索し、動的IPアドレスが割り当てられ、そのアドレスがメニュー上に表示されます。DHCPを無効にすると、静的IPアドレスを利用できます。また、PPPoEのダイヤルアップ成功時には、IP/マスク/ゲートウェイとDHCPは変更できません。
【IP アドレス】	数字を入力または上下キーでIPアドレスを変更します。そして、対応するサブネットマスクとデフォルトゲートウェイを設定します。
【一次 DNSサーバー】	DNSサーバーのIPアドレスです。
【予備 DNSサーバー】	DNSサーバーの予備用IPアドレスです。
【物理アドレス】	現在のネットワークポートの物理アドレスを表示します。

詳細設定



<p>【PPPOE】</p>	<p>PPPOE を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISP（インターネットプロバイダー）の提供する PPPoEのユーザー名とパスワードを入力し保存します。 ・操作：PPPoE のダイヤルアップ後、ISPから自動的にIPアドレスを取得します。 IE のアドレスバーで IP アドレスを入力するとデバイスにアクセスできます。
<p>【DDNS】</p>	<p>DVRのダイナミックドメイン名の解析サービスを有効にします。DDNS方式を使うには、固定IPアドレスのサーバーが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DDNSタイプを選択し、（現在CN99 DDNS、NO-IP DDNS、Private DDNS、Dyn dns DDNS、Sys dns DDNS 等さまざまなDDNS をサポートしています。複数のDDNS を同時に設定できます。必要に応じて選択し設定してください）IP アドレス、ポート、ドメイン名、ユーザー名、パスワード等を入力して保存します。 DDNS を設定し実行すると、ネットワーク上でこのDNSを使用してログインできます。 ・Private DDNS 機能を利用するには専用のDDNS サーバーとクライアントソフトが必要です。 詳細は 6.1 DDNS 機能 を参照してください。

【 NTP 】	NTP（時刻同期プロトコル）のオン/オフができます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホストコンピュータ IP： NTP サーバーの IP を入力します。 ・ポート： このSNTP はTCPのみサポートします。ポートは 123 となります。 ・更新周期： 1 分～65535 分間の間で更新します。 タイムゾーン： 東京（GMT +9）
【 オンラインユーザー接続数】	0～10 の間で設定できます。 0 に設定すると接続できなくなります。
【 ネットワーク監視接続数】	0～32 の間での設定をおすすめします。リアルタイム監視を行う前にチェックして下さい。接続数はインターネットのプロードバンドに関連しており、数量が多いほど、ネットワークの負担が多くなり、ビデオ再生が円滑にできなくなります。
【 オンラインダウンロード接続数】	0～8 の間での設定をおすすめします。
【 ネットワーク通信QoS】	動画の滑らかさ優先、画質優先、自動設定 の3つから選択できます。設定に従い、ネットワークは自動的にストリームを調整します。
【高速オンラインダウンロード】	インターネットのプロードバンドが許可されれば、ダウンロードスピードは通常の 1.5～2 倍となります。
【ポート設定】	
【HTTP ポート】	デフォルトは 80 です。
【TCP ポート】	デフォルトは 8000 です。設定変更可能です。
【UDP ポート】	デフォルトは 8001 です。設定変更可能です。
【UPnP】	ルーターのプロトコルが自動的にポートマッピングを行う機能です。ルーターのUPnP機能がオンになっていることを確認してください。 詳細設定は6.2.1UPnP機能を参照して下さい。
【マルチキャスト】	マルチキャストを選択し、割り込みをチェックし、ダブルクリックでマルチキャスト設定画面を開きます。マルチキャストのグループを設定します。マルチキャストIPアドレスの権限は次のとおりです。マルチキャストのポートには制限はありません。

<p>【Email】</p>	<p>メール送信者のSMTP サーバーのIPアドレス、ポート、ユーザー名、パスワード及び送信者のメールボックス、SSL暗号化の設定をします。メールの件名は英語、中国語、数字の入力をサポートします。最大32文字入力できます。最大3つの受信アドレス及びSSL暗号化メールボックスをサポートします。</p>
<p>【FTP】</p>	<p>FTPを選択し、設定をクリックしてFTP設定に入ります。FTP サーバーのIPアドレス、ポート、リモートフォルダの設定をします。リモートフォルダが空の場合、システムは自動的にIP、時間、チャンネルごとにフォルダを作ります。ファイルのサイズ、チャンネル、時間、タイプなどを設定します。FTPファイルの長さを設定します。ファイルの長さが設定の範囲内であれば、録画ファイルを全てアップロードできます。設定値を超える場合、開始～設置値までの長さでアップロードされ、後の部分は削除されます。0 に設定すると、録画ファイルが全てアップロードされます。別々のチャンネルに2つの時間帯、3つの録画タイプを設定できます。</p>

ネットワーク状態

DHCP、PPPoE、IPの状態を表示します。

4.4.4 アラーム設定



<p>【アラーム入力チャンネル】</p>	<p>アラーム入力チャンネルを選択します。</p>
<p>【ネーブルスイッチ】</p>	<p>チェックを入れるとアラーム入力がオンになります。</p>
<p>【デバイスタイプ】</p>	<p>アラーム回線を選択します。常にオンのタイプ、常にオフのタイプの2つがあります。</p>

【処理方式】

処理方式をクリックするとアラーム連動処理の設定画面に入ります。

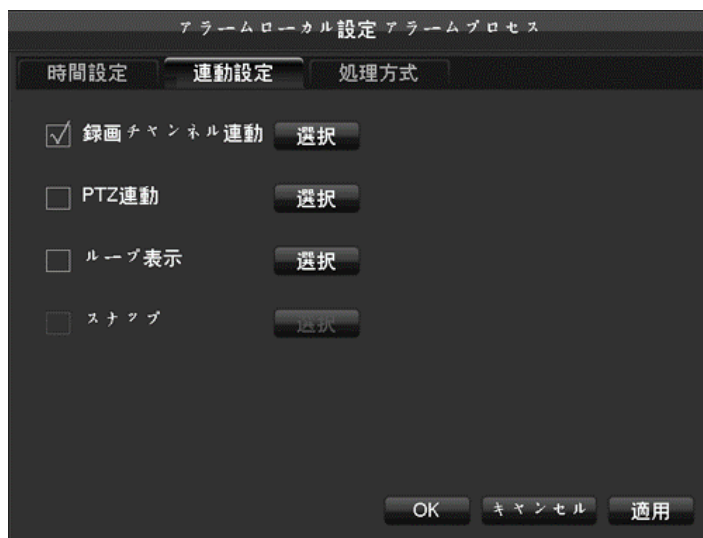


【時間設定】

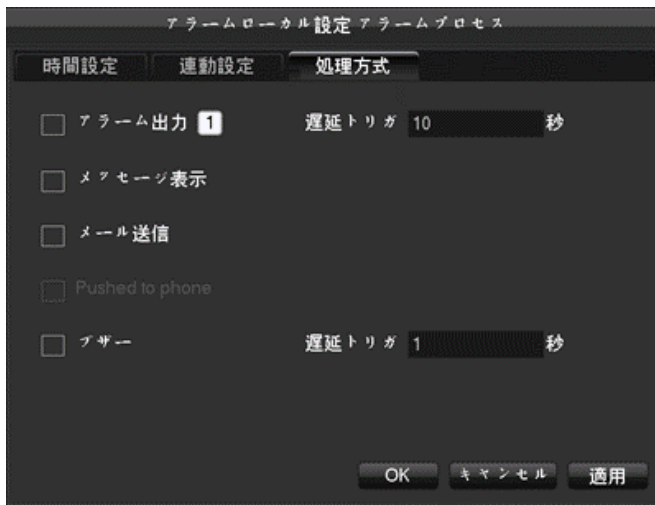
アラームを有効にする時間帯を曜日ごとに設定できます。



【連動設定】	録画チャンネル、PTZ、巡回、スナップショットの連動のオン/オフを切り替え、チャンネルを選択します。
--------	--



【処理方式】	アラーム出力、メッセージの表示、メール送信、ブザーをオン/オフにできます。 アラームのキャンセルは 10～300 秒後に実行されます。 注：アラーム機能がない製品もあります。製品規格をご覧ください。
【ダイナミック検知】	動画中の被写体の動きを検出し、設定によってはアラームが発動します。
【エリア設定】	全部で396エリア（22×18）のマスク設定ができます。設定されたエリア内ではダイナミック検知は機能しません。
【感度】	6段階で変更可能です。
【処理方式】	ローカルアラームと同じです。
【プレビュー】	現在の設定でのアラームのプレビューができます。
【動画紛失】	動画の紛失箇所を検出し、設定によってはアラームが発動します。



4.4.5 ユーザー管理

注意事項：

- ・ユーザー名、グループ名など各項目は6文字以内にして下さい。スペースは文字に含まれません。有効な文字は英字、数字、アンダーバー(_)、ハイフン(-)、ドット(.)です。ほかの記号は使えません。
- ・ユーザーとグループの数に制限はありません。管理者のカスタマイズによって、追加・削除できます。グループのレベルは、初期設定ではuser、adminの2つです。
- ・グループとユーザーの2つのレベルに従いユーザー管理をします。
既存のグループ名、ユーザー名を使用することはできません。1名のユーザーが複数のグループに入ることはできません。



<p>【ユーザーの追加】</p>	<p>グループのユーザーを追加、及びユーザーの権限を設定します。</p> <p>初期設定では Admin、user、そして隠しユーザーのdefault の3つのユーザーがあります。Admin、userのパスワードは 123456です。admin は管理権限のあるユーザーとなります。</p> <p>user は監視、再生権限のみを持ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ default : このユーザーはシステムで使用されるので、削除できません。ログインユーザーがない状態の時、システムは自動的にこのユーザーでログインします。 ・ ユーザーは権限変更でログインを省略できます。 ・ ユーザー追加画面に入り、ユーザー名とパスワードを入力し、所属グループと複数ログインオプションを選択します。複数ログインとは同時に複数のクライアントが同じユーザー名でログインすることです。 ・ ユーザーは1つのグループにのみ所属できます。ユーザーの権限は所属グループの権限を超えることはできません。
<p>【ユーザーの変更】</p>	<p>グループ中のユーザーの情報や権限を変更します。</p>
<p>【グループの追加】</p>	<p>グループの追加及びグループの権限を設定します。</p> <p>グループの追加画面に入りグループ名を決定したら、以下のものを含む60の権限を設定出来ます。</p> <p>コントロールパネル、シャットダウン、リアルタイム監視、再生、録画、バックアップ、PTZコントロール、アカウント、システム情報検索、アラームの入出力設定、システム設定、ログの検索、ログの削除、アップグレード、操作権限</p>
<p>【グループの変更】</p>	<p>既存グループの情報を変更できます。</p>

<p>【パスワードの変更】</p>	<p>ユーザーのパスワードを変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー名を選択し、旧パスワードを入力して、新しいパスワードを確認も含め2回入力します。 ・【保存】をクリックして、パスワードの変更を確認できます。 ・パスワードは1～6文字の数字・英字・記号で設定できます。最初と最後にスペースの入ったパスワードは無効となります。 ・管理権限を持つユーザーは自分以外の他のユーザーのパスワードを変更することができます。
-------------------	--

4.4.6 異常管理設定



<p>【HDDなし】</p>	<p>ハードディスクが存在しない、またはハードディスクを認識できない場合にアラームが作動します。</p>
<p>【HDD容量なし】</p>	<p>ハードディスクの容量が設定値より少なくなった場合にアラームが作動します。</p>
<p>【ネット切断】</p>	<p>ネットワークに接続されていない場合にアラームが作動します。</p>
<p>【IPコンフリクト】</p>	<p>IP アドレスの競合が生じた場合にアラームが作動します。</p>
<p>【HDDエラー】</p>	<p>ハードディスクの読み込み、出力時にエラーになった場合にアラームが作動します。</p>
<p>【処理方式】</p>	<p>【アラーム出力】、【パネルに表示】と【メール送信】に連動します。</p>

4.5 保存管理

4.5.1 ハードディスク管理

電源を入れ、リアルタイム監視画面に入った後マウスの右ボタンをクリックすると、ハードディスクのメンテナンスと管理ができます。



HDD管理

現在のハードディスクの総容量、余り容量と動作状態を表示します。



HDDセットアップ



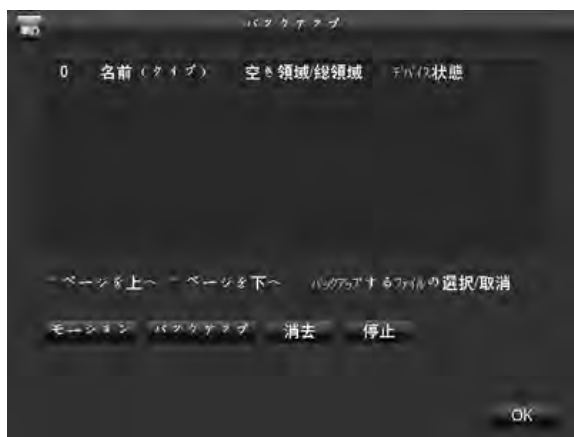
録画

録画のメニューです。ハードディスクの録画開始・終了時間を表示します。



4.5.2 録画バックアップ

録画バックアップメニューでUSBメモリへのバックアップ操作をします。画面は図 4-25 のとおりです。



【モーション】	USBメモリを入れ、USBメモリが正確に認識されているか確認します。認識されたら、リストで対応するデバイスと容量が表示されます。
【バックアップ】	バックアップする外部機器にチェックを入れ【バックアップ】をクリックでメニューに入ります。図 4-26 のとおりです。

4.6.1 PTZ設定

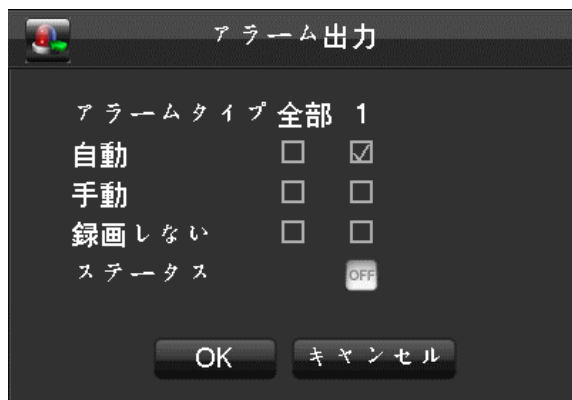
このメニューではPTZチャンネル、プロトコル、アドレス、ボーレート値などの設定ができます。最初に、PTZアドレスの設定とPTZのA、BケーブルとDVRが正しく接続されているか確認してください。設定画面は図 4-28 のとおりです。



【チャンネル】	PTZカメラのチャンネルを選択します。
【プロトコル】	対応するタイプのPTZプロトコルを選択します。（例：PELCO D）
【カメラID】	対応するPTZアドレスを選択します。デフォルトでは 1 です。 （注：このアドレスがPTZアドレスと一致していなければ、PTZコントロールができません。）
【ボーレート】	PTZのボーレートを選択し、対応するチャンネルのPTZとカメラをコントロールします。デフォルトでは9600です。
【データビット】	デフォルトでは 8 です。
【ストップビット】	デフォルトでは 1 です。
【パリティ】	デフォルトでは「なし」です。

4.6.2 アラーム出力

このメニューではアラーム出力のパラメータを管理し、アラーム出力状態を表示します。



【アラームタイプ】	アラームのポート番号を表示します。
【自動】	自動モードを選択すると、アラーム出力メニューの連動設定によりコントロールされます。
【手動】	手動モードを選択すると、アラーム出力がオンになり、再起動してもその他の設定に影響されません。
【録画しない】	停止を選択すると、アラーム出力はオフになり、再起動してもその他の設定に影響されません。
【ステータス】	アラーム出力の現在の状態を表示します。

4.6.3 シリアルポート設定

シリアルポート設定画面



【機能】	<p>対応するシリアルポートの操作プロトコルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTZマトリックス： PTZマトリックスをコントロールします。
------	--

4.6.4 表示モード

示モードでは本機の表示・巡回形式を設定出来ます。

メニュー表示



【透明】	メニューの透明度を透明、半透明、やや透明、不透明の4つのパターンに調整できます。
【チャンネル名】	チャンネル名を修正できます。 1) チャンネル名は48文字以内の半角英数字または記号にして下さい。 2) 複数チャンネル表示時のエラーを避けるため16文字以上に設定しないことをおすすめします。
【時間表示】	スクリーンに時間を表示するかどうかを選択します。
【チャンネル表示】	スクリーンにチャンネル名を表示するかどうかを選択します。



【VGA 出力】	VGA出力の解像度と更新頻度を800×600@60Hz、1024×768@60Hz、1280×1024@60Hz、1440×900@60Hz の4種類から選択します。デフォルトでは 1024×768@60Hz です。
【TV画質調整】	TV 出力のエリアを調整します。画像サイズをモニターに合わせて下さい。
【VGA TVカラーセット】	モニターの色、明るさ、コントラスト、彩度を調整できます。
【TV カラーセット】	監視モニターまたはTVの色、明るさ、コントラスト、彩度を調整できます。

クルーズ設定



本メニューでは巡回モードと間隔を設定できます。巡回の間隔は 5～120秒、巡回画面数は1、4、8、9、16から選択できます。

【モーションクルーズ】	モーション検知巡回モードの設定をします。
【アラームクルーズ】	アラーム巡回モードの設定をします。

注 ショートカットの設定：モニター画面の右上のボタンをクリックまたはShiftキーを押して巡回操作の切り替えができます。

4.7 メンテナンス管理

メンテナンス管理画面に入ります。画面は図 4-34 のとおりです。



4.7.1 ログ情報

【ログ】ユーザーが検索しやすいよう、システムのログを表示します。



ログの種類にはシステム操作、設定、データ管理、アラーム、録画、ユーザー管理、ログの削除、ファイル操作があります。

検索したいタイプと時間を選択し、検索ボタンを押すと記録されたログがリストで表示されます。バックアップボタンを押すとログをパソコンに転送することができます。

削除ボタンをクリックすると、すべてのログが削除されます。

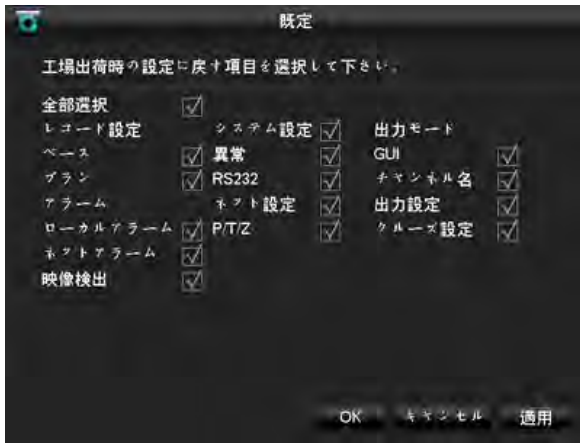
4.7.2 バージョン情報

【ログ】ユーザーが検索しやすいよう、システムのログを表示します。

【バージョン情報】	ソフトウェアのバージョンなど特徴を表示します。
【アップグレード】	アップグレードするファームウェアを含むUSBデバイスを接続し【アップグレード】をクリックします。
注：アップグレードすると起動時に正常に作動しない可能性があります。	

4.7.3 初期化

【規定】システムを初期化の状態に戻します。（項目を選択出来ます。）



注：メニューの透明度、言語、日時形式、ビデオ形式、IPアドレス、ユーザーIDなどは初期化できません。

4.7.4 ストリーム情報

録画ファイルの参考容量を表示します。各チャンネルのストリーム統計を波形で表示します。

注：統計データ値はあくまで参考のものです。

4.7.6 オンラインユーザー

【オンラインユーザー】現在のオンラインユーザーの状態、ログアウト、マスクを確認できます。

4.8 シャットダウン

【オンラインユーザー】現在のオンラインユーザーの状態、ログアウト、マスクを確認できます。



【ログアウト】	ログアウトします。
【シャットダウン】	シャットダウンします。
【再起動】	再起動します。

5. WEB 及びクライアント

5.1 WEB 操作

5.1.1 ネットワーク接続

(7000 シリーズの場合) モニターを見てネットワーク接続状況を確認して下さい。🔌 のマークが出ていれば接続はされていません。

(8000 シリーズの場合) 前面パネルのライトBが点灯していればネットワークに正常に接続されています。

- ・パソコンとDVRにそれぞれIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定します。ルーターが無い場合、同じインターネットIPアドレスを分配して設定してください。ルーターがある場合は、対応するゲートウェイとサブネットマスクを設定してください。DVRのネットワーク設定の詳細については【設定管理】→【ネットワーク設定】を参照してください。
- ・IPアドレスが正確に設定されていることを確認したら、「ping」を使用してDVRが正常にネットワーク接続されているか確認してください。

5.1.2 ActiveXコントロールのインストールとログイン、ログアウト

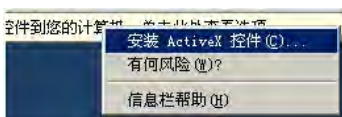
DVRのネットワーク接続が正常に完了したら、IEブラウザでDVRに遠隔アクセスが可能になります。

次のような画面が表示されたら、IEブラウザにDVRのIPアドレスを入力して下さい。



ブラウザに ActiveX のインストール画面が表示されたら、画面を右クリックして「インストール」を選択し、クリックしてインストールします。

インストールが拒否された場合、ブラウザのセキュリティレベルを下げる、または信頼するサイトからIPアドレスを入れて下さい。



インストール完了後、ユーザー名とパスワードを入力してログインします。ログイン後のブラウザ画面は図 5-3 のとおりです。

“ログアウト”ボタンをクリックするとログアウトします。



Win 7 ActiveXコントロールが未登録と表示された場合、画面下の表示ボックスからインストールしてください。

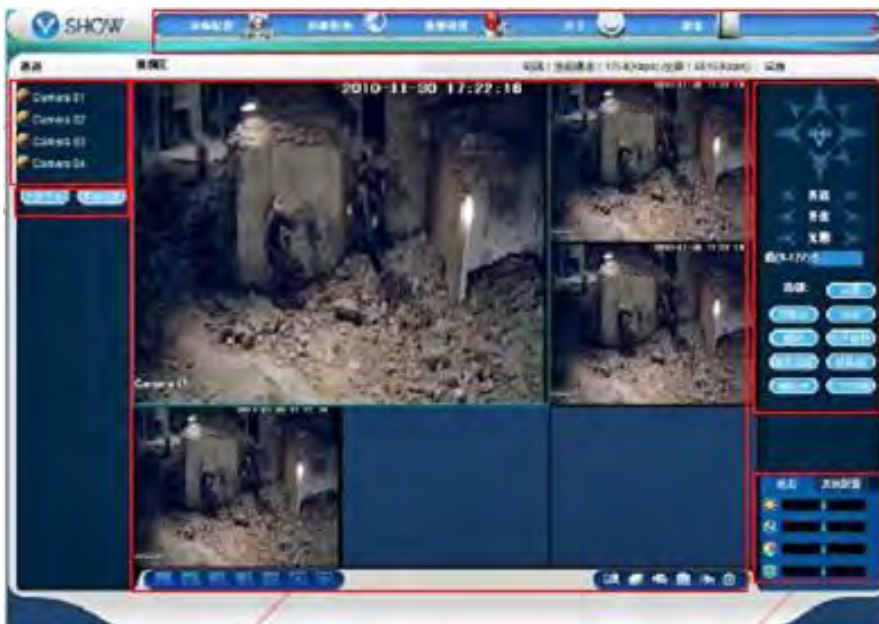
隠しチャンネルを設定している場合は再設定が必要です。

ツール→互換表示設定→すべてのWebサイトを互換表示で表示する (E) をチェックして閉じてください。

5.1.3 WEB 操作画面

DVRのネットワーク接続が正常に完了したら、IEブラウザでDVRに遠隔アクセスが可能になります。

次のような画面が表示されたら、IEブラウザにDVRのIPアドレスを入力して下さい。



番号	タイプ	説明
1	チャンネル	チャンネルを選択します。
2	機能キー	ローカル再生： ローカルの録画ファイルを再生できます。 すべてオープン： すべてのチャンネルの監視画面を表示します。
3	監視ウィンドウ	ウィンドウの配置を変えることができます。
4	画像色とその他の設定	画像色： 画像の明度、コントラスト、彩度を変更します。 その他： プリントスクリーンの保存ルート、録画ダウンロードの保存ルート、再起動の設定ができます。
5	PTZコントロール	PTZコントロールメニュー
6	メニュー	システム設定、録画検索、アラーム設定、ログアウト等

5.1.4 リアルタイムビデオ監視

WEB 操作画面に入ったら、監視ウィンドウでフォーカスウィンドウを選択します。フォーカスウィンドウの罫線は水色です。

左側のチャンネル欄からチャンネルを選択します。画面は図 5-4 のとおりです。




画面右上のエリア2 をクリックするとメインストリームまたは補助ストリームのオンとオフを選択出来ます。画面は図 5-5 のとおりです。DVRのIP情報と現在のストリーム情報が表示されます。









画面左下に現在監視中のビデオのチャンネル名が表示されます。

画面右上に現在監視中のビデオの時間が表示されます。

画面左下の  をクリックでチャンネル画面数を切り替えます。

画面右下に機能キーがあります。図 5-6 のとおりです。拡大、チャンネル画面数の切り替え、ローカル録画、スクリーンショット、ミュートの機能があります。

	拡大	監視画面を拡大できます。
	チャンネル画面数の切り替え	チャンネル画面数の切り替え：監視するビデオ画面の数を切り替えます。
	ローカル録画	リアルタイム監視中、同時にパソコンに録画を保存します。録画ルートはその他の設定で設定します。
	スクリーンショット	現在のチャンネルのスクリーンショットを記録します。画像の保存ルートはその他の設定で設定します。
	ミュート	音声のオンとオフを切り替えます。
	閉じる	ビデオのフォーカスウィンドウを閉じます。



機能キーエリア

5.1.5 PTZコントロール

PTZコントロールを使用する前にPTZプロトコルを設定する必要があります。

【周辺機器設定】→【PTZ設定】を参照してください。

PTZの方向、ステップサイズ、ズーム、フォーカス、絞り、プリセットポイント、ポイント間クルーズ、ライト、ワイパー等のコントロールができます。

ステップサイズはPTZの方向とスピードをコントロールします。

例：ステップサイズ8の回転スピードはステップサイズ1よりも速くなります。

PTZの方向は上、下、左、右、左上、右上、左下、右下の8方向となります。



操作：方向キーでカメラを動かして位置を決め、プリセットポイントの入力ボックスでプリセット値を入力します。そして追加をクリックして保存します。

・ポイント間クルーズ

操作：ポイント間クルーズの入力ボックスでクルーズルート値を入力します。そして、プリセットポイントの入力ボックスでプリセット値を入力し、追加をクリックして保存します。

複数のプリセットポイントを何度でも追加できます。削除をクリックするとプリセットポイントを削除できます。

・クルーズパターン

操作：クルーズパターンをクリックして作動させ、PTZコントロールメニューでズーム、フォーカス、絞り、方向などを変更します。

そして、クルーズパターン設定メニューに戻り停止をクリックするとクルーズパターンの設定が完了します。

・補助

補助項目の一つを選択して、オンまたはオフをクリックしてください。

・ワイパー

PTZプロトコルがライトワイパーをサポートする場合、ライトワイパーのオンとオフの切り替えができます。

5.1.6 システム設定

【システム設定】をクリックし、DVRのローカル設定メニューに入ります。画面は図 5-8 のとおりです。

詳細は4 ローカル操作マニュアルを参照してください。



6 拡張機能の詳細

6.1 DDNS 機能

6.1.1概要

ダイナミックDNS はインターネット上のドメイン名にIPアドレスを動的に割り当てるシステムです。インターネットドメイン名のルールに従い、ドメイン名は固定IPアドレスと関連付ける必要があります。ダイナミックDNSシステムはダイナミックドメインに固定ネームサーバを提供します。そして、ネームサーバを通してIPアドレスにドメインサーチを導き出します。これで外部のユーザーでもダイナミックユーザーのIPとの接続が可能になります。

6.2.1 UPnP 機能

パブリックネットワークを通してローカルエリアネットワークのDVR機器にアクセスするため、ルーターを設定し、DVRのNAT（ネットワークアドレス変換）ができるようにする必要があります。

UPnP機能を使えばDVRの内蔵UPnPプロトコルで自動的にネットワークアドレス変換が可能です。ルーターを設定する必要はありません。

注：UPnP機能を利用するにはUPnP機能をサポートするルーターが必要です。

ステップ1：

ルーターをネットワーク接続し、ルーターのコントロールメニューに入り、ルーターの設定をして、UPnP機能をオンにします。

ルーターの仕様はメーカーによって違いがありますので、設定する前にルーターの説明書をよく読んで下さい。

ステップ2：

DVRとルーターを接続すると、自動的にIPアドレスまたは静的IPの取得を開始します。

IPの設定が完了したら、【高度な設定】の【ネットワーク通信能力、ポート、マルチキャストなど】オプションで【UPnPポートマッピング】をオンにします。

DVRのデフォルトでのアクセスポートはHTTPポート 80 とTCPポート 8000です。このポートは他のローカルエリアネットの機器を使用する場合【ネットワーク通信能力、ポート、マルチキャストなど】でDVRのポートを未使用ポートに変更してください。

ステップ3：

ルーターの管理画面に入り、ポートが自動的にDVRのポートマッピングルールを追加しているか確認してください。追加されていれば、UPnP機能の設定は成功です。

ステップ4：

IEブラウザにパブリックネットワークのIPアドレスを入力します。そしてアクセスしたいDVRのポート番号を入力します。

（例：155.157.12.227:81） クライアントソフトウェアから入る場合、エクストラネットの提供するTCPポートを使用して下さい。

注：複数のDVRのUPnP機能を設定する場合、IPの衝突を避けるためそれぞれ違ったポート番号を入力しなければなりません。同じポート番号にすると、優先設定したDVRが最初に選択されません。

6.2.2 手動ポートマッピング

ステップ1：

DVRをルーターと接続し、静的IPを設定します。

ステップ2：

ルーターにログインし、ルーターの設定メニューからルーターの設定をします。そしてポートのメニューに入り、DVRのIPを設定します。

ポートマッピングルールを設定し、DVRのHTTP、TCPポートをマッピングリストに追加します。DVRのデフォルトでのアクセスポートは HTTPポート 80 と TCPポート 8000です。このポートは他のローカルエリアネットの機器を使用する場合【ネットワーク通信能力、ポート、マルチキャストなど】でDVRのポートを未使用ポートに変更してください。

ステップ3：

IEブラウザにパブリックネットワークのIPアドレスを入力します。そしてアクセスしたいDVRのポート番号を入力します。

（例：http://155.157.12.227:81）クライアントソフトウェアから入る場合、直接エクストラネットの提供するTCPポートを使用できます。

注：詳細設定はルーターの説明書を参照してください。

6.3 NTP 機能

NTP機能をオンにします。DVRを正確な時間で使えるよう、DVRとサーバーの時刻を同期する機能です。

6.3.1 ネットワーク設定

【設定管理】→【ネットワーク設定】から【高度な設定】オプションページを選択し、【NTP設定】をクリックで設定できます。

DVRのインターネット接続が成功したら、ネットワーク上の標準NTPサーバーを時間ソースにしてNTPサーバーを利用できます。NTP設定でサーバーに対応するIPアドレス、ドメイン名を入力してください。

NTPを有効にするには、「有効にする」をクリックしてください。

時間校正の間隔は 1～65535 分間です。

6.3.2 専用ネットワーク環境の設定

DVRが専用ネットワークの環境下にある時、NTPサーバーはDVRの時間をソースにします。

DVRの設定で、NTPサーバーアドレスは専用のものを入力してください。

専用NTPサーバーは標準NTPや時間の正確なPCシステムシステムを利用することもできます。

PCシステムをNTPサーバーとして使う方法は下記のとおりです。

Windows でのNTPサーバーのセットアップ

“スタート”→“ファイル名を指定して実行”（または Win+Rキー）を選択し、“regedit”と入力してレジストリエディタに入ります。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥W32Time¥Parameters registry subkey で DWORD Value の値を追加します。その値を1に変更して保存してください。

その後コンピュータを再起動します。

6.4 PTZコントロール

PTZコントロールメニューから、PTZの方向、ステップサイズ、ズーム、フォーカス、絞り、高度な機能、補助機能、カメラ設定をコントロールします。



ステップサイズ：

PTZの方向とスピードを操作します。例：ステップサイズ8の回転スピードはステップサイズ1より速くなります。（数値は数字パネルをクリックまたは前面パネルのキーで1-8を押して決定します。最大は8です）

直接ズーム、フォーカス、絞りの +・- キーをクリックして拡大、縮小、解像度、明るさを調節できます。

PTZの回転は8方向です。（前面パネルでの操作では、上下左右の4方向のみです。）

クイックロケーション：方向を示す矢印の中央の「SIT」はクイックロケーションキーです。

この機能をサポートするプロトコルを確認して下さい。マウスのみでの操作となります。

画面上をクリックすると、PTZはその点まで回転し、画面の中央に映し出されます。

クイックロケーション画面をマウスでドラッグし拡大・縮小ができます。4～16倍ズームが可能です。画面を拡大する場合マウスを左上から右下までドラッグします。縮小する時はマウスを右下から左上にドラッグします。ドラッグするボックスが小さいほど、ズームの倍数は大きくなります。大きくドラッグするとズーム倍数は小さくなります。

高度な機能

ページ切替をクリックして、高度な機能のメニューに入ります。画面は図 6-4 のとおりです。

プリセットポイント：プリセットポイントの入力ボックスで事前に設定したプリセットポイントの値を入力し、【プリセットポイント】をクリックで呼び出します。

ポイント間クルーズ：ポイント間クルーズ入力ボックスでクルーズルート値を入力し、【ポイント間クルーズ】をクリックして呼び出し、クルーズを開始します。【停止】をクリックで停止します。

クルーズパターン：

クルーズパターン入力ボックスでクルーズルート値を入力します。【クルーズパターン】をクリックして呼び出し、カメラは自動的に設定されたクルーズで繰り返し移動します。右クリックでメニューを隠すことができます。メニューの方向キーでクルーズパターンを停止できます。

ラインスキャン：

メニューに入り【ラインスキャン】をクリックすると、事前に設定したラインルートでラインスキャンを開始し、【ラインスキャン】ボタンが【停止】ボタンに変わります。右ボタンをクリックでメニューを隠すことができます。ラインスキャンを停止する時は【停止】ボタンをクリックします。



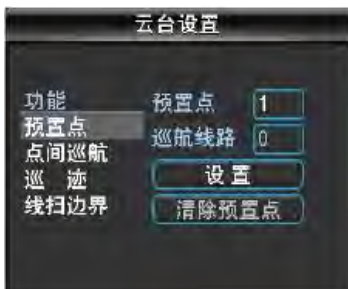
補助機能

【ページの切替】をクリックし、補助機能設定画面に入ります。
 (補助機能のオプションは使用可能なプロトコルに対応します) 図 6-5のとおりです。
 補助番号はデコーダの補助スイッチに対応しています。



PTZの設定

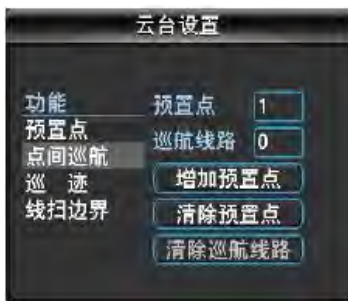
PTZコントロールメニューで【設定】ボタンをクリックしてPTZコントロールの設定画面に入ります。【プリセットポイント】、【ポイント間クルーズ】、【クルーズパターン】、【ラインスキャン枠】などを設定できます。サポートしていない機能はメニュー上にグレーで表示され、選択できません。



【プリセットポイント】の設定：画面は図 6-6 のとおりです。方向キーでカメラを移動させ、【プリセットポイント】ボタンをクリックして、プリセットポイントの入力ボックスでプリセット値を入力します。【設定】ボタンをクリックして設定を保存します。

【ポイント間クルーズ】の設定：【ポイント間クルーズ】ボタンをクリックします。画面は図 6-7 のとおりです。クルーズの入力ボックスでクルーズの値を入力し、プリセットポイントの入力ボックスでプリセットポイントの値を入力します。【プリセットポイントの追加】ボタンをクリックすると、そのクルーズにプリセットポイントを追加します。この操作を繰り返し行うと複数のプリセットポイントを追加できます。

【プリセットポイントの削除】ボタンをクリックすると、そのクルーズのプリセットポイントを削除できます。この操作を繰り返し行うとクルーズの複数のプリセットポイントを削除できます。（プリセットポイントの削除機能をサポートしないプロトコルもあります。）



【クルーズパターン】の設定：【クルーズパターン】ボタンをクリックします。画面は図 6-8 のとおりです。【開始】ボタンをクリックして、【ズーム】、【フォーカス】、【絞り】などの変更のためPTZコントロールメニューに戻ります。下のメニューに戻り【終了】ボタンをクリックして終了します。



【ラインスキャン枠】の設定：【ラインスキャン枠】をクリックします。画面は図 6-9 のとおりです。方向キーでスキャンする左枠を選択してメニューの【左枠】ボタンをクリックします。次に方向キーでスキャンする右枠を選択してメニューの【右枠】ボタンをクリックするとラインスキャン枠の設定が完了します。



6.4.2 カメラの設定

【ページ切替】をクリックしてカメラの設定メニュー画面（この設定サポートしないプロトコルもあります）に入ります。

【メニューに入る】をクリックで設定メニューに入り、【戻る】をクリックで戻ります。

【ページ切替】をクリックすると図 6-3 PTZコントロール の画面に戻ります。

方向キーは主にメインメニュー内部の操作に使用します。プロトコルに対応する操作が表示されます。（サポートしない操作はグレーで表示されます。）上下キーはメニューの切替、左右キーは機能の変更に使用します。



6.5 音声通信

6.5.1 概要

DVRのローカルの音声の入出力ポートを通じたネットワークまたはリモートクライアントソフトウェアでDVRの双方向の音声通信ができます。

リモートクライアントまたはWEBで音声通信する時、DVRはローカルの音声出力ポートで音声を出力できます。

音声通信には多重チャンネルと独立チャンネル2つのタイプがあります。他のDVRのモデルについての詳細は商品の仕様を参照してください。

6.5.2 概要

DVRのローカル設定

マイクをDVRの MIC 入力ポートに接続します。音声出力ポートにはスピーカーなどの出力機器を接続します。

DVRに独立MIC音声入力ポートが無い場合、マイクを音声入力ポート1に接続してください。

注：ローカル出力の場合は、音声出力装置が必要です。

リモート PC 設定

マイクとスピーカーをパソコンの接続ポートに接続します。

使用

クライアントまたはWEBをオンにして、音声通信をクリックすると音声通信ができます。

6.6 冗長ハードディスク

冗長ハードディスクの機能では録画ファイルのバックアップができます。ハードディスクが壊れても、冗長データで録画ファイルを復旧でき、データの安全を保証します。

本製品の冗長ハードディスク機能では指定したチャンネルの冗長ハードディスクのデータを二重バックアップしますので、独立ハードディスクが必要です。

冗長ハードディスク設定

DVRのメインメニューを開き、保存設定に入ります。

冗長ハードディスクを1つ選択し、【設定】をクリックします。

冗長ハードディスクは独立ハードディスクにしなければなりません。複数のハードディスクを冗長ハードディスクグループに設定できます。冗長ハードディスクを設定すると、録画データは通常のハードディスクと冗長ハードディスクの両方に記録されます。

冗長ハードディスクの録画データは自動的に循環書き込みされます。書き込みサイクルの時間は録画データと冗長ハードディスクの容量によって決まります。

注：冗長ハードディスクを設定する前にDVRの中に少なくとも2枚ハードディスクがあるか確認して下さい。1枚は読み書き用、もう一枚は冗長ハードディスクです。

チャンネルの冗長設定

本製品は一部またはすべてのチャンネルを選択して冗長バックアップを設定できます。【設定管理】→【録画設定】から、冗長バックアップするチャンネルを選択し、【冗長】のチェックボックスにチェックを入れて設定します。

注：冗長機能をオフになっている時、チャンネル中のデータは通常のハードディスクにのみ記録され、冗長ハードディスクにはバックアップされません。

冗長ハードディスクからのデータ復旧

読み書き用のハードディスクが壊れたり、録画データを失った時、冗長ハードディスクから保存した録画データを呼び出すことができます。まずDVRをシャットダウンし、壊れたハードディスクを取り外して再起動します。【メインメニュー】→【アクセス管理】に入り、冗長ハードディスクを読み書き用として設定します。

録画再生で対応するチャンネルを検索し、再生できます。

7.3 よくある質問

DVRを起動できないまたは自動で再起動してしまう。

原因と解決策：

1. 間違ったプログラムをアップデートしたため、ソフトウェアが壊れた。
2. DVRのマザーボードの故障です。販売店に連絡してください。
3. HDDの故障です。HDDを交換してみてください。

PTZコントロールできない。

原因と解決策：

1. RS-485 のケーブル接続エラーです。AとBのポートを逆に接続している可能性があります。
2. PTZデコーダタイプ、プロトコル、ボーレート、アドレスの設定を間違えている。
3. 複数エンコーダが接続されている時、PTZエンコーダのケーブルを120Ωの距離で追加接続すると、反射を削減することができます。
4. RS-485 ポートが壊れている。

DVRのプレビュー画像が鮮明でない

原因と解決策：

ビデオフォーマットがカメラと合っているか確認して下さい。例：カメラが NTSC で、DVRが PAL の場合、画像が鮮明に表示されません。

再生モードで画像が出てこない、または画像が鮮明でない。

原因と解決策：

1. プログラムの手順を誤っている。再起動が必要です。
2. HDDデータのエラーです。ハードディスクをチェックまたは交換して下さい。
3. DVRハードウェアの故障です。販売店に連絡してください。

DVRをネットワーク接続できない。

原因と解決策：

1. ネットワーク接続環境をチェックしてください。
2. DVRのネットワーク設定パラメータを確認してください。
3. ネットワーク内にIPの衝突がないか確認してください。

ダウンロードした録画を再生できない。

原因と解決策：

1. プレーヤーを正確にインストールしていない。
2. USB、HDDのエラーです。
3. DX8.1 以上のバージョンを使ってください。

IMS200 監視システム ユーザーマニュアル

1. 注意

- 本製品はバージョンアップすると本書内容と異なる可能性があります。
- 本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一内容の誤り、記載もれなどがあっても保証できかねますので、あらかじめご了承ください。

2. 前書

《IMS200 ユーザーマニュアル》 IMS200 監視プラットフォームのクライアントの特徴、ユーザーの配置と操作を紹介します。製品を使用する前に必ずこのマニュアルをお読み下さい。




本書の規約

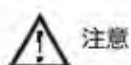
1. マニュアル中の記号の規約

モード	説明
[]	“ [] ” はウィンドウ名、メニュー名、データ表を表します。 例：[新規ユーザー]
[]	“ [] ” はボタン名を表します。 例：【確定】ボタンをクリック。

2. アイコン

本書は各種アイコンにより、操作する時に注意する内容を表示します。
アイコンの説明は次の通りです。

アイコン	説明
 説明	操作についての必要な説明です。
 警告	不適切な操作による事故を防ぐためこのアイコンがついているところは注意してください。
 注意	操作する時の注意事項です。不適切な操作によるデータの紛失あるいは機器の故障の恐れがある内容を示します。



目次

1. 注意	1
2. 前書	1
3. システム紹介	2
3-1 システム概要	7
3-2 動作環境	7
3-3 設置	7
4. プログラムのインストール	9
5. ログイン及び画面紹介	14
5-1 システムログイン	14
5-2 ライブ画面	15
5-3 クイック設定ガイド	20
6. リアルタイムビデオ再生区域	25
7. メニューの紹介	27
7-1 チャンネルリスト	27
7-2 PTZコントロール	29
7-2-1 プリセットポイント	30
7-2-2 ポイント間クルーズ	31
7-2-3 補助機能	33
7-3 監視スケジュール	27
7-3-1 監視グループ設定	34
7-3-2 監視スケジュール設定	36
7-4 設定	38
7-4-1 ログ	38
7-4-2 ローカル設定	39
7-4-2-1 録画設定	39
7-4-2-2 表示設定	40
7-4-2-3 システム設定	41
7-4-2-4 その他	42
7-4-2-5 画面出力	43
7-4-2-6 キーボード操作	44
7-4-3 入力設定	44
7-4-4 出力設定	45

目次

7-4-5 ログ	38
7-4-5-1 ライセンスユーザーのログイン	45
7-4-5-2 非ライセンスユーザーのログイン	46
7-4-6 ユーザーの権限	46
7-4-7 設定	47
7-4-7-1 デバイス検索	48
7-4-7-2 組織構造	49
7-4-8 ユーザー設定	50
7-4-9 地図設定	51
7-4-10 システム設定	54
7-4-11 録画スケジュール	54
7-5 カスタマイズツール	57
7-6 デバイス動作の表示	58
8. 機能紹介	58
8-1 検索	58
8-1-1 録画再生	59
8-1-2 録画ダウンロード	59
8-1-3 ファイル検索	65
8-1-4 アラーム検索	67
8-2 電子地図	68
8-3 デバイスの状態	69
8-4 アラーム	71
8-4-1 アラーム全般設定	79
8-4-2 アラーム区域設定	80
8-4-3 アラームスケジュール設定	81
8-4-4 アラーム運動設定	81

目次

7-4-5 ログ	38
7-4-5-1 ライセンスユーザーのログイン	45
7-4-5-2 非ライセンスユーザーのログイン	46
7-4-6 ユーザーの権限	46
7-4-7 設定	47
7-4-7-1 デバイス検索	48
7-4-7-2 組織構造	49
7-4-8 ユーザー設定	50
7-4-9 地図設定	51
7-4-10 システム設定	54
7-4-11 録画スケジュール	54
7-5 カスタマイズツール	57
7-6 デバイス動作の表示	58
9. その他機能紹介	83
9-1 画面右上のボタン	58
9-1-1 最小化	83
9-1-2 最大化	83
9-1-3 シャットダウン	84
9-2 画面分割	85
9-3 システムの状態	85
9-4 アラーム、時間、ログの表示	85
10. 付録	86
10-1 よくある質問	86

3. システム紹介

3.1 システム概要

IMS200 監視システムは高機能の監視ソフトです。マルチウィンドウ、マルチユーザー、複数の言語、音声通信、電子地図、アラームセンター、その他の拡張デバイスに対応し、マトリックス出力などの機能を一体化しています。信頼できる分かりやすい画面、良好な拡張性、等の特長があります。操作が簡単で、管理しやすい監視ソフトを提供します。

3.2 動作環境

ハードウェア条件	
CPU	P4/2.0GHz以上
メモリ	512M以上
モニター	解像度1024×768以上、 メモリ 128M 以上(DirectX 8.0 以上をサポート)
ハードディスク容量	300M 以上
ネット転送	イーサネット 10/100Mbps 、 TCP/IP または UDP/IP プロトコルと一致すること。

ソフトウェア条件	
OS	Windows XP SP2 、 Windows 2000 、 Windows 2003 、 Windows Vista 、 Windows7をサポートします。(Vista、win7 の場合、管理者による操作となります)
ビデオカードのインストールが必要です。	

DirectX の起動確認は、クライアントのパソコン「コントロールパネル」の「表示」プロパティで確認してください。



4. プログラムのインストール

1. IMS_200_Clientをダブルクリックします。



2. ガイドに従ってインストールしてください。（図 4-1 ～図 4-8参照）

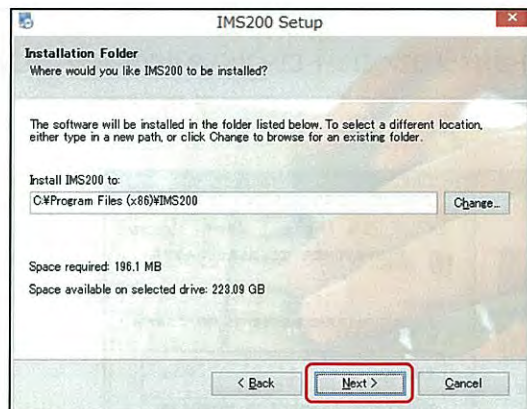
ステップ1

【次へ】をクリックします。



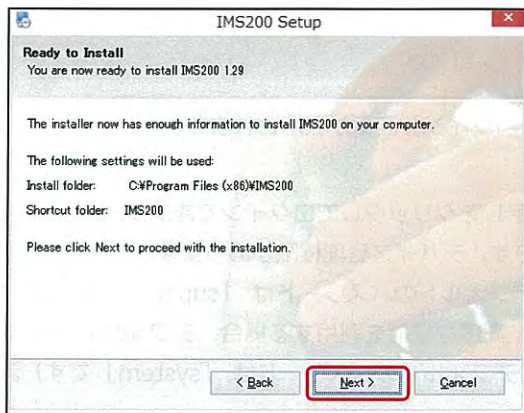
ステップ2

インストール先を変更します。デフォルトは“C:\Program Files\IMS200”です。インストール先を決定したら【次へ】をクリックしてください。

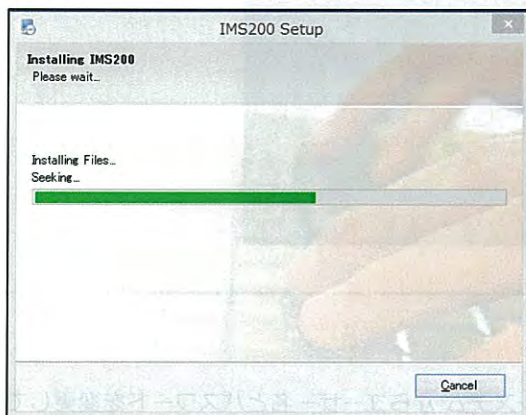


ステップ3

【次へ】をクリックします。

**ステップ4**

インストールを開始します。しばらくお待ちください。

**ステップ5**

【Finish】をクリックして終了します。

インストール完了後、下図のようなアイコンが表示されます。



5. ログイン及び画面紹介

5.1 ログイン



をダブルクリックすると、[ログイン] 画面が表示されます。

ユーザー名とパスワードを入力し【確定】をクリックしてログインできます。

デフォルトのユーザー名は「super」です。デバイス管理権限があります。

まず「super」でログインします。（デフォルトのパスワードは「super」です）ユーザーの追加、権限管理、電子地図の追加等、高度な機能を利用する場合、デフォルトの管理ユーザー「system」でログインします。（デフォルトのパスワードは「system」です）詳細は7.3を参照してください。



注意

1. ログイン後、設定 → 管理設定 → システム からユーザー名とパスワードを変更してください。
2. 設定 → 管理設定モジュールでユーザー、デバイス、電子地図などの設定ができます。詳細は7.3を参照してください。

5.2 ライブ画面

ライブ画面は図 5-2のとおりです。ライブ監視画面、メニューエリア、機能エリア、表示モード切り替えエリア、ツールエリア、コントロールボックス、日付及びアラームのエリア、システムの状態エリアに分かれています。



1. ライブ画面

リアルタイムでのビデオ再生と操作ができます。画面をひとつ選択し、右クリックすると音声通信、プリントスクリーン、録画、出力、名前を付けて保存、お気に入り、ビデオマトリックスなどの機能を利用できます。（図 5-3参照）





条件を満たす場合は以上の機能を利用できます。

2. メニューエリア

機能名称	区分1	区分2	機能と操作
設定	デバイスリスト	デバイスリスト	組織ノード、デバイス、チャンネルを表示します。
			デバイスのIP,名称,型番（カーソルをデバイスに移動）表示
			ビデオチャンネルと録画チャンネルの状態を表示します。
			ローカル録画状態を表示
			音声通信と録音
			デバイス検索とチャンネル情報
			チャンネルを再生画面に戻す。
			時間修正
			再起動
			ログインとログアウト
ActiveXコントロール			
		お気に入り	お気に入りに追加
		履歴	閲覧の履歴
	あいまい検索		あいまい検索
PTZ コントロール	コントロール機		8方向コントロール
			3D定位、レバー機能を実行します。
			ステップ、ズーム、フォーカス、絞りの調節機能
	プリセットポイント		プリセットポイントの設定と実行
	クルーズライン		クルーズの設定と実行
	補助機能		ライト、補助1、補助2など機能の実行
監視計画	監視グループ設定		監視グループの設定と実行
	監視グループスケジュール設定		監視スケジュールの設定と実行
	一時停止		監視グループと監視スケジュールの回復と一時停止
	入力・出力		監視グループと監視スケジュールの設定ファイルの入出力
	監視グループ/監視スケジュール実行		監視グループと監視スケジュールの情報を表示します。

機能名称	区分1	区分2	機能と操作
設定	ログ		クライアントの事件、操作、アラーム情報の検査、アウトプットして、保存できます。
	ローカル設定	録画設定	録画保存パス
			録画ダウンロードパス
			プリントスクリーンパス
			音声通信パス
			ファイルの録画時間
			音声通信の確認
		表示設定	ツールバーの表示を有効にするか
			電子地図上にデバイス名称を表示するか
			電子地図の最大・最小サイズ
			ログ容量
			メディア伝送プロトコル
		システム	起動時の画面の数
			組織ノード展開級数
			マルチ画面の設定
			起動時に監視グループの設定を実行
			システム起動モードの設定
		その他	再生の時間設定を戻す
	自動で時間修正の設定		
	修正誤差の設定		
	デバイス実行時表示内容		
	言語設定		
	モニター出力	モニターアウトプットの設定	
コントロールボード	コントロールボードのシリアルポート設定		
関連	クライアントバージョン情報と著作権		
入力		セットアップファイルの入力	
出力		セットアップファイルの出力	
パスワード変更		パスワードの変更	
ユーザーライセンス		ユーザーによる権限の制限を設定	
デバイス設定		デバイスの追加、修正、削除などの操作	
ユーザー設定		ユーザーの追加、修正、削除などの操作	
地図設定		電子地図の追加と編集	

機能名称	区分1	区分2	機能と操作
	システム設定		ルール、ログ、ライセンス、ユーザーパスワード、DDNSなどの操作
	録画計画		録画スケジュールの設定と実行
カスタマイズツール	カスタマイズツール		直近のアラーム関連ビデオの再生
動作の表示	動作の表示		機器 IP、メーカーと動作状況の表示

3. 機能エリア

機能名称	区分1	区分2	機能と操作
アラーム	アラーム設定	エリア設定	エリアの新規作成、修正、削除
		スケジュール設定	スケジュールの新規作成、修正、削除
		エリア保存の設定	ローカルアラームをアラームエリアに設定
	連動設定	アラーム全局設定	モーション監視、カメラ遮断、ビデオ喪失、外部アラーム、アラーム、デバイス断線の設定
		アラーム連動設定	アラームデバイス、デバイスチャンネル、アラームチャンネルの追加、アラーム音、ビデオマトリックス
			アラーム出力などの連動を設定します。
		すべての連動を停止	すべての連動を停止（スマートアラームデバイスを含まない、スマートデバイス断線アラームを含む）
表示	デバイスリスト、デバイス名称	アラーム表示のソート	
設定管理	入力・出力	アラーム情報（アラームエリア、アラーム計画、全局設定、アラーム連動設定などの情報）の入出力	
リスト情報	デバイスリスト	通常のデバイスとメインアラームを表示	
	アラームエリアリスト	すべてのアラームエリアを表示	
	アラームスケジュールリスト	すべてのアラームスケジュールを表示	
	プロテクトの表示	チェックでプロテクトするデバイスを表示、再チェックですべてのデバイスを選択。VMS、CDSを含む。	
アラーム詳細情報		【アラーム】をクリックでアラーム詳細情報を表示	

機能名称	区分1	区分2	機能と操作
アラーム	デバイス情報	連動プレビュー	連動プレビュー
		手動プロテクトと取消	手動でチャンネル、デバイス、節点にプロテクトと取消の設定
		設定連動	アラームデバイス、デバイスチャンネル、アラームチャンネルのアラーム音、ビデオマトリックス、連動カメラ、アラーム出力などの規則を設定する
	アラーム情報		各タイプのアラームのシリアルポート、表示、時間、状態、イベント説明などの情報を表示、アラームの確認
検索	録画再生		四画面の中心プラットフォームとデバイスの各タイプの録画の再生をサポートします。録画の再生、フルスクリーン、録画、プリントスクリーン、同期、早送り、スロー再生の切替ができます。
	録画ダウンロード		フロントエンドデバイスまたはセンターで保存した録画をダウンロード
	ファイル検索		音声通信、ローカル録画、プリントスクリーン、ダウンロードファイルの検索
	アラーム検索		時間、タイプ、状態別にアラーム情報を検索
電子地図	電子地図		地図とビデオ情報の統合
状態	デバイスの状態		各チャンネルのストリームとプロテクトの状態を表示

4. 表示モード切り替え

機能名称	説明
表示モード	1/4/6/8/9/13/16/25/36画面/フルスクリーン/全画面を閉じる

5. ウィンドウのツール

機能名称	説明
ウィンドウのツール	録画,プリントスクリーン,色の調整,音声通信,ストリームなどのボタン

6. コントロールボックス

機能名称	説明
コントロールボックス	最小化、最大化、ライセンス、ロック、ユーザーの切替、ログアウト

7. 日付・アラーム

機能名称	説明
ショートカットエリア	時間、アラーム情報、ログ情報の表示

8. 状態

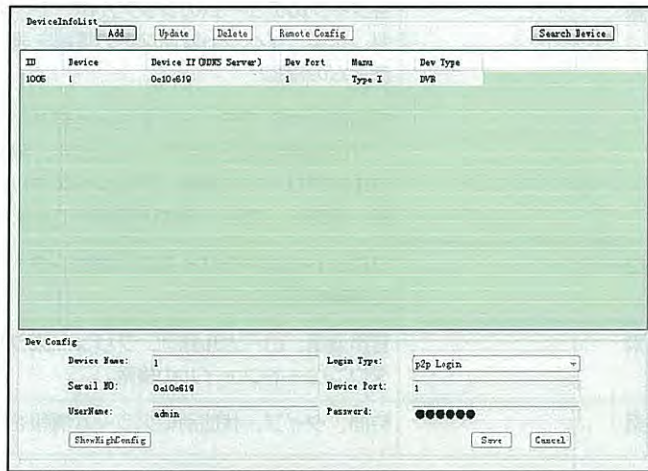
機能名称	説明
システムの動作状態	CPU、インターネットの動作

5.3 クイック設定

ユーザー「Super」でログインします。システムにフロントエンドデバイスを追加します。

1. デバイスの追加

- (1) 【設定】をクリック→【デバイス設定】→[デバイス設定]画面に入り【追加】を選択します。(図 5-4参照)



【組織ノードを選択】をクリックし[組織ノード]画面に入ります。



パスノードを選択またはその他のノードを追加してから、【確定】をクリックし [デバイス設定] ページに戻ります。

ページでデバイス名称、IPを入力します。デバイスのメーカーを選択し、ユーザーとパスワードなどを入力します。【チャンネル取得】をクリックしてデバイスのチャンネル数とアラームチャンネル数を表示してから、【保存】をクリックします。その時、上のデバイス情報リストにフロントエンドデバイスが表示されます。(注：デバイスのチャンネル数とアラームチャンネル数は手動で追加する必要はありません。【チャンネル取得】をクリックで、システムは自動でデバイスIPを追加します。デフォルトのポートは 8000です) (図 5-6参照)

The screenshot shows the 'Device Infolist' window. At the top, there are buttons for 'Add', 'Update', 'Delete', 'Remote Config', and 'Search Device'. Below is a table with the following data:

ID	Device	Device IP (DNS Server)	Dev Port	Menu	Dev Type
1005	1	0c10c619	1	Type I	DVR

Below the table is the 'Dev Config' section with the following fields:

- Device Name: 1
- Serial NO: 0c10c619
- User Name: admin
- Login Type: j2p Login
- Device Port: 1
- Password: [masked]

Buttons at the bottom include 'Show/Hide Config', 'Save', and 'Cancel'.



デバイスのメーカーのデフォルトはタイプ I です。

- (2) 【デバイス検索】でデバイスを追加します。まず、【デバイス検索】をクリックして、【デバイス組織を選択】で組織ノードを設定してから、追加するデバイスをチェックします。

The screenshot shows the 'Search Device' window. It contains a 'Device List' table with the following data:

No.	Device IP (DNS ...)	Dev Port	Menu	Mac address	Dev Type
<input type="checkbox"/> 1	192.168.0.119	8000	Type I	e0:61:b2:11:5f:82	ZL_DVR_5...
<input type="checkbox"/> 2	192.168.0.117	8000	Type I	e0:61:b2:11:c4:02	ZL_DVR_6...

At the bottom, there is a button 'Please select organization' with a dropdown menu showing 'root', and an 'Add to Device List' button.

【デバイスリストに加入】で、設定を完了させます。

2. デバイスの修正

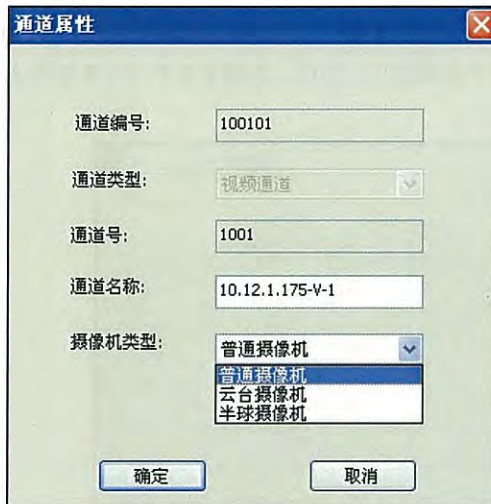
- (1) 修正：デバイスをひとつ選択し、【修正】をクリックでデバイスの情報を修正できます。
- (2) チャンネル情報：デバイスをひとつ選択し、【修正】をクリックして【チャンネルのプロパティを修正】、[チャンネル情報]を表示します。ビデオチャンネルとアラートチャンネルの2つに分かれています。ビデオチャンネル情報とアラートチャンネル情報が表示されます。（図 5-8参照）



チャンネルID	チャンネル番号	チャンネル名称	カメラタイプ
100101	1	10.12.1.175-V-1	普通摄像机
100102	2	10.12.1.175-V-2	普通摄像机
100103	3	10.12.1.175-V-3	普通摄像机
100104	4	10.12.1.175-V-4	普通摄像机

ビデオ/アラートチャンネルをダブルクリックで、[チャンネルプロパティ]を表示します。このページでチャンネル名とカメラのタイプを変更できます。（注：チャンネルID、チャンネルタイプ、チャンネル番号、アラートチャンネルのカメラタイプはデフォルトになります）

(図 5-9参照)



チャンネル属性

チャンネルID: 100101

チャンネルタイプ: 视频通道

チャンネル番号: 1001

チャンネル名称: 10.12.1.175-V-1

カメラタイプ: 普通摄像机

普通摄像机
普通摄像机
云台摄像机
半球摄像机

確定 取消

3. デバイスの削除

デバイスを選択して【削除】をクリックし、【はい】を選択で、デバイスの削除ができます。

4. デバイス追加が完了したら、設定ページを閉じ、システムの画面で機能操作ができます。

説明

[チャンネル情報] では、PTZコントロールが可能なカメラタイプはドーム型カメラのみです。カメラもドーム型カメラに変えなければなりません。

6. ライブ画面

ライブ画面で任意のチャンネルの画面を選択し、その画面の枠が青になったら、選択は完了します。

リストの任意のデバイスをダブルクリックまたはメイン画面へドラッグします。そのデバイスが選択された画面で表示されリアルタイム監視状態になります。(図 6-1参照)



説明

1. チャンネルのリアルタイム監視時に、デバイスリストに対応するデバイス状態のライトは緑色です。
2. リアルタイム画面を選択すると、デバイスリストに対応するフロントエンドデバイスに移動します。
3. マウスで画面をドラッグして画面の切替ができます。画面をダブルクリックで最大化できます。
(一画面表示)、もう一度ダブルクリックで元に戻ります。
画面選択時に、マウスの右クリックで下図のような機能を利用できます。



右クリックメニューの紹介表 6-1

項目	説明
ウィンドウ	ウィンドウ番号等ウィンドウ情報の表示
音声通信	音声通信の開始（DVRのサポート機能による）
プリントスクリーン	ライブ画面のプリントスクリーン実行
録画	ライブビデオをローカルに保存します。
出力	音声出力と色の調節
名前をつけて保存	ライブ画面とカメラを監視グループに保存します。 ライブビデオをお気に入りに保存します。
位置	録画再生と電子地図の位置を設定します。
ビデオマトリックス	テレビウォールにビデオを伝送します。
閉じる	選択した画面を閉じます。

7. メニューの紹介

7.1 チャンネルリスト

【チャンネルリスト】をクリックして画面を表示します。デバイスリスト、お気に入り、履歴、デバイスの構成、デバイスのIPアドレス、デバイスの名称、デバイスのメーカー、デバイスのタイプなどの情報を確認できます。



デバイスリストの操作方法：

- 組織ノードの操作：

をクリックで、組織ノードまたはデバイスのチャンネルを展開します。



をクリックで、組織ノードまたはデバイスのチャンネルを収縮します。

- ライブビデオの再生：

任意のチャンネルを選択します。（枠が青になると選択完了）リストのデバイスをダブルクリックでリアルタイムビデオを開きます。

もしくはマウスでチャンネル/デバイス/組織ノードをビデオ画面にドラッグすると、リアルタイムビデオを開きます。（最初から最後まで順番に開きます。）

- デバイス情報の表示：

マウスをデバイス上に（DVR  あるいはIPC ）移動させると、デバイスのIP、デバイス名、デバイスのメーカー、デバイスの型番などの情報を表示します。

- 音声通信：

デバイスを選択し、マウスの右クリックで音声通信を開始します。再度クリックすると停止します。

- お気に入りに追加：

ノード/デバイス/チャンネルを選択し、マウスの右クリックでお気に入りに追加できます。

- 再生画面に戻る：

デバイスのチャンネルを選択し、マウスの右クリックで再生画面に戻ります。
（再生時間は設定 → ローカル設定→その他 で設定してください）

- 電子地図の位置：

デバイスのチャンネルを選択し、マウスを右クリックで地図の位置を決定します。

- デバイス及びチャンネルの検索：

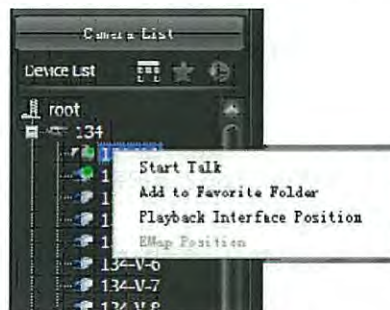
デバイス名またはIPを入力して検索します。

- デバイスとチャンネルの操作：

デバイスを右クリックしてお気に入りに追加、時間修正、再起動、ログアウト、設定の操作ができます。



チャンネルを右クリックで音声通信、お気に入りに追加、再生画面に設定、電子地図に設定の操作ができます。



7.2 PTZコントロール

PTZコントロールするチャンネルを選択すると、PTZコントロールパネルでカメラの方向、ステップ、ズーム、フォーカス、しぼり、プリセットポイント、ポイント間クルーズ等の操作ができます。

3D定位、模擬レバー及びライトのオンとオフ、補助機能1,2のオンとオフもできます。
メニュー→【PTZコントロール】をクリックして開きます。



説明

PTZとコントロール権限があるチャンネルのみ操作できます。
それ以外のチャンネルではPTZコントロールは無効になります。



PTZコントロール紹介表

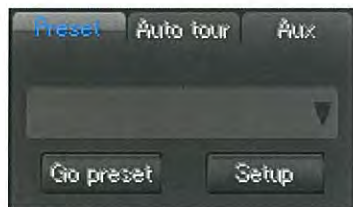
項目	説明
方向キー	上、下、左、右、左上、右上、左下、右下の8方向のPTZコントロールができます。
SIT 3D定位	ビデオ監視画面で一点をクリックすると、PTZはその点に移動し画面の中央に移動します。マウスでボックスをドラッグして1~36倍のズームが可能です。左上から右下にドラッグすると拡大します。右下から左上にドラッグすると縮小します。ドラッグしたボックスが小さいほどズーム倍率が大きくなります。 (この機能はマウスのみでの操作となります)
模擬レバー	マウスの模擬レバー機能を使います。機能が起動したら、ビデオ画面のカーソルをクリックしてPTZを目的の方向へ移動させます。カーソルは中心点と距離によって、PTZのステップが変わります。距離が遠いほどステップが大きくなります。マウスのホイールでカメラの遠近を調整できます。

項目	説明
ステップ	1～8までのステップを設定出来ます。
ズーム	ズームの操作ができます。
フォーカス	フォーカス、解像度の調整ができます。
しぼり	しぼり、明るさを調節します。
プリセットポイント	方向キーで目的の位置まで移動し、プリセットボックスでプリセット値を入力して、追加をクリックで保存します。
ポイント間クルーズ	クルーズを自動実行します。
補助機能	ライトのオン/オフ、補助1のオン/オフ、補助2のオン/オフ

7.2.1 プリセットポイント

メニューの【PTZコントロール】→【プリセットポイント】→【設定】をクリックしてプリセットポイントの設定パネルを表示します。(図 7-5参照)

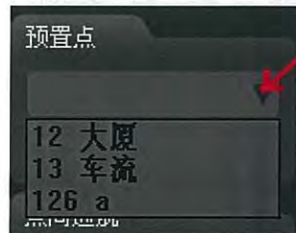
プリセット値、名称を入力して【設定】をクリックすると、そのカメラが撮影したエリアが一つのプリセットポイントになります。(図 7-6参照)



説明

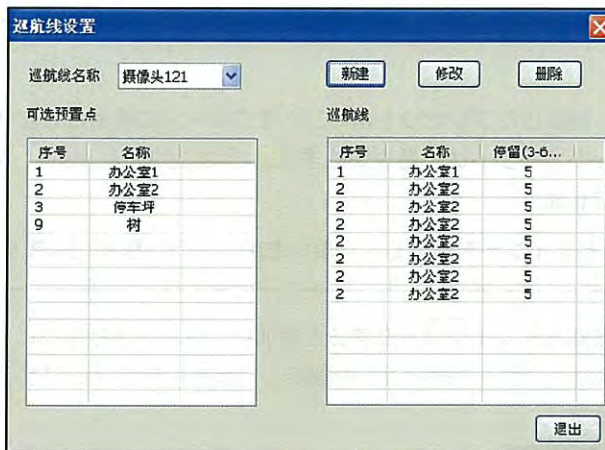
プリセット値は 1～128 の数字、プリセットポイントの名称は16文字までの漢字、数字、英字、記号を使用して下さい。

プリセットポイントを選択し、【削除】をクリックでプリセットポイントを削除できます。PTZコントロールパネルに戻り、下図の赤矢印で示されたボタンをクリックして、追加したプリセットポイントをチェックします。（図 2-7参照）プリセットポイントを選択して、【位置の決定】をクリックで、そのプリセットポイントに移動します。

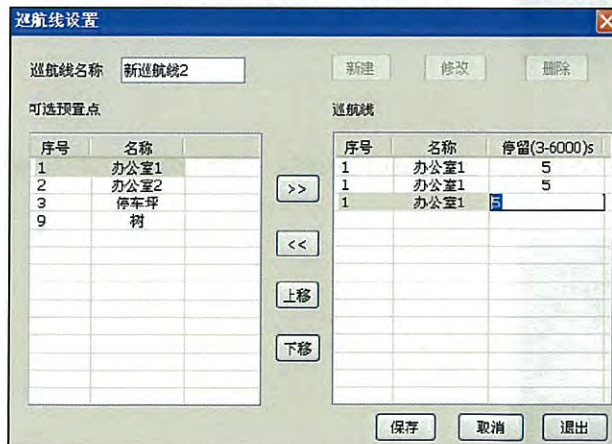




7.2.2 ポイント間クルーズ

メニューの【PTZコントロール】→ [クルーズ] → 【設定】をクリックで、【プリセットポイント設定】パネルを表示します。（図 7-8参照）



【新規】をクリックで新規クルーズ追加画面に入ります。（図 7-9参照）



- ① クルーズ名を修正します。
- ② リストからプリセットポイント選択  をクリックで右のクルーズリストに移動させます。1つのクルーズのプリセットポイントの最大追加数は100です。
- ③ 滞在時間をダブルクリックで修正出来ます。範囲は3～6000秒で、デフォルトでは5秒です。
- ④ クルーズに追加したプリセットポイントを選択して  をクリックで左のリストに移動させ、そのプリセットポイントを削除します。
- ⑤ 【上に移動】と【下に移動】でプリセットポイントの位置を移動できます。
クルーズの順番を替えることもできます。
- ⑥ 【保存】をクリックしてクルーズの追加を完了します。
【修正】をクリックで、クルーズの修正に入ります。操作は新規クルーズと同じです。
【削除】をクリックで、選択したクルーズを削除します。
【ログアウト】をクリックで、クルーズ設定パネルからログアウトします。



説明

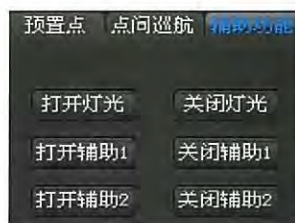
1. “プリセットポイント選択”で、選択したプリセットポイントをクルーズに移動させます。システムは自動で次のプリセットポイントの位置を決めます。これによりプリセットポイントの追加がスピードアップします。
2. “クルーズ”で、複数のプリセットポイントを選択し、一度に左のリストへ移動出来ます。

PTZコントロールパネルに戻り、赤丸ボタンをクリックすると追加したクルーズを見ることが出来ます。(図 7-10参照) 任意のプリセットポイントを選択し【起動】をクリックするとカメラが各ポイントでクルーズします。



7.2.3 補助機能

補助機能をクリックします。(図 7-11参照) ライトのオン/オフ、補助1のオン/オフ、補助2のオン/オフができます。



7.3 監視スケジュール

監視スケジュール：

監視グループの設定、監視計画の設定、入力、出力、監視グループの実行と監視スケジュールの実行ができます。

監視設定：

どのカメラをどの画面に表示、どの様にクルーズするかなどの設定です。

監視スケジュール：

どの時間に監視グループを動作させるか決め、時間によって自動で監視グループを切替えることができます。

7.3.1 監視グループの設定

監視グループの追加：

ライブ画面を開き、任意の画面で右ボタンをクリックし、名前を付けて保存→監視グループで監視グループの名前を入力して【確定】で保存します。それにより、4画面の新規監視グループが作成されます。（図 7-12参照）



監視スケジュールの追加：

メニューの【監視スケジュール】→【監視グループ設定】で、【監視グループ設定】のパネルを表示します。クルーズを含む監視グループを追加します。（図 7-13参照）



【新規】をクリックで、監視グループに名前をつけます（修正可）。選択画面総数は1,4,6,8,9,13,16,20,25,36の全部で10項目です。“デバイスリスト”ノード、デバイス、フロントエンドデバイスをクリックし、**>>** をクリックまたはチャンネルをダブルクリックで追加できます。

“各画面監視グループ項目”にそのチャンネルの関連情報があります。例：対応するデバイス名、チャンネル名、カメラID、滞在時間（10～3600s）、プリセットポイント（1-128）、ストリーム、あるいは“各ウィンドウ項目”の任意のチャンネルを選択してボタンを押し、そのチャンネルをウィンドウから削除します。

滞在時間：

チャンネルのデフォルトは20秒です、ダブルクリックで滞在時間を修正出来ます。

範囲は10～3600秒です。監視グループを実行する時、同じウィンドウのチャンネルは滞在時間に従ってクルーズします。

プリセットポイント：

ダブルクリックでプリセットポイントの番号を入力できます。

【保存】ボタンをクリックして、現在の監視グループを保存します。【取消】で現在の操作を取消できます。【ログアウト】をクリックで、監視グループ設定パネルからログアウトします。

1つの監視グループを選択し、【修正】をクリックで監視グループ編集状態に入ります。

（新規と同じ状態です）現在の監視グループの各ウィンドウのチャンネルを修正できます。監視グループを選択し、【削除】をクリックすると現在の監視グループを削除できます。



説明

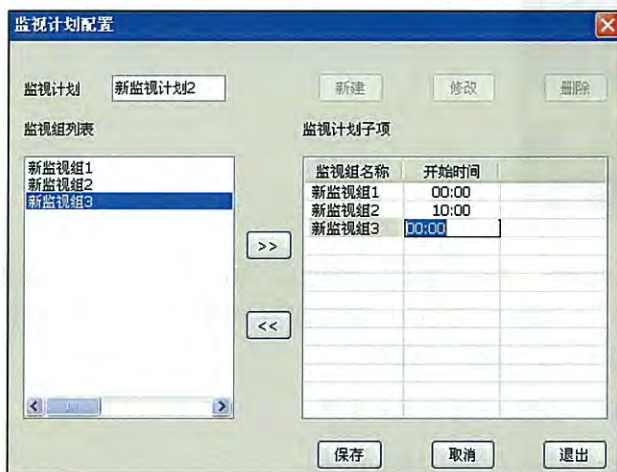
- 1 ウィンドウで最大100個チャンネルの追加ができます。
- 2 組織ノードまたはデバイスを選択して、その組織ノードまたはデバイスのすべてのチャンネルを任意のウィンドウに追加できます。

3. システムが同じレベルなら、自動定位機能があります。例：ノード“hik”を選択すると、“hik”ノード中のすべてのチャンネルを一度にウィンドウに追加する時、システムは自動的に同じレベルの次のノード“zeno”にスキップします。同じレベルのデバイスを選択する時と同様です。
4. 滞在時間を修正してから、マウスを右クリックし、[現時点のウィンドウに適用]と[全部のウィンドウに適用]を選択してから、滞在時間を適用します。

7.3.2 監視計画設定

メニューの【監視スケジュール】→【監視スケジュール設定】をクリックして、[監視スケジュール設定]のパネルを表示します。

【新規】をクリックし、(図 7-14参照) 監視スケジュール名をつけます。(修正可)
監視グループリストの監視グループが監視スケジュール項目へ移動する時に、デフォルトのスタート時間をつけます。マウスのダブルクリックで監視グループのスタート時間を修正できます。



一つの監視スケジュールに複数の監視グループを追加できます。例：00：00 に新監視グループ 1 を実行、10：00 に新監視グループ 2 を実行、23：00 に新監視グループ 3 を実行。次の日 00：00 に新監視グループ 1 を再実行、このように繰り返されます。

一つの監視スケジュールを選択し、【修正】をクリックでその時点の監視グループの実行時間または監視グループを修正できます。

【削除】をクリックで現時点の監視スケジュールを削除します。

【ログアウト】をクリックで監視スケジュールパネルからログアウトします。



説明

一つの監視スケジュールは最大100個の監視グループをサポートします。

メニューの【監視スケジュール】で、任意の監視グループを選択して、その監視グループをスタートさせ、監視グループのビデオ画像を呼び出します。

“2 新監視グループ 2”をチェックします。(図 7-15参照) もう一回選択するとその監視グループを停止します。監視スケジュールも同様です。



一時停止/回復：監視グループの一時停止、チャンネルによるクルーズの停止をします。監視スケジュールを一時停止にするとチャンネルによるクルーズや切替も停止します。回復を選択すると監視グループと監視スケジュールを回復できます。

入力：監視グループと監視スケジュールリストの入力をします。

出力：監視グループと監視スケジュールリストの出力をします。



説明

監視スケジュール設定の保存はローカルクライアントのみとなります。その他のパソコンでこの監視スケジュールを使いたい場合、入力、出力機能を使用してください。

7.4 設定

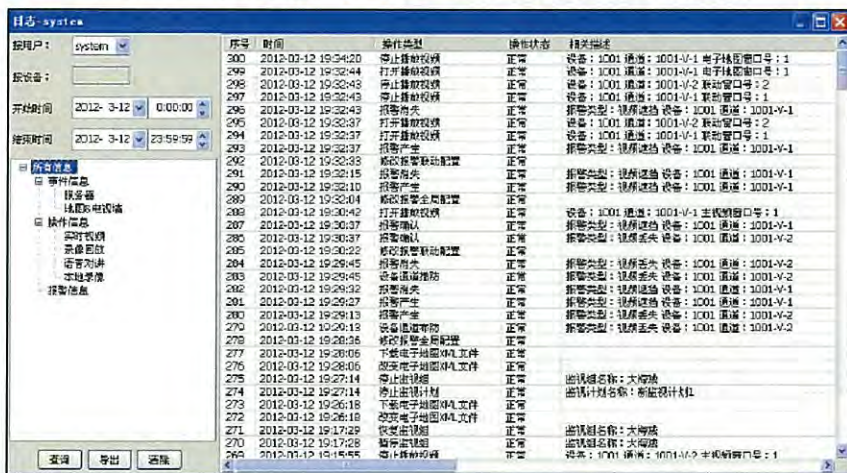
メニューの【設定】から、【設定】パネルに入ります。ログ、ローカル設定、入力設定、出力設定、パスワードの修正、ユーザー権限の設定、ユーザーの設定、地図の設定、システムの設定、録画スケジュールの設定ができます。(図 7-16参照)



7.4.1 ログ

ログは現時点のイベント情報、操作情報、アラーム情報を記録します。

【ログ】をクリックして[ログ]パネルをポップアップします。時間、タイプ、デバイス、ユーザー名によってログを検索、ダウンロードできます。(図 7-17参照)



選択したデバイスすべての録画を検索したい場合、【全部】をクリックしてください。

7.4.2 ローカル設定

【ローカル設定】をクリックで【ローカル設定】パネルを表示します。録画、表示、システム、コントロールキーボードその他のパラメータを設定できます。

7.4.2.1 録画設定

録画設定ページでは、録画の保存パス、録画ダウンロードパス、プリントスクリーンパス、音声通信パス、1つのファイルの録画時間の長さ、音声通信録画のオンとオフの設定ができます。(図 7-18参照)



7.4.2.2 表示設定

表示設定ページでは、ツールバーのオン/オフ、地図チャンネル名の表示、地図の最小サイズ、ログ数、媒体伝送プロトコル（自動検査TCP、UDP）の設定ができます。(図 7-19参照)

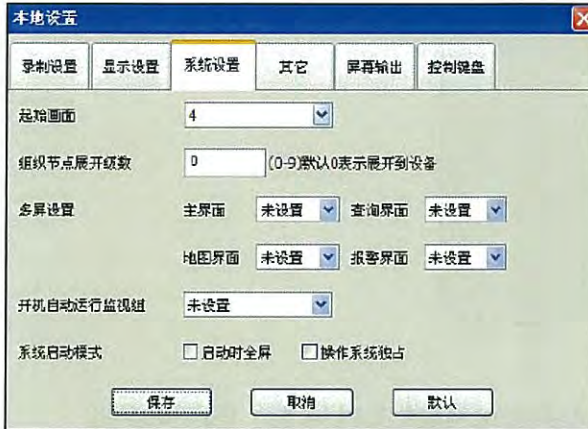


説明

イントラネットはUDPプロトコル、エクストラネットはTCPプロトコルを推奨。

7.4.2.3 システム設定

システム設定ページでは、スタート画面数（1/4/6/8/9/10/13/16/20/25/36）、組織ノードの展開レベル、マルチウィンドウ（メイン画面、検索画面、電子地図画面、アラーム画面）、スタート時の自動監視グループ実行、システムの起動モード（起動時にフルスクリーン、検索システムの独占）を設定します。（図 7-20参照）



重要度に応じて、画面数を選択してください。

複数ノードを設定できます。例：“日本”→“大阪府”→“大阪市”→“都島”のようにデバイスに4つのノードを設定する。

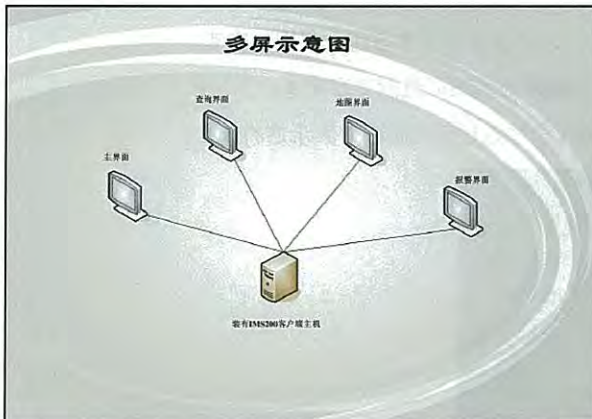
起動時に監視グループのオンとオフを選択できます。

システム起動モード：

起動時にフルスクリーンモードになり操作システムを独占できます。

マルチウィンドウの設定：

別画面での同期操作ができます。一台のパソコンが4画面に分配されます。マウスで操作できます。別のディスプレイで別画面の操作を実行できます。（図 7-21参照）



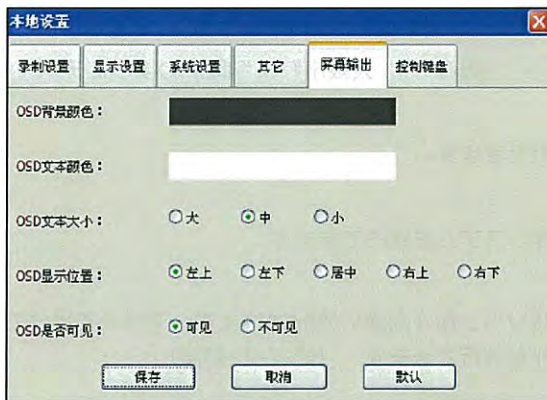
7.4.2.4 その他

その他ページ：再生画面に入る前の時間、時間の修正間隔、時間修正の誤差、デバイス動作の表示、言語の設定ができます。（図 7-22参照）



7.4.2.5 ディスプレイ出力

ディスプレイ出力では、チャンネル名の字体色と背景を設定します。（図 7-23参照）



OSD背景色/OSD本文色をクリックして、カスタマイズする色を選択します。

OSD 文字の大きさ、表示位置、表示・非表示を自由に選択できます。

OSD表示を選択すると、出力設定がリアルタイムビデオ画面で表示されます。



7.4.2.6 コントロールキーボード

コントロールキーボードは、シリアルポートで実現します。(図 7-25参照)



7.4.3 入力設定

【入力設定】をクリックで、【入力設定】画面に入ります。(図 7-26参照)



メニュー【設定】モジュールのデータで入力操作します。ローカル設定、管理設定とログ情報があります。

7.4.4 出力設定

【出力設定】をクリックで、出力設定画面に入ります。(図 7-27参照)



メニューの【設定】モジュールのデータで出力操作します。ローカル設定、管理設定とログ情報があります。

7.4.5 パスワードの修正

7.4.5.1 ライセンスユーザーのログイン

ライセンスユーザーでログインすると、【パスワードの修正】で、ライセンスユーザーのパスワードの修正、ライセンスパスワードの設定画面を表示します。（図 7-28参照）現在のライセンスパスワードと2回の新ライセンスパスワードの入力で、ライセンスパスワードを修正できます。



7.4.5.2 非ライセンスユーザーのログイン

非ライセンスユーザーでログイン後、【パスワードの修正】をクリックして、ユーザーパスワードの修正、ログインパスワードの設定画面を表示します。（図 7-29参照）現在のパスワードと2回の新パスワードを入力し、ユーザーパスワードを修正できます。

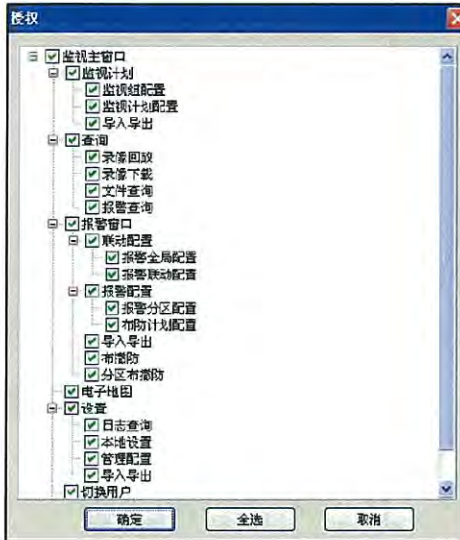


説明

system ユーザーパスワード 設定 → システム設定 → ユーザーパスワード修正

7.4.6 ユーザーライセンス

総ライセンスを取得してから、【設定】→【ユーザーライセンス】でユーザーライセンス画面に入ります。（図 7-30参照）



ユーザーの権限には監視スケジュール設定（監視グループ設定、監視計画設定、入力、出力）、検索（再生、ダウンロード、ファイル検索、アラーム検索）、アラームウィンドウ（アラーム全局設定、アラーム連動設定、アラームエリア設定、警報スケジュール設定、入力、出力、警報のオンとオフ、エリア警報のオンとオフ）、電子地図、設定（ローカル設定、ソフトウェアのバージョンアップ、ログ、管理設定）、ユーザーの切り替え、ライセンス操作が含まれます。

7.4.7 デバイス設定

【デバイス設定】をクリックし、デバイス設定画面に入ります。（図 7-31参照）次の2つの部分から成り立っています。

- ① デバイス情報リスト：
 - 一つのデバイスを選択すると、下のデバイス情報の表示が変わります。ユーザーとデバイスの追加、修正、削除、保存などの操作が可能です。
- ② デバイス情報：デバイスの情報を表示します。



【检索デバイス】をクリックし、検索デバイス画面を表示させます。

【リモート設定】でリモート設定ができます。

【追加】をクリックしてデバイスを1つ追加し、【組織ノードを選択】をクリックして組織構成図を表示します。その他の情報を入力し【保存】をクリックします。

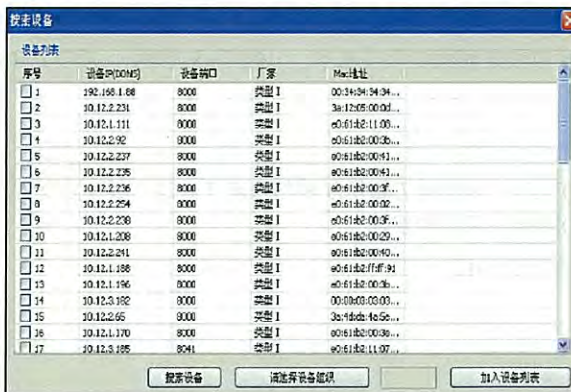
(注：ノードを選択しデバイスIPを入力してから、【チャンネル数を取得】で自動でチャンネル数を取得します)

【修正】をクリックしてデバイス情報を修正し、【置換え】をクリックします。

【削除】をクリックして、デバイスを1つ削除できます。

7.4.7.1 デバイス検索

デバイス検索をクリックし、デバイス検索画面に入ります。(図 7-32参照)



【デバイス検索】をクリックし、デバイスを再検索します。

【デバイス組織を選択】をクリックし、組織構成を選択します。

追加したいデバイスをチェックし、【デバイスリスト加入】をクリックすると、チェックしたデバイスをデバイスリストに追加します。

7.4.7.2 組織構成

組織構成画面で、ノードの追加、修正、操作削除はデバイスのあるノードの下で行います。
(図 7-33参照)



注：Rootは修正できません。

検索時にデバイスを見つけるためRootは一つだけ追加して下さい。

7.4.8 ユーザー設定

【ユーザー設定】をクリックし、ユーザー設定画面に入ります。(図 7-34参照)



ユーザー設定モジュールは次の2つの部分で成り立っています。

① ユーザー情報リスト：

リストから一つユーザーを選択すると、下のユーザー情報も変化します。

② ユーザー情報：

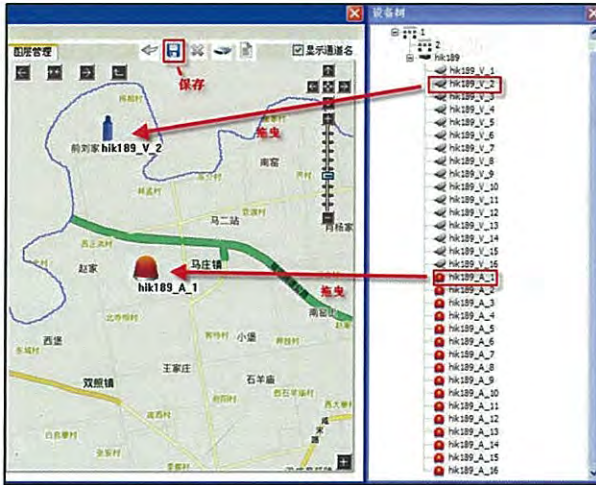
ユーザー情報の表示・修正。

【追加】をクリックしてユーザーを追加できます。*は入力必須項目です。ユーザー名とユーザー別名を入力し、【ユーザー制限を選択】をクリックすると、すべてのデバイスリストを表示します。(図 7-35参照)

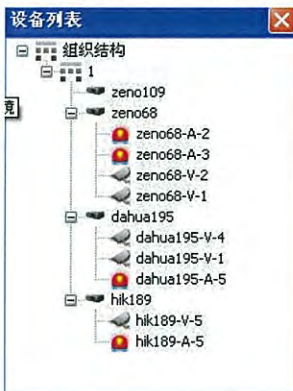
ユーザーにデバイスチャンネルとアラームの権限を与え、ユーザー情報を入力してから、

【保存】をクリックしてユーザー情報を保存します。

【修正】をクリックしてユーザー情報を修正できます。



- (5) 右上の“ノード表示”をクリックすると、デバイスリスト中に現在の地図上にあるチャンネルを表示します。(図 7-38参照)



- (6) “ノード名称の表示”で地図に追加したチャンネルノード名を表示します。チェックをしていない場合は表示しません。
- (7) 右下の小地図展開ボタンで小地図を展開します。ボックスの移動とマウスのホイールでズーム、位置決定できます。(図 7-39 参照)



7.4.10 システム設定

【システム設定】をクリックして、システム設定画面に入ります。（図 7-40参照）

システム管理モジュールにはIフレーム、ログ、ライセンス、パスワード、DDNS の5つの機能があります。

(1) I フレーム :

I フレームを起動すると、リアルタイムブラウザ時に開始時間前に強制的にIフレームを差し込みます。遅延減少の効果があります。

(2) ログ :

ログ保留の最大時間を設定します。この時間を超えると、システムは自動的にログを削除します。

(3) ライセンス :

ライセンスユーザーでログインした場合、ライセンスモジュールの操作しかできません。

(4) ユーザーパスワード :

「system」ユーザーパスワードの修正。（systemしか修正できません）

(5) DDNS :

DDNSをサポートします。



説明

Systemユーザーがプラットフォームにログインする場合、このページを見ることができます。

7.4.11 録画スケジュール

【録画スケジュール】をクリックして、録画スケジュール画面に入ります。（図 7-41参照）

编号	设备名称	通道号	通道名称
001	1001	001	1001-V-1
002	1001	002	1001-V-2
003	1001	003	1001-V-3
004	1001	004	1001-V-4

録画計画では録画のバック時間を選択できます。（15/30/45/60）2つ録画のスタート時間の間隔がバック時間となります。

【メモリー情報の設定】をクリックし、メモリー情報設定画面を表示します。（図 7-42）メモリールートとメモリー設定情報を修正（注：メモリールートは最大3つまで）し、【時間計画の編集テンプレート】をクリックすると、時間スケジュールの編集テンプレート画面を表示します。一つの時間スケジュールのテンプレートを編集できます。

注：デフォルトのテンプレートは修正できません。設定後、システムの設定の時間内で録画します。

【追加】をクリックし、時間スケジュールの編集テンプレート画面を表示します。

【追加】をクリックで1つの時間スケジュールを編集できます。

【削除】をクリックし、1つの録画スケジュールを削除できます。スケジュールを1つ選択後【その他のチャンネルにコピー】をクリックすると、そのスケジュールをその他のチャンネルにコピーできます。

卷名	卷路径
ss	D:\



7.5 カスタマイズツール

【カスタマイズツール】をクリックし、【カスタマイズツール】画面に入ります。



をクリックで最後アラームの連動をチェックできます。

7.6 デバイス動作の表示

このモジュールではデバイスの動作状態を表示します。

- ①ハードディスクの状態（√は正常、×は使用不可）
- ②ハードディスクの容量（赤：容量なし、緑：容量あり）
- ③音声通信のオン・オフ
- ④録画状態
- ⑤モーション検知録画状態
- ⑥カメラ遮断状態
- ⑦ビデオ紛失状態、外部アラーム録画状態（図 7-44参照）



8. システム紹介

8.1 検索

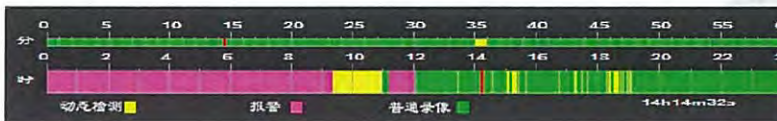
検索は録画再生、録画ダウンロード、ファイルの検索及びアラーム検索を含みます。

8.1.1 録画再生

機能エリアの【検索】ボタンをクリックして、[録画再生] ページを表示します。



組織構成でカメラを選択→録画源を選択（デバイス、プラットフォーム、すべて）し録画タイプ（外部アラーム、モーション検出、普通録画、すべて）を選択します。検索したい日付を日付欄でダブルクリックしてください。そのチャンネルの一日の録画が表示されます（カラー部分はその時間帯に録画があることを示す）。カメラと録画源を選択し、直接時間リストにマウスの左ボタンで前後にドラッグします。その長さで録画検索時間を決めます。



■ 通常録画 ■ モーション検出録画 ■ 外部アラーム録画

カラー部分の時間リスト“時”をクリックすると、任意分からその時間帯の録画を再生します。カラー部分の時間リスト“分”をクリックすると、直ちにその一時間の任意分から録画を再生します。4画面の同時再生をサポートします。

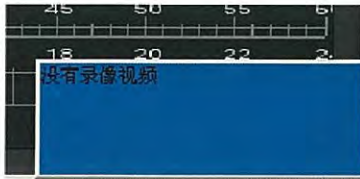


をクリックすると、同時再生は選択した画面の時間を標準とします。



説明

- 1.画面を選択した時、自動的に組織構成のカメラに対応します。
- 2.検索して録画がなければ、また、フロントエンドデバイス選択していないなど、右下に提示します。図 8-3参照。



下図のボタンでより多くの操作を実行できます。



早送り：2,3,4,MAXの倍数をサポートします。

スロー再生：-2,-3,-4,MINの倍数をサポートします。

录像列表 をクリックで、検索した録画を監視します。



青で表示された時間帯の録画を再生します。

リストの時間帯録画記録を選択し、ダブルクリックで再生できます。

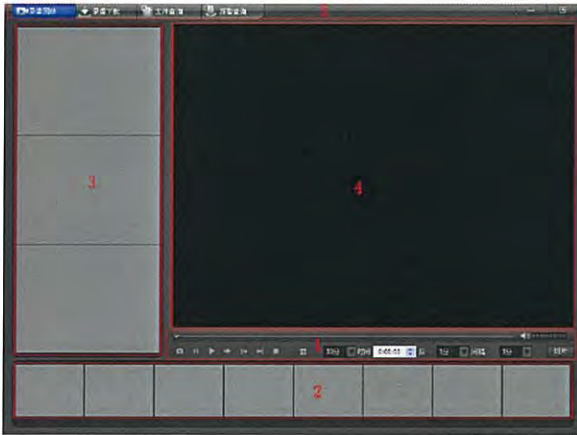
ビデオ画面をダブルクリックで最大化できます。(図 8-6参照)

もう一度ダブルクリックで元の状態に戻ります。



録画分割：

録画記録を検索したい場合は、**切片** をクリックして録画分割機能の画面に入ります。



① 機能コントロールエリア

機能コントロールエリアのボタンで再生録画のプリントスクリーン、一時停止、再生、早送り、スロー再生、前のフレームに戻る、停止ができます。

分割録画時間の設定：切片録画時間は標準として、前後時間帯を1、2、5、10、15、20、30分間の7種類の時間の長さを選択して設定できます。

録画分割時間の間隔の設定：同様に1、2、5、10、15、20、30分間の7種類の時間の長さを選択して設定できます。

② 機能コントロールエリア

分割録画時間を設定してから、機能コントロール **切片** ボタンをクリックすると、クライアントが設定した時間によって、保存した録画を分割します。



デフォルトでは8分割画面の分割プレビューを表示します。実際の録画分割数が8より多い場合はマウスで一番上の分割プレビュー画面の左側に戻ります。左向きの青い矢印をクリックしてから、スクロールでその他の分割画面をプレビューできます。

③ 分割画像エリア

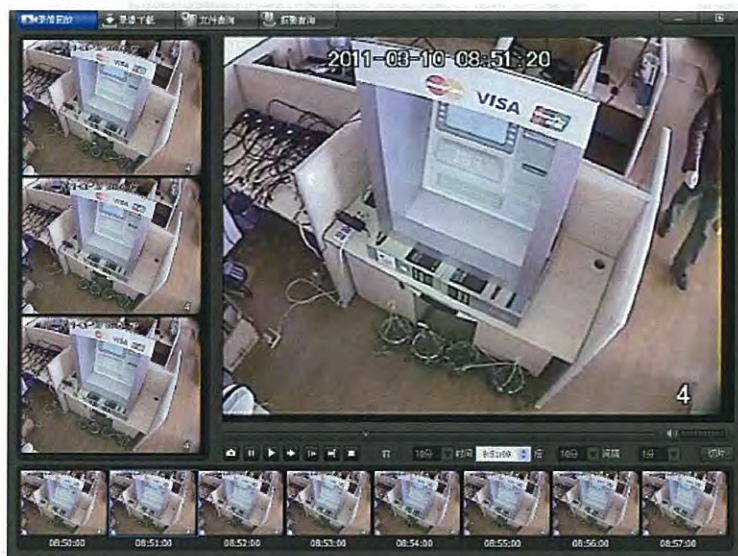
分割録画エリアの任意の一画面のプレビュー画面をクリックすると分割画像エリアで現在、前、後3つの分割画面を拡大表示します。



分割録画面をクリックで中央に表示します。分割時間によって並びます。

④ 録画再生


分割プレビューのプレビュー画面をダブルクリックして、再生画面で選択した分割時間から録画の再生を始めます。(図 8-10参照)



⑤ メニューエリア

録画分割機能画面のログアウト、録画再生、ダウンロード、ファイル検索、アラーム検索機能の切り替えができます。

8.1.2 録画ダウンロード

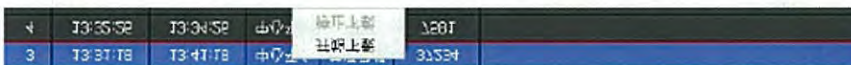
 をクリックで [録画ダウンロード] ページに入ります。



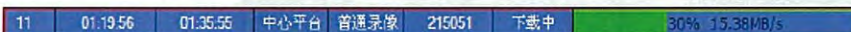
組織構成のフロントエンドデバイスを選択→録画源を選択（デバイス、プラットフォーム、すべて）し録画タイプ（外部アラーム、モーション検知、普通録画）を選択して検索したい日付を日付欄に入力してください。

ダブルクリックで録画検索します。時間リストのカラー部分の任意位置をクリックして、対応する時間帯の録画を再生します。

録画を1つ選択し、マウスの右クリックまたはダブルクリックでダウンロードします。



録画はローカル設定の設定ルートに保存されます。（ファイルはdad で保存されます）ダウンロード表示欄にダウンロードスピードが表示されます。



時間欄に時間を入力し、入力した時間を選択して【ダウンロード開始】をクリックすると、ダウンロードができます。



【ダウンロード停止】をクリック、またはマウスの右クリックでダウンロードを停止できます。

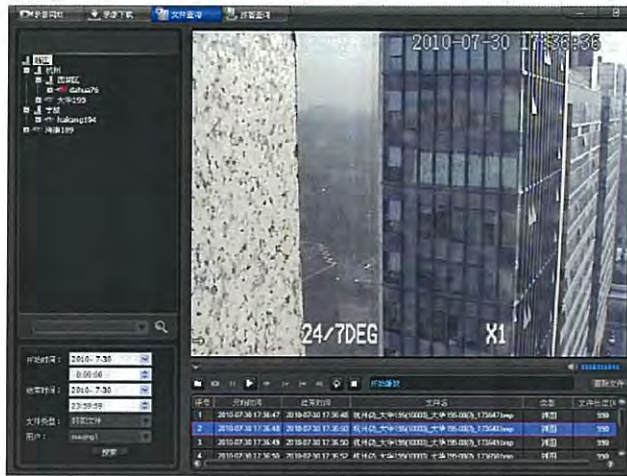


説明

フロントエンドデバイスのプラットフォーム録画またはデバイス録画の再生中、対応するフロントエンドデバイスにダウンロードするとそのデバイスの再生を停止します。

8.1.3 ファイル検索

「ファイル検索」をクリックでページに入ります。図 8-15参照。



組織構成でノードを選択→デバイスまたはフロントエンドデバイスを選択 → 開始時間、終了時間、ファイルタイプ（音声通信、ローカル録画、プリントスクリーンファイル、ダウンロードファイル）、ユーザーを選択して【検索】をクリックすると必要なファイルを検索できます。ダブルクリックまたは再生ボタンをクリックすると、検索したファイルを再生できます。

下図のボタンでより多くの操作を実行できます。



8.1.4 アラーム検索

「报警查询」をクリックで「アラーム検索」ページに入ります。

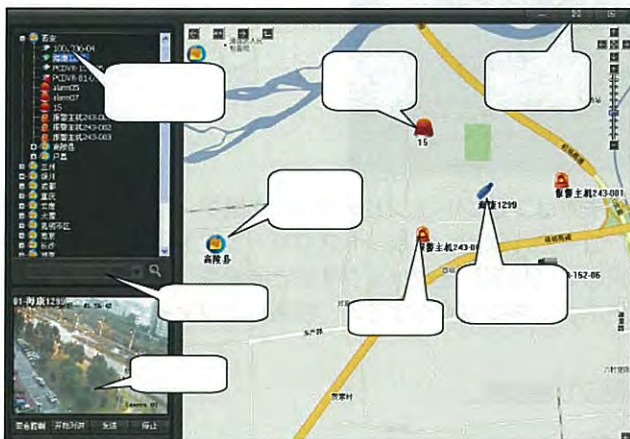


組織構成のノード、デバイスまたはフロントエンドデバイスを選択し、日付、開始時間、終了時間、ユーザー、アラームライブ（ビデオ紛失、外部アラーム、モーション検知、カメラ遮断、デバイス断線、メイン機アラーム、すべて）、状態（未確認、確認アラーム）を選択して【検索】をクリックすると、必要なアラーム情報が検索され、【検索】ボタン下のボックスに検索と一致したリストを表示します。

8.2. 電子地図

電子地図のメイン機能はカメラ、アラームの位置を把握することで、アラーム機能と密接な関係があります。アラームが作動すると地図で対応する一を表示します。

機能エリア【電子地図】をクリックすると、[電子地図]パネルが表示されます。



左上：分層地図組織構成リスト

左下：ビデオ表示エリア

右：地図表示エリア

地図組織ノード（地図名称）をクリックして、地図表示エリアで現在の地図を表示します。地図中に設置したカメラ、外部アラームチャンネル、アラームメイン機、次の地図ナビ点を表示します。

地図表示エリアの左上、右上、右下のボタン説明（図 8-19参照）



次の地図ナビ点をダブルクリックすると、次の地図が表示されます。

組織ノードのカメラをクリックすると、カメラは自動で地図の中央に移動します。組織ノードまたは地図上のカメラをダブルクリックすると、そのカメラのライブ監視画面を開きます。




監視画面をダブルクリックで最大化できます。もう一度クリックまたは“ESC”で戻ります。


【PTZコントロール】をクリックすると、現在のカメラのPTZコントロールを実行できます。

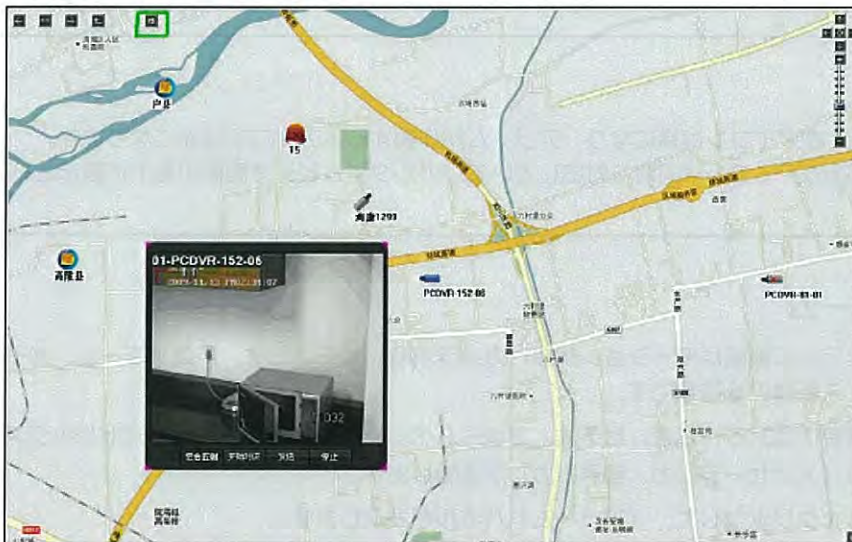
【音声通信開始】をクリックすると、現在のデバイスの音声通信を開始します。


【送信】をクリックすると、現在のビデオをビデオブラウザに送ります。

【停止】をクリックすると、現在のビデオを停止します。リアルタイムビデオ画面でマウスの右ボタンをクリックすると、フルスクリーン、送信、停止の機能を実行できます。

右上の最小化ボタン  をクリックすると、地図ページが最小化します。

右上のフルスクリーンボタン  をクリックで地図がフルスクリーン状態になります。緑色のアイコンをクリックすると元の大きさに戻ります。



右上の最小化ボタン  をクリックすると、電子地図ページを閉じます。



説明

- マウスのスクロールで拡大、縮小します。
-  カメラのアラーム
  カメラの断線
  アラーム
 デバイスの断線を表示します。

8.3 デバイスの状態

機能エリアの【デバイスの状態】をクリックして、【デバイス状態情報】パネルを表示します。すべてのチャンネルの現在のストリームの大きさ、モーション検知、ビデオ紛失、カメラ遮断、外部アラームの状態を表示します。

モーション検知： カメラ遮断： ビデオ紛失：

设备状态信息		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
zeng	外部报警																
0	码率信息(kbps)																
	动态检测																
	视频遮挡																
	视频丢失																
nk	外部报警																
1296	码率信息(kbps)	414	543							239							
	动态检测																
	视频遮挡																
	视频丢失																



説明

機能しているときアイコンは緑になり、アラームが作動するとアイコンは赤になります。アラーム作動後のアイコンは同時に対応しているリアルタイムビデオ画面の右下に表示されます。

8.4. アラーム

デバイスのアラーム機能はモーション検知、カメラ遮断、ビデオ紛失、外部アラーム、メイン機、デバイス断線の6種類です。

アラーム作動時にはアラーム音、ビデオ、アラームページ、電子地図、ビデオマトリックス、アラーム出力（メッセージ出力、音声出力）が連動します。

【アラーム】をクリックして、【アラーム】パネルを表示します。



画面最上部：ツールバー（図 8-24）




すべての連動を停止：すべてのアラーム連動動作を停止します。

入力：アラーム設定の入力

出力：アラーム設定の出力

アラームの確認：現在のアラーム状態を確認して、すべての連動動作を停止します。

デバイスリスト中のデバイスをクリックすると、そのデバイスは自動的にデバイス情報欄の一番目に移動します。

デバイス情報の切替  を選択し、その他のデバイス情報を切替ます。

図で表示されたデバイスをダブルクリックすると、デバイスチャンネルの詳細情報の展開と縮小ができます。



【ビデオ】のデバイスリスト、デバイスの名称、アラーム設定状態で順番をつけます。




左中央：デバイスリスト、アラームメイン機リストエリア

左下：アラーム詳細情報の表示エリア

右中央：デバイス及びアラームメイン機の情報表示エリア

マウスの右ボタンでチャンネルの  または  のアラーム

タイプのアイコンを選択して連動をクリックするとアラーム作動後、各連動動作のプレビューをします。

マウスの右ボタンで非アラームアイコンエリア  をクリックすると現在の設定を1つのアラームタスクとして保存し、デバイスの方式を設定します。

画面右下はアラーム情報の表示エリアです。

アラーム情報の表示エリアの上部のボタン  をクリックすると、アラーム情報表示エリアが広がります。



アラーム設定のステップ：

1. アラーム全局設定




ボタンをクリックして、アラームを全局に設定できます。

詳細は 8.4.1 のアラーム全局設定を参照してください。

2. 設定と削除

設定方法は 4 つあります。設定後デバイス情報に対応するチャンネルのアイコンは緑になります。

① グループノードの設定：

ノードを1つ選択  root し、右クリックでそのノードをすべてのデバイスに設定します。

② デバイスの設定：デバイスを1つ選択  1001 し、右クリックでこのデバイスをすべてのチャンネルに設定します。

③ チャンネルの設定：

デバイスリスト中のチャンネルを1つ選択  1001-V-1 し、右クリックで設定します。
デバイス情報中の 、、、 を選択し右クリックで設定します。

④ アラームエリアリストの設定：

アラームエリアをチェックして選択します。設定スケジュールを選択し、設定した時間内でアラームエリアに実行します。詳細は 8.4.2 アラーム区域設定、8.4.3 アラームスケジュール設定を参照してください。

3. アラーム連動設定（詳細 8.4.4 アラーム連動設定）

設定終了後、アラーム作動時にデバイス情報中の対応するチャンネルの状態が赤になり、点滅します。



説明

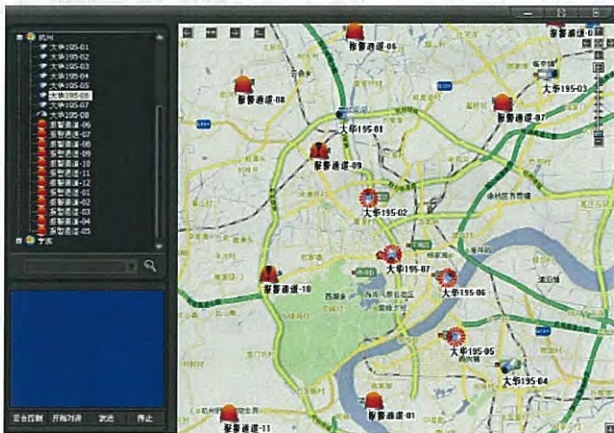
設定のステップもう一度行くと削除できます。

アラームが作動した場合、即時に以下の連動動作をします。

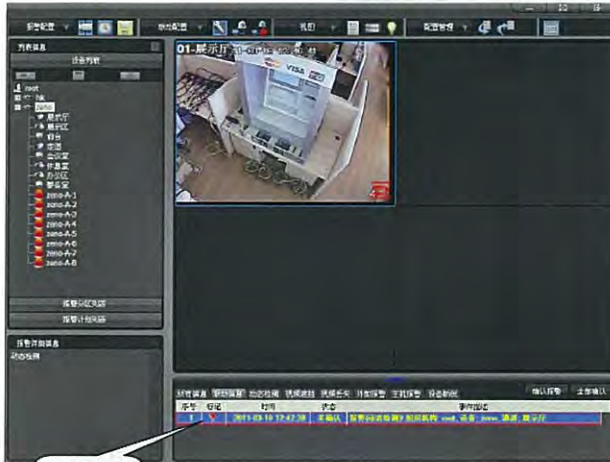
- 連動アラーム音：
ビデオファイルを指定し（wav 方式）、アラーム音になります。
- マトリックス：
連動ビデオをアラーム出カデバイスのテレビに伝送します。
- アラームページ：
アラームパネルを表示します。（図 8-27参照）



- 連動電子地図を使うと、直ちに電子地図を表示します。地図に現在のアラームチャンネルまたはデバイスの地図上の具体的な位置を表示します。



- 連動カメラを起動すると、同時に連動ビデオ画面を表示します。（図 8-29参照）
（最大4つの連動ビデオ画面をサポートします。）



表示された連動ビデオ画面で音声通信、メイン画面に送信、ビデオストリーム等の機能を利用できます。（図 8-30参照）







説明

1. 連動ビデオ画面に対応するアラーム情報は赤旗のアイコンで表示されます。
2. 複数のアラームが同時あるいは連続で作動する時、アラーム情報をダブルクリックでビデオを監視します。
3. 上向き矢印ボタンで前のアラーム情報の連動ビデオを監視、下向き矢印ボタンで次のアラーム情報の連動ビデオを監視します。
4. 確認ボタンをクリックすると、現在の連動ビデオを終了します。
5. 連動ビデオ画面をダブルクリックすると、現在の画面を最大化できます。

リアルタイムビデオのチャンネルでアラームが作動すると、メインビデオ画面の右下に対応するアイコンを表示します。


各アイコンの意味：

：モーション検知
 ：ビデオ紛失
 ：カメラ遮断
 ：外部アラーム



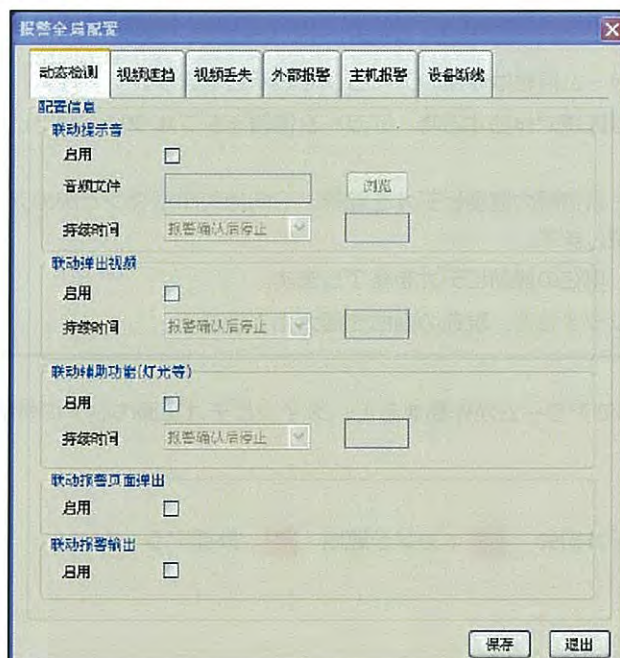
- アラーム出力を起動すると、設定によって、メッセージ出力、音声出力をします。メッセージ出力は、アラーム情報をメッセージの形で指定した携帯に送ります。音声出力は、外部音声通信デバイスを接続する必要があります。

8.4.1 デバイスの状態

【アラーム】の  をクリックし、[アラーム全般設定]ページを表示します。

アラーム全般設定：

モーション検知、カメラ遮断、ビデオ紛失、外部アラーム、メインアラーム、デバイス断線の設定をします。



モーション検知、カメラ遮断、ビデオ紛失、外部アラーム、メイン機器アラーム、デバイス断線をそれぞれクリックして対応する設定ページに入ります。

連動アラーム音：

アラーム作動時にアラーム音を鳴らすかどうか、また、アラーム音とアラーム時間を設定できます。オーディオファイルの書式は.WAVです。

連動ビデオ表示：

アラーム作動時にビデオ画面の表示を起動するかどうか、また、アラーム作動時のビデオ画面の表示時間を設定できます。

この機能はチェックしなければ、フロントエンドデバイス（連動カメラを設置）のアラームが作動しても、画面表示されません。

連動補助機能：

連動補助機能を起動するかどうか、また起動する場合の連動補助機能の開始時間を設定出来ます。

連動アラームページを表示：

アラーム作動時にこの機能を起動するかどうかを設定します。

連動アラーム出力：


アラーム出力を起動するかどうかを設定します。

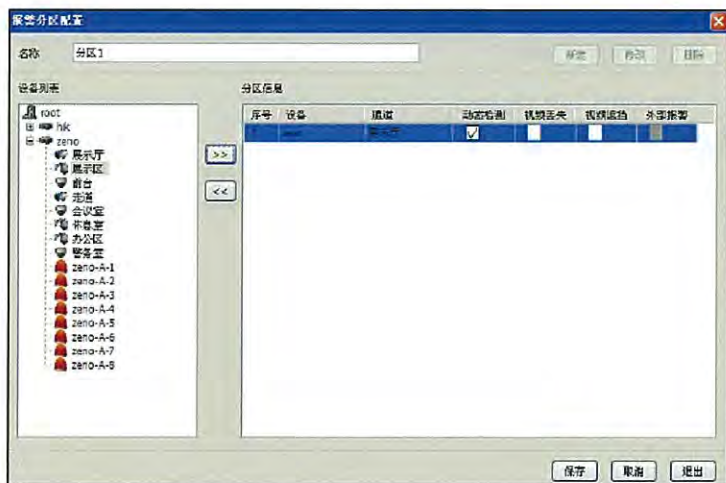



説明

アラーム全局設定は全般的に有効です。アラームをメール、音声で送信する場合、“連動アラーム出力”にチェックを入れてください。

8.4.2 アラーム区域設定

【アラーム】 →  をクリックし、【アラーム区域設定】ページに入ります。



【新規】をクリックして、区域名を修正します。デバイスにアラームを設定したいフロントエンドデバイスを選択し、 右のアラーム区域へ移動する。

をクリックで状態の編集ができます。アラームタイプの起動を確認できます。

【保存】をクリックして新しい区域を作ります。

【修正】をクリックで、アラーム区域の設定を修正できます。

【削除】をクリックで、アラーム区域を削除します。




説明

設定実行中、クライアントを再起動しても実行状態は保存されます。


8.4.3 アラームスケジュール設定

スケジュールごとに、設定した時間でアラーム区域を実行します。

【アラーム】の  をクリックして【アラームスケジュール設定】ページを表示します。

アラームスケジュール設定の開始・終了時間を修正します。アラーム区域を全て削除すると、アラームスケジュールも一緒に削除されます。

8.4.4 アラーム連動設定

【アラーム】の  をクリックして【アラーム連動設定】のページに入ります。



デバイス中の連動設定チャンネルを選択し、アラーム連動設定するものを右に移動します。



アラーム音、ビデオ周波数、アラームページ、電子地図にそれぞれチェックを入れます。連動カメラの【設定】をクリックして「連動ウィンドウ設定」ページを表示します。



【プリセットポイント】に連動チャンネルのプリセットポイントを入力します。

アラーム出力の【出力】をクリックして、連動メールの出力、音声出力の設定ができます。



9. その他の機能の紹介

9.1 右上のボタン


9.1.1 最小化

最小化ボタンをクリック  するとソフトは最小化します。

9.1.2 最大化

最大化ボタンをクリック  するとソフトは最大化します。

9.1.3 シャットダウン

シャットダウンをクリック  して、シャットダウンパネルに入ります。



ライセンス：

ライセンスを選択し、パスワードを入力します。ライセンスの取得方法は全ユーザー共通です。再クリックでライセンスを解除します。

ロック：

ロック後は、ソフトの操作ができません。ソフト画面上の任意のところでクリックすると、パスワードを入力するページが表示されます。

9.2 画面の分割

1,4,6,8,9,10,13,16,20,25,36 画面を、ユーザーの必要に応じて選択してください。



説明

システムのデフォルトは4画面です。

9.3 システムの状態

システム状態エリアではネットワークとCPUの状態を表示します。



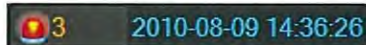
CPU :

現在の機器のCPU状態を表します。曲線の位置が高いほどCPUの使用率は高くなります。

I は混雑を意味し、このアイコンが多くなるほど混雑していることとなります。

9.4 アラーム、時間、ログの表示

システムの時間と、アラームデータの数を表示します。



アラーム数をクリックすると、アラーム設定画面を表示します。

時間の表示エリアをクリックするとログボックスを表示します。

10. 付録

10.1 よくある質問と回答

Q1: リアルタイム監視または監視グループのクルーズウィンドウに赤字で「ビデオを開けません」と表示されています。

A1: 1. デバイスが故障しているおそれがあります。
2. ネットワークの混雑により、ビデオのストリームを取得できていない可能性があります。

Q2: PTZコントロールができません。

A2: 原因は3つ考えられます。

1. そのカメラにPTZ機能が付いていない。
2. デバイスがPTZ機能を無効にしている。
3. PTZプロトコルに不備がある。

PTZコントロールプロトコルと設定したアドレスコードを確認してください。同時に“PTZがある”を選択し、プロトコルをPTZのデコーダボードと一致させてください。485ケーブルの“+”“-”が正しいか確認してください。

Q3: ローカル録画ファイルの再生をしたい。

A3: デバイスに対応するプレーヤーをしようしてください。検索ウィンドウのファイル検索でローカル録画を再生できます。

IMSeye 携帯電話顧客ユーザー マニュアル

目次

1. Androidシステム	2
1-1 紹介	2
1-2 インストール及び操作方法	3
2. iPhoneシステム	7
2-1 紹介	7
2-2 インストール及び操作方法	7
3. Symbianシステム	12
2-1 紹介	12
2-2 インストール及び操作方法	12
4. Blackberryシステム	17
2-1 紹介	17
2-2 インストール及び操作方法	17
5. Windowsmobileシステム	24
2-1 紹介	24
2-2 インストール及び操作方法	24
6. 携帯電話サポート	30

1. Android システム

1.1 紹介

この説明書は主にAndroid携帯電話へのインストールの仕方及び監視ソフトウェアの使用に関するものです。

携帯電話監視システム (Android)の主な機能と働き：

- ・リアルタイムビデオ監視機能
- ・PTZ制御機能（PTZに対してのみ）
- ・ビデオ録画、画像スクリーンショット機能
- ・警報機能

必須条件：

Android システム 1.5 バージョン以上に対応， HTC G1， HTC Magic， HTC Hero， HTC G5 等の携帯電話を含む。

1.2 インストール及操作方法

- 1) データラインを通してAndroid携帯電話にIMSeye+(v2.1.2).apkインストールパックをコピーして下さい。
- 2) リストからIMSeye+(v2.1.2).apkを見つけ、プログラムのインストールをクリックして下さい。
インストール後以下のような画面が表示されます。











- 3) IMSeye+プログラムアイコンをクリックし、プログラムを実行後以下のような初期画面が表示されます。



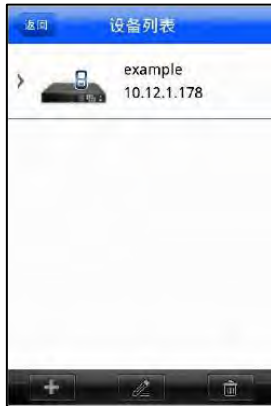
4) リアルタイムプレビューをクリックすると、以下のような初期画面が表示されます。



ボタン機能は以下の通りです。

ボタン機能	名 称	機能の詳細
	プレイ	プログラムが装置に繋がりと、ビデオが再生されます。
	写真撮影	現在の画像を写真撮影します（写真撮影黙認ファイルは黙認ソフトウェアのローカル写真撮影ファイルリストに保存されます。）
	ビデオ撮影	ビデオ撮影（録画黙認ファイルは黙認ソフトウェアのローカル撮影リストに保存されます）
	アラーム	DVRの警報情報を受け取ります。 （アラームボタン点灯時）
	デバイスリスト	接続装置とチャンネルを選択して下さい。
	チャンネル選択	装置のビデオチャンネルを再生する為に番号を選んで下さい。 次のグループと組み合わせることにより8、16チャンネルの切り替えができます。
	次のグループ	チャンネルの次のグループを選択することができます。
	PTZ制御	PTZの制御ができます（PTZの上下左右の移動，焦点距離の加減、PTZ制御レンズの絞りの加減等）

5) 初めて使用するとき、或いはパラメーターの変更が必要な時、以下のように、【リスト】をクリックし装置の追加・削除及び変更の設定を行って下さい。+プログラムアイコンをクリックし、プログラムを実行後以下のような初期画面が表示されます。



装置の追加



装置情報の修正



すでにある装置情報の削除

クリックし装置の追加後、以下の画面が表示されます。

装置の名称 (DeviceName)	装置の別名複数の装置を区別する際に便利です。
装置のアドレス (Address)	DVR のパブリックネットワーク IP アドレス或いはDDNS。
監視ポート (Command Port)	DVR 上に設置したサーバーポート。
ユーザー名 (User Name)	IEポートに設定したユーザー名と同じ。
パスワード (Password)	IEポートに設定したパスワードと同じ
チャンネルの合計数 (Max Channel)	装置のチャンネルの合計数の選択



戻るボタン。



確定は保存のボタン。

- 6) アルバムより、リアルタイム監視中の画像のカットをチェックできます。以下の事が可能です。

スライドショー モード :

画像情報(画素、サイズ及び切り取った画像の情報)の表示 :

画像の拡大・縮小 : 削除したい画像の選択 (削除ボタンをクリックし、その画像の削除)

- 7) ビデオ

MP4 モードでの録画 :

録画時間の表示 :

録画した映像の巻き戻し再生、早送り再生及び一時停止の機能 :

録画した映像のクリック編集及び削除機能 :

- 8) 全画面再生モード

携帯電話で再生時、自動的に全画面モードになります。

- 9) チャンネルの切り替え

再生したいチャンネルを選択すると、プログラムが自動的にそのチャンネルを開き、再生を開始します。

黙認プログラムは1～4チャンネルに表示されます。次に続くチャンネルを選択すると、チャンネル番号は5-8, 8-12,12-16サイクルスイッチに切り替えられます。

対応携帯電話のDVRパラメーター設定の参照 :

解像度 : CIF 或いは QCIF :

フレーム率 : 5-10 フレーム ;

ストリームタイプ : 限定 :

ストリーム : 64-256Kb/S :

注 : 携帯電話の性能及びネットワークの状況により調整が可能です。携帯電話の性能が高くネットワークの状況がより良好な程、より良い効果が期待できます。ネットワークの状況が悪い場合、フレーム率を下げ調整して下さい。

ステップ7 :

「オン」をクリックして、P2Pを有効にします。【確定】をクリックして、設定を終了します。

P2Pの有効化 :	オンまたはオフ
デバイスID :	ID番号はデバイスごとに異なり、修正することはできません。
パスワード :	システムにより生成されたもので、修正可能です。
ローカルポート :	デフォルトは3000、修正可能です。
接続状態 :	デバイスとサーバーの接続状態を確認できます。
① オンライン (正常) →接続されています。	
② オフライン (異常) →インターネットに接続できていません。	

注意 : オフライン状態の場合、LANライトが点灯しているか確認し、デバイスが接続されているか確認してください。

第2章. P2Pのインターネット操作

2.1 ActiveXコントロールのインストール

アドレスバーにP2Pのサイトアドレス (WebサーバーのPCのIPアドレス。

例 : <http://www.vssweb.net>) を入力し、ログイン画面に入ります。画面は次のとおりです。

internet Explorerのセキュリティ警告が表示されます。画面は次のとおりです。

【ActiveX コントロールとプラグインの実行】を選択するとActiveXコントロールのインストール画面が表示されます。画面は次のとおりです。

2. iPhone システムシステム

1.1 紹介

この説明書は主にiPhone携帯電話へのインストールの仕方及び監視ソフトウェアの使用に関するものです。

携帯電話監視システム (iPhone)の主な機能と働き：

- ・リアルタイムビデオ監視機能
- ・PTZ制御機能（PTZに対してのみ）
- ・ビデオ録画、画像スクリーンショット機能
- ・警報機能

必須条件：

iOS 3.0或いはそれ以上のバージョン， iPhone,iPod touch 等を含む携帯電話に対応。

1.2 インストール及操作方法

- 1) iPhoneのApp Storeにアクセスし、検索ページに切り替え、アドレスバーのIMSeYeをクリックして下さい。

プログラムインストールパックの表示がされますので、インストールを開始して下さい。インストール後、以下のようなプログラムアイコンが表示されます。











- 2) IMSeYeアイコンをクリックして下さい。プログラムを起動後 以下のような画面が表示されます。



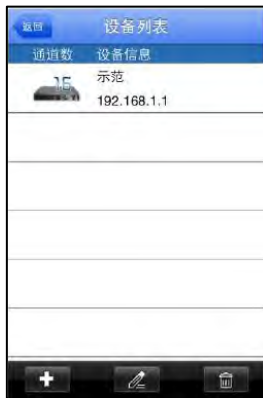
3) リアルタイムプレビューをクリックすると、以下のような初期画面が表示されます。



ボタン機能は以下の通りです。

ボタン機能	名 称	機能の詳細
	プレイ	プログラムが装置に繋がりと、ビデオが再生されます。
	写真撮影	現在の画像を写真撮影します（写真撮影黙認ファイルは黙認ソフトウェアのローカル写真撮影ファイルリストに保存されます。）
	ビデオ撮影	ビデオ撮影（録画黙認ファイルは黙認ソフトウェアのローカル撮影リストに保存されます）
	アラーム	DVRの警報情報を受け取ります。 （アラームボタン点灯時）
	デバイスリスト	接続装置とチャンネルを選択して下さい。
	チャンネル選択	装置のビデオチャンネルを再生する為に番号を選んで下さい。 次のグループと組み合わせることにより8、16チャンネルの切り替えができます。
	次のグループ	チャンネルの次のグループを選択することができます。
	PTZ制御	PTZの制御ができます（PTZの上下左右の移動，焦点距離の加減、PTZ制御レンズの絞りの加減等）

4) 初めて使用するとき、或いはパラメーターの変更が必要な時、以下のように、【リスト】をクリックし装置の追加・削除及び変更の設定を行って下さい。



装置の追加



装置情報の修正



すでにある装置情報の削除

クリックし装置の追加後、以下の画面が表示されます。



装置の名称 (DeviceName)	装置の別名複数の装置を区別する際に便利です。
装置のアドレス (Address)	DVR のパブリックネットワーク IP アドレス或いはDDNS。
監視ポート (Command Port)	DVR 上に設置したサーバーポート。
ユーザー名 (User Name)	IEポートに設定したユーザー名と同じ。
パスワード (Password)	IEポートに設定したパスワードと同じ
チャンネルの合計数 (Max Channel)	装置のチャンネルの合計数の選択

返回

戻るボタン。

确定

確定は保存のボタン。

5) アルバムより、リアルタイム監視中の画像のカットをチェックできます。以下の事が可能です。

スライドショー モード：

画像情報(画素、サイズ及び切り取った画像の情報)の表示：

画像の拡大・縮小：削除したい画像の選択 (削除ボタンをクリックし、その画像の削除)

6) ビデオ

MP4 モードでの録画：

録画時間の表示：

録画した映像の巻き戻し再生、早送り再生及び一時停止の機能：

録画した映像のクリック編集及び削除機能：

7) 全画面再生モード

携帯電話で再生時、自動的に全画面モードになります。

8) チャンネルの切り替え

再生したいチャンネルを選択すると、プログラムが自動的にそのチャンネルを開き、再生を開始します。

黙認プログラムは1～4チャンネルに表示されます。次に続くチャンネルを選択すると、チャンネル番号は5-8, 8-12,12-16サイクルスイッチに切り替えられます。

対応携帯電話のDVRパラメーター設定の参照：

解像度：CIF 或いは QCIF：

フレーム率：5-10 フレーム；

ストリームタイプ：限定：

ストリーム：64-256Kb/S：

注：携帯電話の性能及びネットワークの状況により調整が可能です。携帯電話の性能が高くネットワークの状況がより良好な程、より良い効果が期待できます。ネットワークの状況が悪い場合、フレーム率を下げ調整して下さい。

Email設定と使用説明

マニュアル

目次

1. Email基本設定	-----	3
2. Emailの使用	-----	3
2-1 特別配置のEmail機能	3
2-2 当地通報のEmail機能	4
2-3 ビデオ測定のEmail機能	5
3. よくある質問	-----	5

1. Email基本設定

初めて使用するDVRのEmail機能、DVRは郵送でユーザーにDVRの最新の情報をお知らせします。特別配置中に起った、ハードディスクなし、ハードディスク空き領域不足、ネットワークに接続できない、IP衝突、ハードディスクの問題情報、さらに動きの測定、ビデオ障害物、ビデオ紛失、当地通報の通報情報を含みます。

以下はEmailの設置の順序です：

順を追ってDVRの【メインメニュー】 - 【配置管理】 - 【ネットワーク配置】 - 【上級配置】 - 【Email】へと進んで下さい。配置インターフェイスは図1を参照：



- 【SMTP】 : 全てのメールボックスと対応する必要があります。
- 【ポート】 : メールボックス通信のポート
- 【ユーザー】 : メールボックス名
- 【パスワード】 : メールボックスのパスワード
- 【発信者】 : メールボックス名
- 【件名】 : メールの件名
- 【受信者】 : 相手側のメールボックス、現在一番多くて3人までの受信者
- 【SSL】 : SSL暗号イネーブル
- 【時間間隔】 : 2件のメールの相互の時間間隔。（デフォルト5秒）

2. Emailの使用

2.1 特別配置のEmail機能

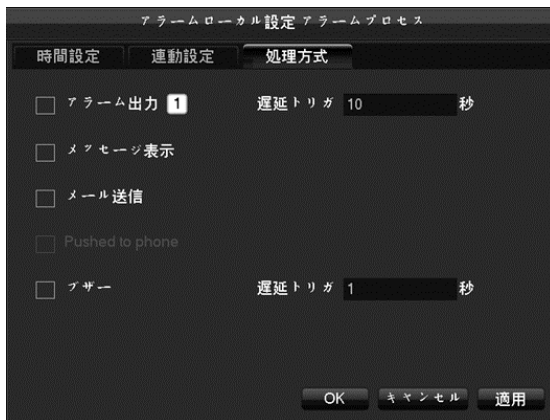
順を追って【メインメニュー】 - 【配置管理】 - 【特別配置】と進んで下さい。配置インターフェイスは図2を参照：



当該異常状況の処理方法において【EMAIL送信】をチェックすることで、もしEmailの配置が既にできているなら、上述の異常な状況を、メールを通してユーザーに知らせ、ユーザーはすぐに対策を採ることができます。

2.2 当地通報のEmail機能

順を追って【メインメニュー】 - 【配置管理】 - 【通報配置】 - 【当地通報】 - 【処理方法】と進んで下さい。配置インターフェイスは図3を参照：



該当する通報タイプ（動きの測定、ビデオ紛失、障害物測定）【処理方法】の中の【EMAIL送信】機能をチェックすることで、もしEmailがすでに設置されているなら、メール方式を通して、動きの測定、ビデオ紛失、障害物測定の状況をユーザーに知らせ、ユーザーはすぐに処理できます。

3. よくある問題

1、画像を含むEmailを送信する配置の順序：

- ① 【メインメニュー】 - 【配置管理】 - 【通報配置】、処理方法の中のEmail送信機能をチェックして下さい。
- ② 該当する通報機能の下方の**スナップショット**を開きます。DVRはその場の通報チャンネルインターフェイスのビデオのスナップ画像を撮影し、その後その画像をメールでお客さまに送信します。

2、よく使用するメールボックス及びポート：

Yahoo : smtp.mail.yahoo.com 25 通常メールの送信
smtp.mail.yahoo.com 465 SSL暗号メールの送信
126 : smtp.126.com 25 通常メールの送信
163 : smtp.163.com 25 通常メールの送信
Gmail : smtp.gmail.com 465 (SSL暗号送信のみに対応)

上述の記載は、数種類のタイプのメールボックスのみのものです。他のメールボックスに対応するサーバー及びポートの情報は、対応するメールボックスシステムにログオンして頂き、お調べ下さい。

FirefoxとChrome

ブラウザアクセスの説明

目次

1. 概説	3
2. インストール	3
2-1 Mozilla Firefox (ファイアーフォックス) ブラウザ	3
2-2-1 IE Tab インストール	4
2-3-2 IE Tab 設置	5
2-2 Google Chrome ブラウザ	6
2-2-1 IE Tab インストール	7
2-2-13 IE Tab 設置	8

1. 概要

このドキュメントは主にMozilla FirefoxとGoogle Chromeブラウザを通して、どのようにDVRにアクセスするかを説明しています。

2. Emailの使用

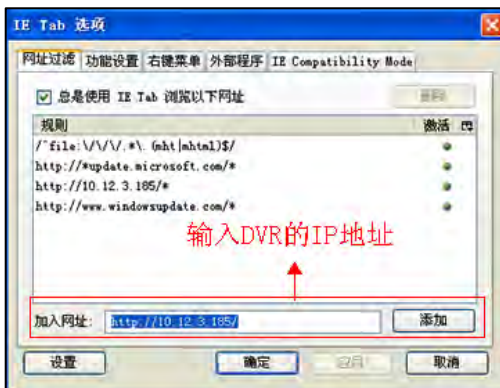
2.1 特別配置のEmail機能

2.1.1 IE Tab インストール

1. ファイアーフォックスを執行し、メニューリストの中の[ツール]->[追加モジュール]
2. 追加モジュール管理の検索欄から、**IE Tab**を検索してプラグイン下さい。
3. 検索完了後、最新版のIE tabモジュールを選択して下さい。**インストール**をクリックし、インストール完了後、ブラウザを再開させて下さい。（注：IE Tabモジュールバージョンは自動的に選択できます。）

2.1.2 IE Tab設置

[メニューリスト]-[ツール]-[IE Tabオプションリスト]をクリックして下さい。表示されるダイアログボックスにアクセスしたいドメイン名或いはIPアドレスを入力して下さい。クリックして追加して下さい。以下の図1を参照：



+ 添加至 CHROME


2.2 Google Chrome ブラウザ

2.1.2 IE Tab インストール


[メニューリスト]-[ツール]-[IE Tabオプションリスト]をクリックして下さい。表示されるダイアログボックスにアクセスしたいドメイン名或いはIPアドレスを入力して下さい。クリックして追加して下さい。以下の図1を参照：

2.2 Google Chrome ブラウザ

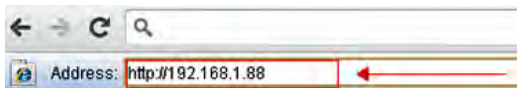
2.2.1 IE Tab インストール

1. google chromeブラウザを実行し、アドレス欄に**ウェブアプリケーションストア**を入力し、Chrome ウェブアプリケーションストアに進んで下さい。
2. 検索欄に“IE Tab”を入力し、IE tabを入力しプラグインして下さい、
 をクリックするとIE tabプラグインの追加が完了できます。

2.2.2 IE Tab 設置

IE Tabコントロールユニットをインストール完了後、ブラウザ右側にIEのアイコンが表示されます  右図参照。

IEアイコンをクリックし、アドレス欄下方にIEのアドレス欄が表示されます。図2参照：



上図に表示されたアドレス欄にDVRのドメイン名或いはIPアドレスを入力すると、アクセスできます。

FNTドメイン名説明

目次

1. 概説	3
2. インストール	3
2-1 Mozilla Firefox (ファイアーフォックス) ブラウザ.....	3.....
2-2-1 IE Tab インストール.....	4.....
2-3-2 IE Tab 設置.....	5.....
2-2 Google Chrome ブラウザ.....	6
2-2-1 IE Tab インストール.....	7
2-2-13 IE Tab 設置.....	8

1. FNTドメイン名説明

【メインメニュー】 -- 【配置管理】 -- 【ネットワーク配置】 -- 【上級配置】 -- 【DDNS】 -- FNTで登録して下さい。

FNTが使用するのはfaceaip.netのサーバーで運搬距離設置の順序は以下の通りです。

1 DDNSタイプから一番最後のタイプFNT DDNSを選択し、チェックして下さい。☑
注意：必ず ☑ して下さい。チェックされないとドメイン名は使用できません。

2 1つのユーザー名を入力して下さい。ドメイン名欄は自動的にドメイン名を作成します。ドメイン名=ユーザー名aceaip.net

3 パスワードを入力して下さい。

4 登録ボタンをクリックして下さい。そのドメイン名が登録されたことがなければ、図1-2のような登録完了を示すフロー図が表示されます。もし図1-3のような登録失敗を示すフロー図が表示されたら、そのインターフェイスにもう一度進み登録をクリックして下さい。どれでも完了できない場合は、ドメイン名を変更して下さい。もし「ユーザーはこのドメイン名を登録されています。」と表示されたら、そのドメイン名はもうすでに他の人に使用されています。再度新しいドメイン名に変更して下さい。

5 状態欄説明

状態 域名服务器连接成功!

装置がすでにドメイン名サーバーに接続されています。

状態 不能解析服务器地址!

faceaip.netサーバーに接続できません。【基本配置】DNSサーバーを変更して下さい。ルータのDNSサーバーに変更することができます。変更アドレス図1-4。

状態 获取更新ip服务器地址错误

解析したIPアドレスに誤りがあります。

- 6 登録完了は、【確定】ボタンをクリックして下さい。保存が完了します。



ルーターのDNS
サーバーに変更

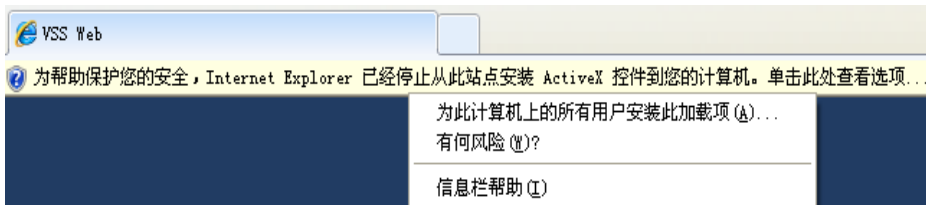
IEコントロールユニット インストール方法

1. コントロールユニット インストール方法

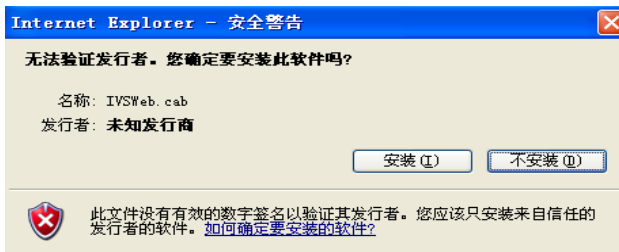
ハードディスクビデオレコーダーがネットワークに正確に接続された後、ブラウザでハードディスクビデオレコーダーにアクセスできます。ローカルエリアのブラウザアドレス欄にハードディスクのIPアドレスを入力し、アウターネットにドメイン名或いはアウターネットIPを入力して下さい。接続が成功すれば登録インターフェイスが表示されます。正確にユーザー名及びパスワードを入力後、図1- 1が表示されます。以下のような操作を行って下さい。：



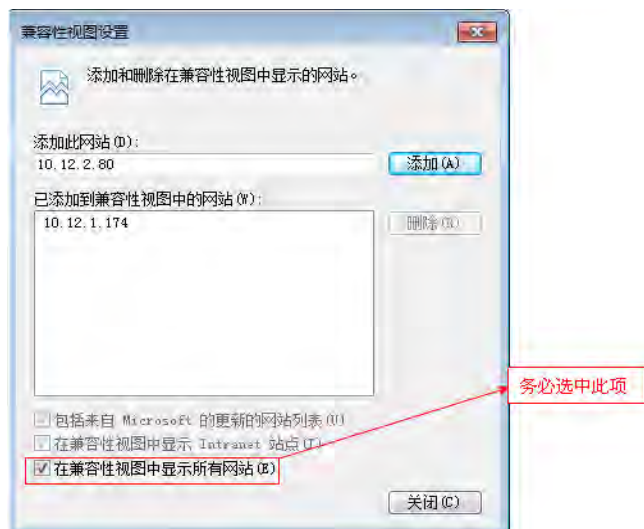
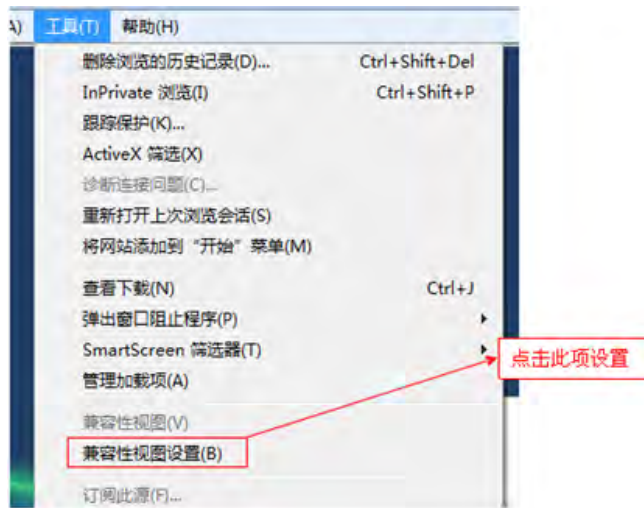
- 1.サーバーはActiveXコントロールユニットをインストールする表示をします。右キーは図1-2のような欄を表示します。クリックでActiveコントロールをインストールします。もし図1-3のようにブラウザがコントロールユニットのインストールを阻止するなら、ブラウザの安全ランクを下げるか或いは信頼サイトを追加して下さい。



- 2.ブラウザの安全ランクを下げ、ブラウザを開き、“ツール”，“Internetオプションリスト”，“安全”，“カスタマイズランク”を選択し，ダウンロードしまだ署名していないActiveXコントロールユニットの権限を“禁止”から“指示メッセージ”に変更して下さい。
- 3.ウェブページを更新し、クリックしコントロールユニットアップロード後、図1-4のような指示メッセージが表示されます。クリックしてインストールして下さい。インストール後、デバイスにアクセスできます。



ご使用のものがIE9.0バージョンのブラウザで、インターフェイスを開き、文字化けするならば、互換性トラブルとの関連性がございます。図1- 5図1- 6に基づいて設定して下さい。



ハードディスクビデオレコーダーのIPアドレスを上図の位置に追加して下さい。

USBアップグレード操作説明

1. 概要

このドキュメントは主にMozilla FirefoxとGoogle Chromeブラウザを通して、どのようにDVRにアクセスするかを説明しています。

2. USBアップグレード操作説明

2.1 アップグレードの順序

1. USBフラッシュメモリーを準備して下さい。ファイルシステムはFAT或いはFAT32；
2. 准备好与DVR製品型番とマッチさせたいアップグレードファイルを準備して下さい。ファイル名は vss.bin とし、USBフラッシュメモリーにコピーして下さい。
3. USBフラッシュメモリーDVRのUSB差込口に挿入して下さい（できるだけ背面パネルのUSB差込口に接続して下さい。背面パネルの電源は電力供給が安定しています。）
4. DVRの【メインメニュー】->【メンテナンス管理】->【バージョン情報】と進み，【開始】をクリックし、ボタンを押すとアップグレードを開始できます。
5. アップグレード完了後，DVR再開が表示されるので，【確定】をクリックし，DVRを再開して下さい。これで、プログラムの更新が完了です。

2.2 注意事項

1. アップグレードの動作中、電源を切ったり入れたりしないで下さい。また、USBフラッシュメモリーを引き抜かないで下さい。
2. 【開始】をクリック後“USBデバイスが見つかりません”と表示されたら、USBフラッシュメモリーを再度挿入し直して下さい。
3. アップグレードの動作中、フリーズしてしまったら、DVRの電源を切り、電源電源を入れて下さい。
4. アップグレード後、フリーズしてしまい起動できないなら、当社アフターサービス部まで速やかにご連絡下さい。

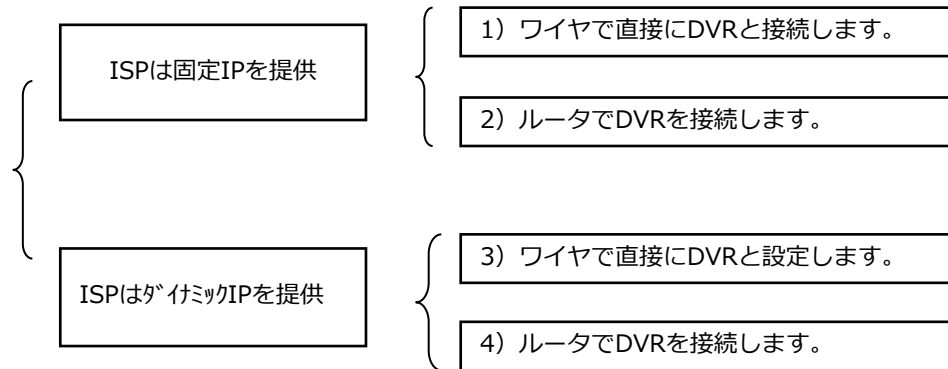
インターネットアクセスと設定案内

目次

1. 概要	3
2. リモート設定ステップ	3
2-1 Mozilla Firefox (ファイアーフォックス) ブラウザ	3
2-1 ポートマッピングの設定	4
2-2 ドメイン名設定	5
3. インターネットテスト方法	3

1. 概要

リモートでローカル局のDVRをアクセスするため、DVRのポートマッピングとDDNSを設定します。以下、ワイドバンドの接続方法です。



ISPは提供したIPが一般的に専用ラインでインターネットと接続します。

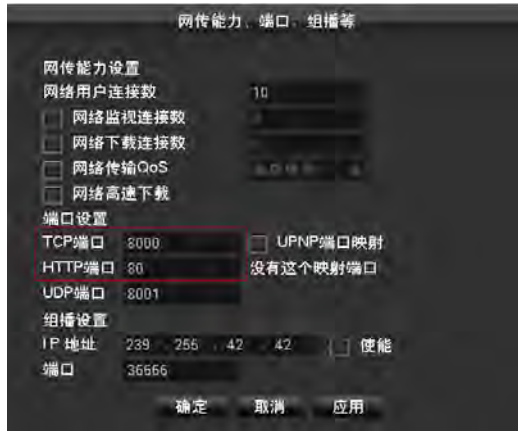
ISPは提供したダイナミックIPが基本的にADSLダイヤル、ISDN、MODEM、優先ブロードバンド環境でインターネットと接続します。

- 1) : ポートマッピングとDDNS設定する場合、ISPは提供した固定IPでリモートアクセスできます。
- 2) : ポートマッピングが必要です。ISPは提供した固定IPとポート番号でリモートアクセスできます。
- 3) : DDNS設定が必要です。ドメイン名でリモートアクセスできます。
- 4) : ポートマッピングとDDNS設定が必要です。ドメイン名とポート番号でリモートアクセスできます。

2. リモート設定ステップ

2.1 ポートマッピングの設定

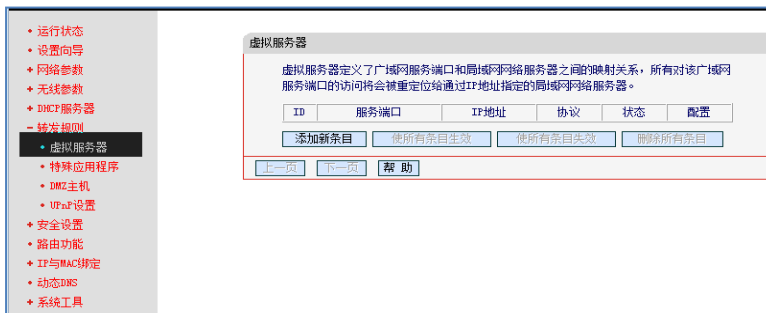
デフォルトHTTPポートは80、TCPポートは8000です。検査或は修正するなら、【メインメニュー】->【配置管理】->【インターネット設定】->【高級設定】->【インターネット転送能力、ポート、マルチキャストなど】設定設置モジュールを順番に開いてください。インタフェースは図1です。



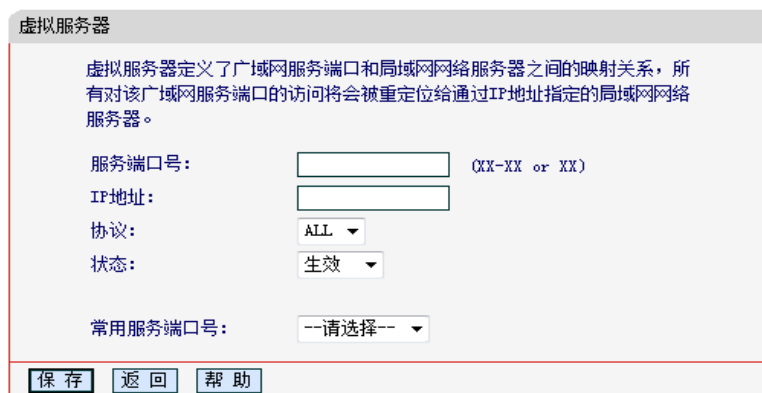
HTTPポートとTCPポートはルータでポートマッピングしてください。

TENDAルータは例として、説明します。

ルータの設定管理インタフェースを表示します。【転送ルール】->【仮想サーバー】を選択します。図 2です。



【新箇条を追加】 ポートマッピングボックスをポップアップします。図 3のようです。



【サーバーポート番号】 DVRのHTTPデフォルトポート番号80、TCPデフォルトポート番号8000、UDPデフォルトポート番号8001を入力してください。IPアドレスにDVRが設定したIPアドレスを入力してください。状態はデフォルト【発効】、シングルクリックで保存できます。(ポート番号はコンフリクトなら、使っていない番号を変更してください。)

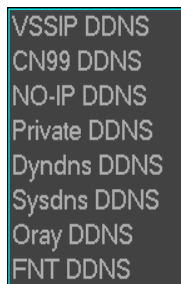
注意：ルータとDVRのポート番号を同じにしてください。

2.2 ドメイン名の設定

順番で【メインメニュー】->【配置管理】->【インターネット設定】->【高級設定】->【DDNS】設定リジュームを開いてください。図 4 のようです。



その中、DDNSタイプの選択は図 5 のようです。

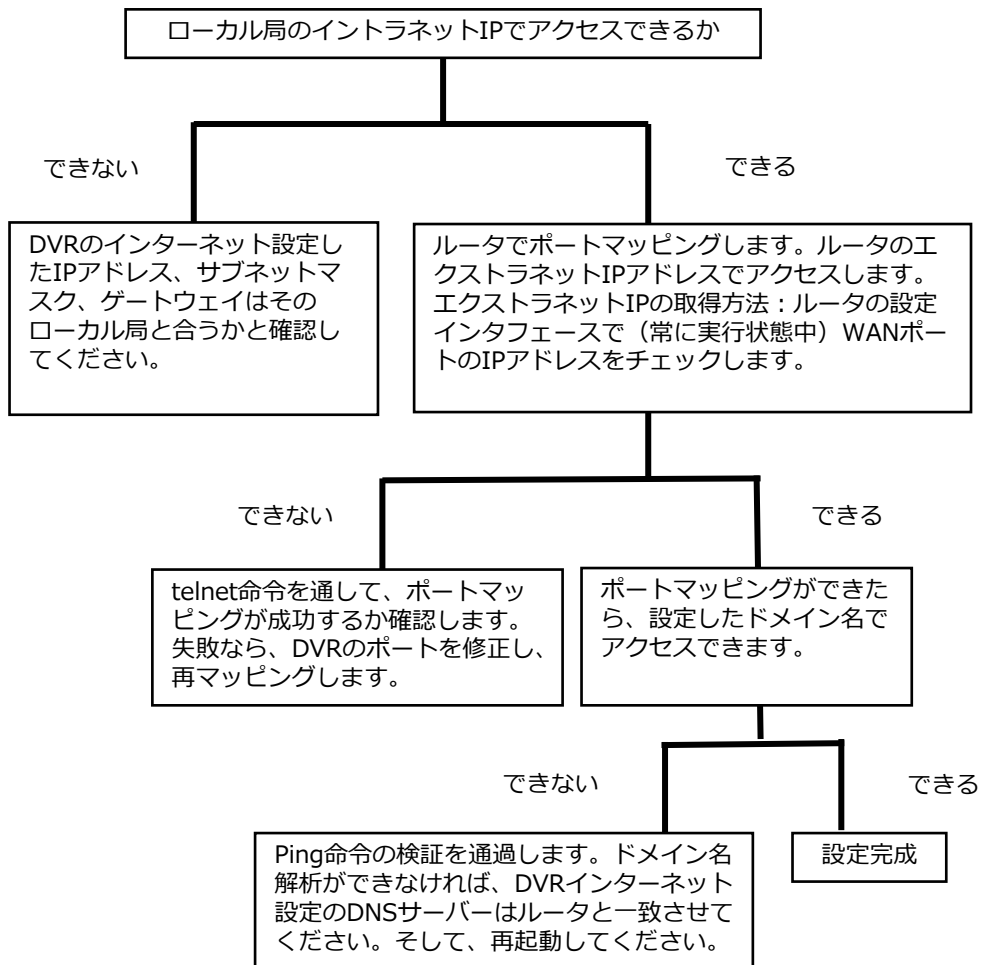


ユーザーは自分でDDNSタイプを選べます。

3. インターネットテスト方法

- ①スタートメニュー->検索->cmd入力、EnterでDOSインタフェースを表示します。
- ②ping ドメイン名の指令で、ドメイン名の接続を成功するか確認できます。解析したIPアドレスはルータWANポートのアドレスと一致するなら、ドメイン名の通信が成功します。違うなら、通信が失敗です。DVRの再起動或はDVRインターネット設定したDNSサーバーはルータに一致させます。
- ③telnet ドメイン名ポート番号の指令はポートマッピングの成功を確認します。画面が黒くなり、カーソルだけフラッシュするなら、成功です。異なる場合は失敗です。ポートを変更して下さい。

テスト方法は下のプロセスを参考してください。



インターネットでバージョンアップ説明書

目次

1. 説目	-----	3
2. インターネットでバージョンアップ	-----	3
2-1 Mozilla Firefox (ファイアーフォックス) ブラウザ	3
2-1 準備	4
2-2 ステップ	5
3. 注意事項	-----	3

1. 説明

RECUpgrade_V2.2.1.0.R.12060以上のバージョンの説明書となります。
下記機能の説明です。

- 1.DVRファームウェアのバージョンアップ
- 2.DVR WEB 独立のバージョンアップ

2. インターネットでバージョンアップ

2.1 準備

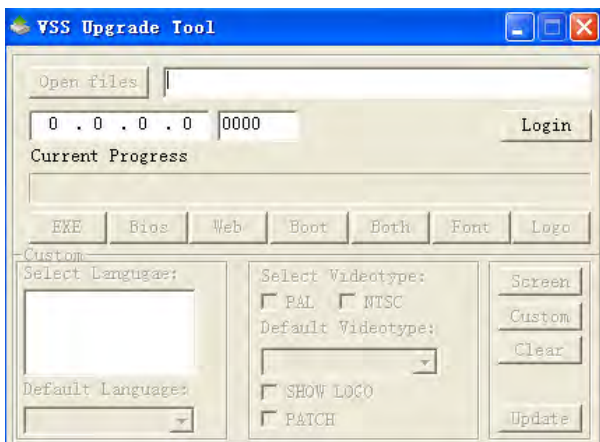
- 1) DVRの動作状態は正常です。電源、ネットワークの接続は間違いありません。
- 2) バージョンアップファイルはDVR型番と合わせます。
- 3) インターネットバージョンアップのツールを準備してください。

2.2 ステップ



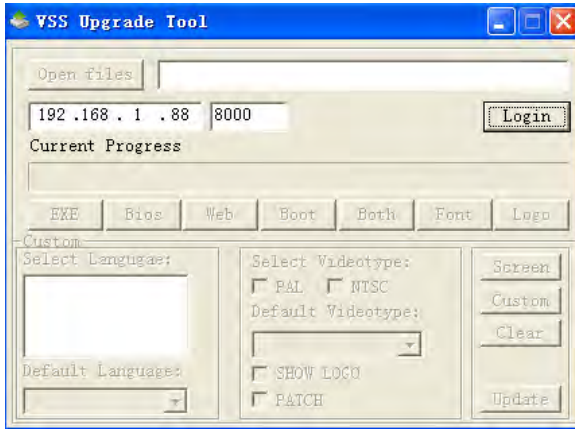
RECUpgrade.exe

- 1) 実行プログラム：このプログラムをダブルクリックします。
図1- 1のようです。



2) バージョンアップツールソフトのパラメータ

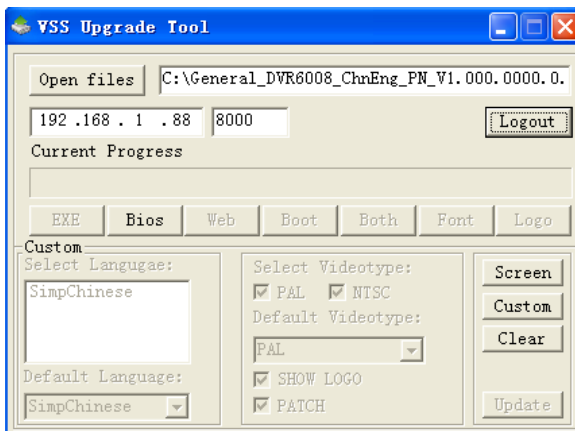
DVRのIPアドレスを入力、ポート番号はDVRのTCP設定と合わせて下さい。DVRデフォルトは8000です。図1- 2



【Login】をクリックして、図1- 3のような提示ボックスをポップアップします。DVRのユーザーとパスワードを入力してください。



ユーザーとパスワードを入力してから、【OK】をクリックして、アイコンは【Logout】に変更します。バージョンアップするためプログラム[Open files]を取り込みます。（ファイル名の変更は必要ありません）



2) バージョンアップツールソフトのパラメータ

DVRのIPアドレスを入力、ポート番号はDVRのTCP設定と合わせて下さい。DVRデフォルトは8000です。図1- 2

【BIOS】	クリックでバージョンアップ
【Web】	クリックでwebのバージョンアップ
【Logo】	クリックで起動する時のLogoバージョンアップ
【Screen】	クリックでプリントスクリーン機能
【Clear】	機能を設定してください。クリックで再起動にします。
【Custom】	パラメータを設定します。

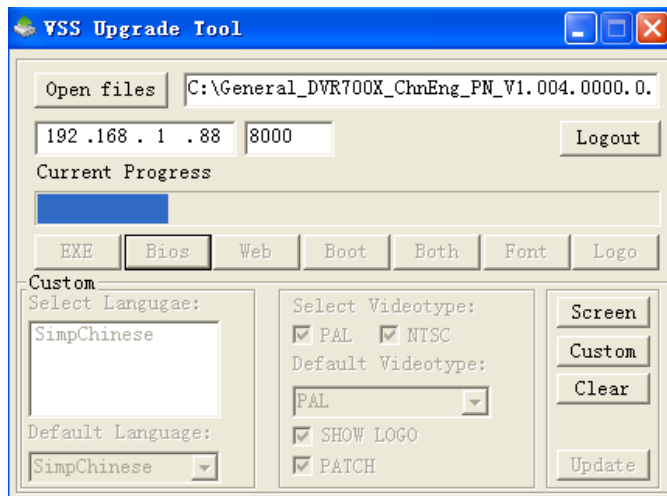
図1- 6のような画面をポップアップしたら、バージョンアップが成功です。失敗なら、図1- 7のような画面をポップアップします。バージョンアップしてから、自動に再起動をします。

起動logoの要求：

- ピクチャーの名前はbmp_logoに変更します。8位或は16位のbmpモードです。
- ピクセルは800*600より小さいです。

チャンネルlogo：

- ピクチャーの名前はbmp_logo_middle.bmpに変更します。
- チャンネル logoの色を取り消します。端は0,0,0と 255,0,255二種類色を取り消せません。





注意：

- A. DVRはバージョンアップしてから、提示なしで自動的に再起動します。メインメニュー→メンテナンス管理→バージョン情報で確認できます。
- B. DVRのメニューを開く状態でデータの転送ができません。[Send Data Error]を提示します。この時、メニューを戻して、DVRの操作もログアウトしてください。

3. 注意事項

- 1) インターネットの速度を保つため、DVRのローカル端はインターネットと接続しなければならないです。
- 2) IPアドレス、TCPポートと本機のIPアドレス、TCPポートを一致してください。
- 3) ファームウェアをバージョンアップする時、ネットワーク断、停電など発生するとバージョンアップができなくなります。再バージョンアップが必要です。
- 4) システムバージョンアップはハードディスクが正常に動作できない恐れがあります。
- 5) バージョンアップ中でハングアップが発生すると、再起動するか電源を抜いて再接続してください。
- 6) ハングアップが発生してから、起動ができない場合は弊社と連絡して下さい。

P2Pインターネット操作マニュアル

目次

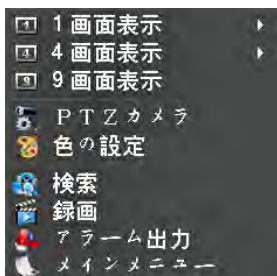
1.デバイス設定	2
1-1 デバイスのP2P機能設定	2
2.P2Pのインターネット操作	5
2-1 コントロールのインストール	5
2-2 ログイン画面	7
2-3 デバイス管理	8
2-4 リアルタイムビデオ監視	9
2-5 PTZコントロール	10
2-6 ログアウト	11
3.デバイスのアップグレード	12
4. Q&A	13

1. デバイス設定

1.1 サーバーに接続するデバイスの状態の確認

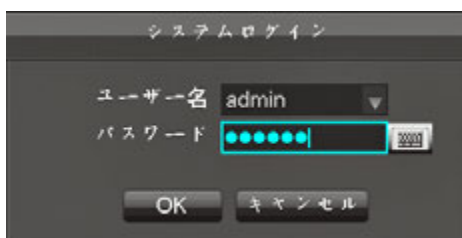
ステップ 1 :

デバイス画面を右クリックで「メインメニュー」を選択します。画面は次のとおりです。



ステップ 2 :

パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して下さい。画面は次のとおりです。



ステップ 3 :

パスワードを入力してメインメニューにログインし、デバイス管理をクリックします。画面は次のとおりです。



ステップ4：

設定 → ネットワークをクリックします。画面は次のとおりです。



ステップ5：

ネットワーク → P2Pをクリックします。画面は次のとおりです。



ステップ6：

P2Pをクリックすると、次のような画面が表示されます。



ステップ7：

「オン」をクリックして、P2Pを有効にします。【確定】をクリックして、設定を終了します。

P2Pの有効化：	オンまたはオフ
デバイスID：	ID番号はデバイスごとに異なり、修正することはできません。
パスワード：	システムにより生成されたもので、修正可能です。
ローカルポート：	デフォルトは3000、修正可能です。
接続状態：	デバイスとサーバーの接続状態を確認できます。
① オンライン（正常）→接続されています。 ② オフライン（異常）→インターネットに接続できていません。	

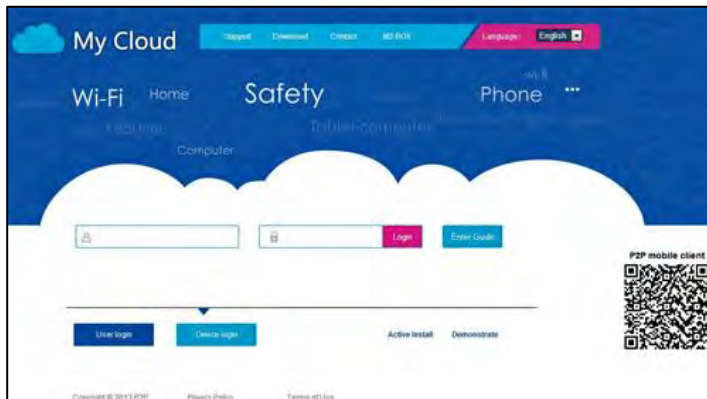
注意：オフライン状態の場合、LANライトが点灯しているか確認し、デバイスが接続されているか確認してください。

第2章. P2Pのインターネット操作

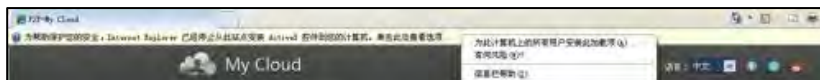
2.1 ActiveXコントロールのインストール

アドレスバーにP2Pのサイトアドレス（WebサーバーのPCのIPアドレス。

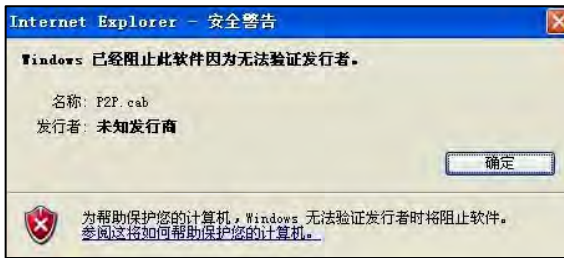
例：http://www.vssweb.net）を入力し、ログイン画面に入ります。画面は次のとおりです。



Internet Explorerのセキュリティ警告が表示されます。画面は次のとおりです。



【ActiveX コントロールとプラグインの実行】を選択するとActiveXコントロールのインストール画面が表示されます。画面は次のとおりです。



インストールできない場合、IEのセキュリティレベルが高くなっている可能性があります。
【OK】をクリックしてIEのセキュリティ設定をします。

ステップ 1 :

【ツール】をクリックしてインターネットオプションを選択します。画面は次のとおりです。



ステップ 2 :

【信頼済みサイト】をクリックします。画面は次のとおりです。



ステップ 3 :

【追加】をクリックします。

追加が完了したら【閉じる】をクリックします。画面は次のとおりです。



ステップ 4 :

【レベルのカスタマイズ】をクリックします。画面は次のとおりです。



ステップ 5 :

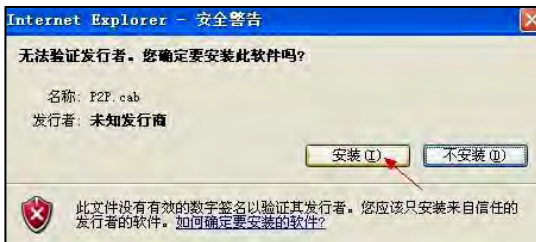
ActiveXコントロールをすべて有効にし、ダウンロードを実行して【OK】をクリックします。画面は次のとおりです。





ステップ 6 :

ページを更新して、【インストール】をクリックします。画面は次のとおりです。



注：IEの設定ができない、ActiveXがダウンロードできない場合、手動でActiveXをインストールすることができます。【ダウンロードセンター】をクリック、またはユーザーログインの【ActiveXコントロール】でP2P.exeというファイルをダウンロードして、インストールをクリックしてください。

2.2 ログイン画面

ログイン画面には、ユーザーログイン画面とデバイスログイン画面の二種類の異なる画面があります。初回ログイン時に新規登録が必要です。ユーザーログイン画面を利用する場合、ユーザー名とパスワードを入力してログインします。デバイスログイン画面の場合はデバイスのシリアルNO.とパスワードを入力してログインします。画面は次のとおりです。



注：

ユーザーガイドではデバイスのログインをサポートしています。ユーザーログインモードでは複数のデバイスの管理ができます。

下図はデバイスのログイン後の画面です。ユーザー名とパスワードを入力して【ログイン】をクリックし、画面に入ります。



これでインストールは完了です。

2.3 デバイス管理



番号	タイプ	説明
1	チャンネル選択	画面に表示されるチャンネル番号を選択します。
2	機能キー	ローカル再生：ローカル録画したビデオを再生します。 全チャンネル選択：リアルタイム監視画面ですべてのチャンネルをオンにします。
3	ビデオ監視画面	リアルタイム監視画面または録画再生画面を表示します。
4	画像色とその他設定	画像色では明るさ、コントラスト、彩度が調節できます。その他の設定はスナップ画像の保存場所の設定、録画ダウンロードの保存場所の設定と再起動等です。
5	PTZコントロール	PTZコントロールメニュー
6	システムメニュー	システム設定、録画検索、アラーム設定、ログアウトなどの機能です。

2.4 リアルタイム監視

WEB操作画面に入ったら、焦点チャンネル画面を選択します。焦点チャンネル画面は薄い水色の枠で表示されます。

画面左側のツールバーで選択したリアルタイム監視チャンネルをオンにすることができます。画面は次のとおりです。



エリア2をクリックして、チャンネルのメインストリームまたはサブストリームのオンとオフを選択できます。画面は次のとおりです。DVRのIP情報とビットレートの情報を表示します。









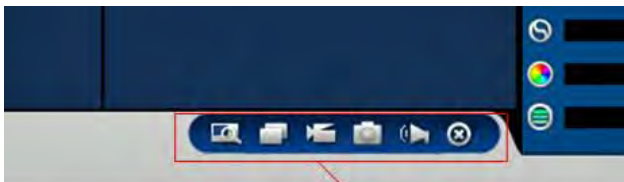
画面の左下ではリアルタイムビデオのチャンネル名を表示します。

画面の右上ではリアルタイムビデオの時間情報を表示します。

画面の左下では画面の切り替えができます。「」をクリックして、1画面/複数画面の切り替えができます。

画面の右下は機能キーです。（図5-6参照）部分拡大、画面数の切り替え、ローカル録画、スナップショット、音声コントロールの機能があります。

-  部分拡大：監視画面の部分拡大ができます。
-  画面数の切り替え：1画面/複数画面の切り替えができます。
-  ローカル録画：リアルタイム再生と同時にPCで録画を保存します。保存場所はその他の設定で設定できます。
-  スナップ：ローカル再生チャンネルの画面のスナップを撮ります。画像保存場所はその他の設定で設定できます。
-  音声コントロール：音声のオンとオフをします。
-  画面を閉じる：クリックしてビデオ画面を閉じます。



功能键区

2.5 PTZコントロール

PTZコントロールを使用する前に、PTZプロトコルの設定をしなければなりません。

(【外部設定】→【PTZ設定】)、そうしなければ、PTZコントロールを利用できません。

PTZの方向、ステップ、ズーム、フォーカス、絞り、プリセット、クルーズ、パターン、パターン記録、ライト、ワイパー、水平回転などのコントロールができます。

ステップは方向操作のコントロールです。例：ステップ8の回転スピードはスピード1の回転スピードより速くなります。

PTZは上下左右、左上、右上、左下、右下の8方向をサポートします。



PTZコントロール

ラインスキャン

操作：方向ボタンでカメララインスキャンの左罫線を選択します。左罫線設定ボタンのクリックで左罫線の設定ができます。再度方向ボタンでカメララインスキャンの右罫線を選択します。右罫線設定ボタンのクリックで右罫線の設定ができます。以上でラインスキャンの設定が完了です。

プリセット点

操作：方向ボタンでカメラを任意の位置まで動かし、プリセット点の入力ボックスでプリセット点の値を入力します。追加ボタンをクリックで保存します。

クルーズグループ

操作：クルーズの入力ボックスでクルーズ値を入力し、プリセット点の入力ボックスでプリセット点の値を入力します。追加ボタンをクリックしてクルーズグループにプリセット点をひとつ追加できます。複数回の操作で複数のプリセット点を追加できます。また、削除ボタンで、追加したプリセット点を削除できます。複数回の操作で複数のプリセット点を削除できます。

パターン

操作：現在の状態をパターン記録Xとして、記録開始ボタンをクリックします。そして、PTZコントロールメニューに戻り、ズーム、フォーカス、絞り、方向等を操作してからパターン設定メニューに戻り、停止ボタンをクリックします。これで、ひとつのパターンの設定は完了です。


補助端子

任意の項目を選択して、開始または停止ボタンをクリックします。

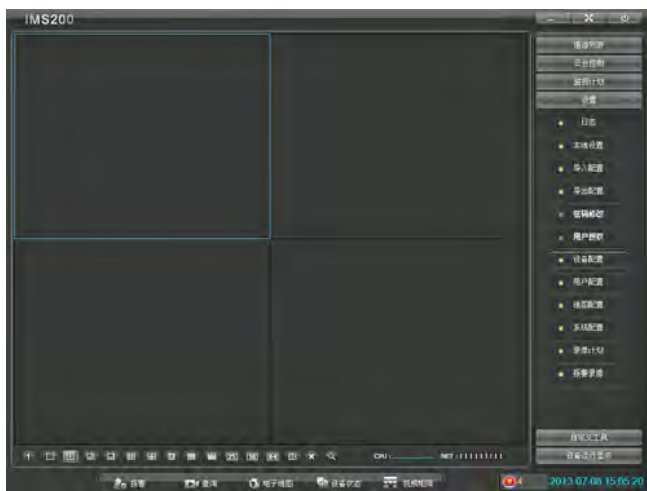
ライト・ワイパー

PTZプロトコルにライトとワイパーがあれば、オンとオフの操作ができます。

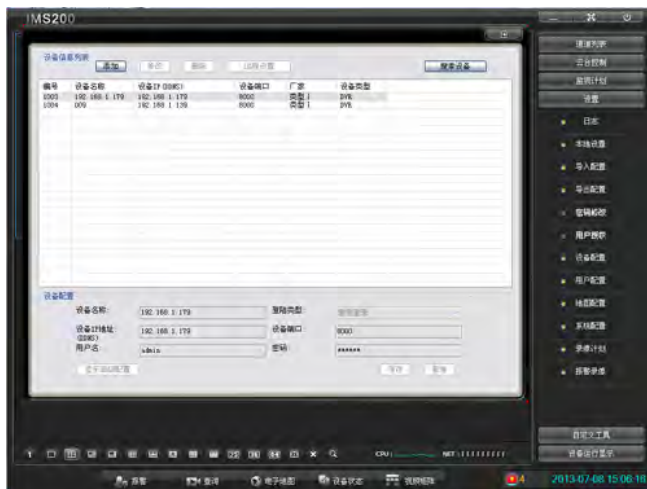
2.6 ログアウト

 をクリックで、ログアウトできます。

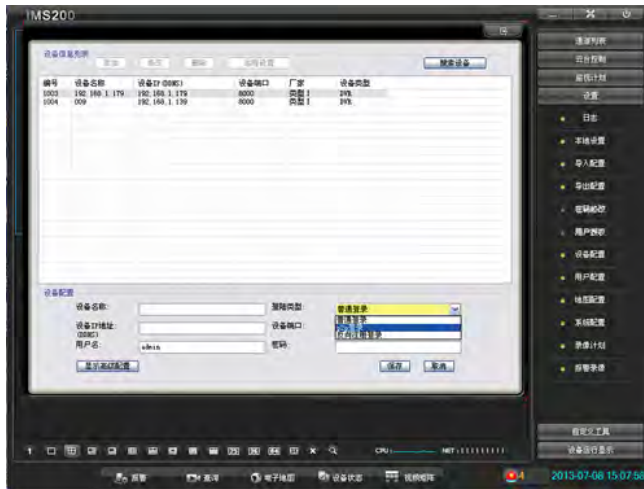
2.7 クライアントのP2Pログイン



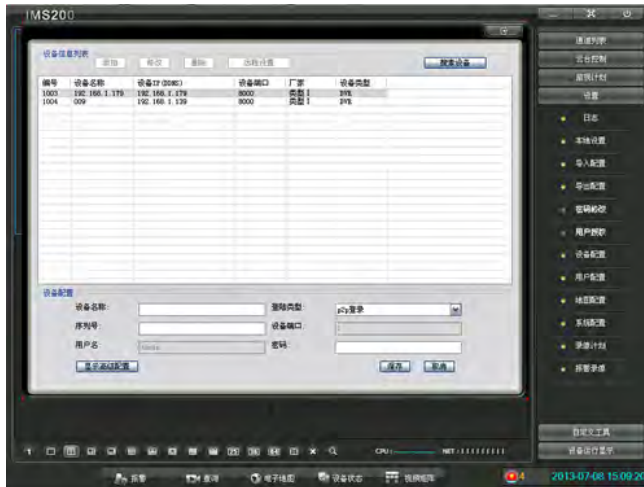
1. “デバイス設定”をクリックします。



2. “追加”をクリックします。



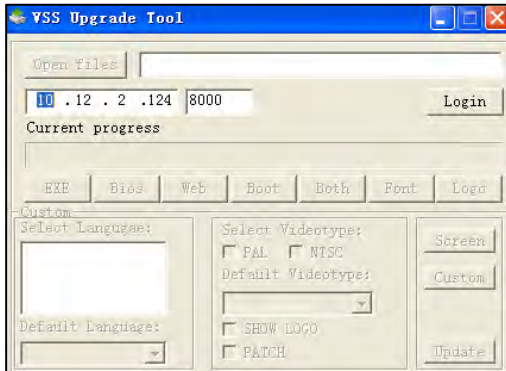
3. ログインタイプは“P2Pログイン”を選択します。



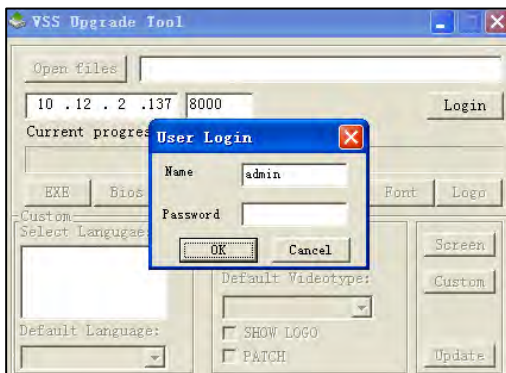
4. デバイス名は任意で構いません。シリアルNO.はDVRの“デバイスID”を参照してください。パスワードはDVRの“コントロールパスワード”を参照してください。

第3章. デバイスのアップグレード

1. DVRのアップグレードファイルを展開します。
(例 : DeviceUpdate_V1.10.R.20120822.rar)
2. DVRのアップグレードツールをダブルクリックで開きます。(例 : RECUpgrade.exe)



3. DVRのIPとTCPポートを入力します。ログインをクリックすると、ログイン画面が表示されます。画面は次のとおりです。



4. ユーザー名とパスワードを入力してOKをクリックで、ログインができます。
5. ログイン後、ファイルを開きupdatepacket.binファイルを右のボックスにドラッグして入れます。画面は次のとおりです。



6. BIOSをクリックするとアップグレードを開始します。

第4章. Q&A

Q : WEBにログインできたが、ActiveXコントロールが動作せず、リアルタイムビデオの監視もできません。

A: ブラウザを開き、ツール→インターネットオプション→セキュリティ → 信頼済みサイトをクリックしてP2Pアドレス<http://www.vssweb.net>を追加します。[注意 : このゾーンのサイトには、すべてサーバーの確認 (https:) を必要とするチェックをいれないでください] 確定してから、レベルのカスタマイズをクリックします。スクリプトを実行しても安全、とマークされているActiveXコントロールを有効にし、スクリプトを実行してください。保存して、IEを再起動して下さい。

B: 手動でActiveXのインストールをします。【ダウンロードセンター】のクリックまたはユーザーログインの【ActiveX】でP2P.exeファイルをダウンロードします。ダウンロード後、ダブルクリックでインストールします。

よくある質問

目次

1. DVRが起動できない	2
2. 起動が遅い	2
3. DVRを起動して数分後、自動的に再起動またはフリーズする	2
4. チャンネル表示と音、ビデオのアウトプット	3
5. ビデオ映像が異常	4
6. ローカル再生	6
7. インターネット接続エラー	8
8. 録画保存とダウンロード	9
9. アラーム	10
10. クライアントとWEBログイン問題	12
11. PTZコントロール	13
12. ハードディスク故障検査	14
13. 書き込み/USBバックアップエラー	15
14. ローカルパスワードはエラー	16
15. 日報をクラッシュ	16
16. バージョンアップ注意	16

1. DVRが起動できない

1.1	<p>正しい電源を使用していない故障です。電源エラーの原因は下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給電回路と給電電圧が正しくありません。 ・ スペクトルが足りません。（或はある回路の線の径が足りない、電圧を下げすぎなど） ・ システムの伝送回路は短絡、断線、瞬間電圧を上げすぎなどです。 <p>特に給電エラー或は瞬間電圧の上げすぎでDVRが故障となる場合があります。給電する前にマルチメータで測定してください。</p>
1.2	バージョンアップした場合には、プロセスが原因かもしれません。インターネット或はシリアルポートを接続できる場合には、システムのエラーを確認し、再バージョンアップをしてください。
1.3	ハードディスクの故障或はHDD線の問題
1.4	DVR電源故障、交換してみてください。
1.5	前端パネル問題
1.6	DVRの故障です。

2. 起動が遅い

2.1	ハードディスクのデータが多くて、起動する時データを検索するため、起動が遅くなります。
2.2	ハードディスクのエラーでDVRが繰り返し検査しますので、起動が遅くなります。

3. DVRを起動して数分後、自動的に再起動またはフリーズします。

3.1	インプット電圧が不安定、または低すぎる。
3.2	ハードディスクのケーブルが不正確。
3.3	ハードディスクまたはハードディスクのケーブルが壊れている。シリアルポート情報及び日報ログでスペクトルが足りない電源を交換してみてください。
3.4	電力スペクトルが足りない 電源を交換してみてください。
3.5	前端パネルのエラーで再起動。ビデオケーブルと接続したが、前端パネルがなく、再起動になります。

3.6	前端パネルを検査してください。
3.7	放熱不良ほこりが溜まっている、DVRの動作環境が不良である。
3.8	電磁気の妨害、多くのは電磁気の妨害で再起動またフリーズになります。
3.9	保存する時に再起動と設定されたから。
3.10	ハードウェアの故障、販売店に戻してください。
3.11	間違いプロセスをバージョンアップ
3.12	マザーボードが壊れた。
3.13	圧縮板が壊れた。

4. チャンネル表示と音、ビデオのアウトプット

4.1	リアルタイム時間を表示しない。
4.2	再生する時、時間表示しない。
4.3	時間の表示はソフトウェアで一致させます。ハードウェアと関係ありません。
4.4	時間の表示は早すぎ、遅すぎ、文字化けがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間差が大きくなる、または文字化けが出る場合、電源の接触不良か電圧が低すぎる。 ・ 何時間もの誤差が出れば、クリスタルのエラーです。
4.5	BOOTとBIOS合わない場合、再バージョンアップしてください。
4.6	アウトプットポートのチップが壊れている場合。手でDVRのケースを触ってみてください。しびれを感じたら、DVRが漏電、また静電気があると判明できます。
4.7	インプットポートのチップが壊れている場合。ビデオケーブルを触ってみてください。しびれを感じたら、静電気が高いと判明できます。
4.8	画像明るさなど0に戻し、初期化にしてください。
4.9	前端パネルの故障です。
4.10	チャンネル保護。画像の設定で訂正してください。
4.11	上と下の板はバージョンが一致していません。
4.12	DVRハードウェアの故障、販売店に修理を依頼してください。

4.13	ピックアップがない。
4.14	スピーカーがない。
4.15	音声ケーブルが壊れています。
4.16	設定問題：音声がおフになっています。
4.17	対応するチャンネルにビデオを接続していない。
4.18	プレビューの音がない、ローカル設定の音声がおフになっている。録画設定のストリームタイプがビデオとなる。音声ケーブルが壊れている。

5. ビデオ画像が異常

5.1	工事が原因で前端パネル不良になった場合。直接DVRと接続します。或はその他正常なチャンネルでテストします。
5.2	DVRの画面に網掛けの妨害で画像が見えなくなる場合、ビデオケーブルの芯線とスクリーンの短絡、断路の故障です。
5.3	DVRの画面に縞模様が出る。ビデオ伝送ケーブルの電気抵抗は75オームでなければなりません。
5.4	DVRの画面に細縞模様が出る。DVRの近く妨害がありませんか。
5.5	DVRの画面が白線、黒線で乱れます。交流電の混信を引き起こしています。アースして下さい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ DVR電源の性能不良（或は部分損害このような現象を引き起こすことがあります。UPSを追加してください）で。 ・ 映像ケーブルコネクタの接触不良もこのような現象を引き起こすことがあります。コネクタを交換してください。
5.6	DVRの画面に木目模様が出る。映像ケーブルの不良が引き起こしています。映像ケーブルを交換してください。
5.7	映像ケーブルの断路。
5.8	映像ケーブルは混信になりました。
5.9	ワンポイントアースしかできません。複数アースにすると混信になります。DVR後パネルでワンポイントアースしてください。
5.10	DVRの老化問題がないか確認してください。
5.11	N製とPAL製の選択間違いです。それで画像は白黒になります。
5.12	インピーダンスが合わない。映像ケーブルはハイインピーダンスDVRと接続すると画像が明るく、文字が振れた様になります。DVRのインピーダンスは低インピーダンスにしてください。

5.13	伝送距離が遠すぎる場合、映像ケーブルが減衰で画像が薄くなり或は白黒になる原因となります。ビデオ増幅器を追加してください。
5.14	遠距離ビデオがベースバンドで伝送する場合、画像色がはっきりしない故障が発生します。原因は伝送ケーブルの信号のハイバンドの移相が大きすぎるからです。移相補償器を追加してください。
5.15	カメラがインストール不正の問題です。例：カメラバックフォーカスの調整不正で、フォーカスがよくない場合焦点はずれが発生します。暗くても（DVRは明るくしないでください。）カメラの明るさを調整してください。明るすぎるなら、映像ケーブルで100オームを追加してください。インストールする時に逆光にはしないでください。
5.16	DVRの色補正、明るさなどの設置が不正確です。初期化をして再設定してください。
5.17	DVRは硬盘录像机接电视机输出有时感觉边线弯曲，在高级选项中调节输出高度及X Y的值，把弯曲的线调到边框外，看起来图像就直了。
5.18	DVRハードウェアの故障です。販売店に連絡して下さい。

6. ローカル再生

6.1	多くのはハードディスクの問題（HDDケーブルとデータケーブル）。再生時にフリーズを起こし場合。それもハードディスクの故障です。ハードディスク故障検査を参考にしてください。
6.2	ハードディスク問題が出た場合、資料が複雑になります。検索時に見つからない場合があります。精確検索が可能なDVRなら精確検索してください。ないDVRは次のフレーズを使ってください。或は検索分析器で検索してください。
6.3	バージョンアップ時システムの違いで目録を削除されたDVR。
6.4	前端ビデオデータの読み取りを間違える場合。プロセスの読み取り間違いないようにするため、プロセスは前端のデータを復元します。それによって、一部のビデオデータを失います。
6.5	部分DVRはバージョンが合いません。回再生時に画像が赤になったり、青になったりします。
6.6	DVRのハードディスクには“停止”、“上書き”二種類処理方法があります。検索するビデオは上書きされたか？ハードディスクがフルになって、録画停止になったかを確認してください。
6.7	バージョンアップ後、デフォルト値を読み取っていない。バージョン違いプロセスはバージョンアップしたあと、デフォルト値を読み取らないと録画しない問題があります。
6.8	プロセスが違うシステムのプロセスになる場合は元のビデオを再生出来ません。

6.9	DVRハードウェアの故障。販売店に連絡して下さい。
6.10	画質の設定が低すぎる。画質は4以上でなければなりません。それによって画像の画質を保証できません。
6.11	プロセスデータの読み取りの間違い。再生時にストリームの表示が小さくて、スクリーンがモザイクになります。再起動で正常に戻ります。
6.12	ハードディスク故障 (ハードディスクデータケーブルと電源ケーブルのエラー)
6.13	再生時に音がない、画像の設定で音声をオンにしているか確認してください。
6.14	対応なチャンネルがビデオに接続していません。画像がブルースクリーンになる時途切れることがあります。
6.15	DVRの音声信号はアクティブマイクにしなければならないです。
6.16	ピックアップが合わないなら、前端で処理しなければなりません。
6.17	前端音色が不良
6.18	DVRの故障：ローカル録画が正常か確認してください。
6.19	ネットワークが繋がりにくい、ビデオと音声を失うことがある。ネットワークを検査してください。
6.20	DVRネットワーク設定でマルチキャストモードを選択した。マルチキャストモードはモザイクが多いので勧めません。
6.21	チャンネル保護。画面は“coverd”を表示します。画像設定で変更してください。
6.22	マルチキャストモードで制御権ユーザーはありません。ブルースクリーンになるかもしれません。
6.23	ネットワーク繋がりにくい
6.24	クライアントの制限があるかどうか確認してください。
6.25	登録したユーザーには監視制限がありません。
6.26	ユーザーの録画時間が1分も立たない場合は再生時にフリーズになります。よって、録画する時に1分より長くしてください。
6.27	再生操作する時に一度選択したファイルが多くて、メモリーが足りなくなった場合、フリーズを起こします。

7. インターネット接続エラー

7.1	pingを判断する時TTL値に戻す：≤64（ルータを经って、TTL値は1を減る）。そうしなければIPアドレスがコンフリクトになります。 （このIPはDVRではなく、再分配してください）
7.2	DVRのMACアドレスをコンフリクト。Windowsのarp -a で検査してください。コンフリクトがあれば、シリアルポートでMAC命令を変更してください。
7.3	LANケーブルを確認してください。
7.4	ダウンロードしたビデオは専用メディアプレーヤーとクライアントで再生ができます。インストールしてない場合は再生できません。バックアップ時、専用メディアプレーヤーがバックアップされます。それで再生できます。
7.5	DX8.1以上のバージョンをインストールしてください。
7.6	AVIフォーマットして、MEDIA PLAYERでビデオを再生します。
7.7	パソコン或はDVRのRJ45ポート接続不良
7.8	インターネット不安定
7.9	IPアドレスのコンフリクト
7.10	LANカードの動作は不正常
7.11	LANカードをインストールしたが、TCP/IP接続をインストールしてない。
7.12	インターネットと繋がる時、IPアドレスを間違えた。
7.13	ADSLダイヤルできない。 <ul style="list-style-type: none"> ・ IDとパスワードが間違えた。 ・ 外接線路が不正常或は干渉。 ・ ADSLはDHCPを使っている。

8. 録画保存とダウンロード

8.1	ストリームはデータ統計の異常があるかどうか確認してください。異常が大きい場合、カメラのレンズが汚い、画像がぼやけている。逆光で取り付けた時、絞りはうまく調整できない。（自動がおすすです）
8.2	ストリームとハードディスクの容量で理論的に録画時間を計算します。実際の録画時間と比べます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 合うなら、ストリームを下げて、ハードディスク容量の増加を実現できます。 ・ 合わないなら、ハードディスクの故障、循環録画を選択していない。
8.3	ハードディスク容量が足りません。

8.4	前端カメラの質が悪い、レンズが汚い、逆光の取り付け、しぼりをよく調整できない等、ストリームが大きくなった。
8.5	ハードディスクの故障
8.6	録画しているのに上書き保存できない。 ハードディスクに問題がない場合： <ul style="list-style-type: none"> ・ “録画上書き方式”は“自動循環”になっているか確認してください。 ・ ロジカルエラーか物理エラーか確認してください。ロジカルエラーなら、パソコンと接続して、分区情報を削除してください。物理エラーなら、ハードディスクを交換して下さい。

9. アラーム

9.1	定時録画を閉じてない。定時設定の“毎日”をチェックしているか確認してから、24時間閉じます。
9.2	モーション検査の時間帯設定は正常か確認してください。 (説明書を参考してください)
9.3	現場状況で相応な感度を設定します。
9.4	モーション検査区に入って、区域設定は正常か確認してください。
9.5	モーション検査の事前録画を開く。メニューにモーション検査の事前録画オプションの機器はありません。デフォルトで事前録画を開く。
9.6	区域を遮る範囲は大きすぎる。
9.7	DVRのアラーム設定タイプは正確か確認してください。録画ライトでも判断出来ます。
9.8	インプット設備と接続ワイヤを検査して異常がないか確認してください。探針は正常に動作している確認してください。ライト状態、電源値で判断出来ます。
9.9	インプットケーブルは断線していないかと確認してください。

9.10	<p>アウトプット設備と接続ワイヤは正常にしているか確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アラーム設定は正確か確認してください。（メインメニューのアラーム設定は説明書を参考してください。アラームタイプ、アラーム対応するチャンネルと連動ポートは正確か確認してください）手動でアラームコントロールメニューを検査してください。（一画面の状態にFnキーでメニューをポップアップします。）設定は正確かと確認してください。（デフォルトの設定は変更しなくてもよいです） ・ アラーム接続ワイヤの問題がないかと確認してください。（説明書を参考してください） ・ アラーム設備は接続中同時に2回線を接続してはいけません。
9.11	<p>DVRの録画計画はアラーム触発録画に設定し、アラームになっても、録画できないなら、接続したアラームのアウトプットタイプとDVRのアラームのインプットタイプは一致しているかと確認してください。</p> <p>例：アラームのアウトプットタイプはON(常にオン)、そして、DVRアラームの設定で対応するチャンネルのアラームタイプはNormal onにしなければなりません。そうでないと録画出来ません。</p>
9.12	<p>ダイナミック検査の感度はオンにしているか、ダイナミック検査区域は設定しているか確認してください。</p>
9.13	<p>DVRの外部接続アラームはオンにしているか</p>
9.14	<p>DVRは“ビービービー……”音する時。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオロスのアラーム ・ ビデオ遮断アラーム ・ ダイナミック検査アラーム ・ ハードディスクはフォーマットしていないか壊れているかのアラーム
9.15	<p>ダイナミック検査は設定しても録画出来ません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダイナミック検査区域を設定してない； ・ ダイナミック検査の感度が低すぎ； ・ 録画方法は設定したが、再起動はしてないです。
9.16	<p>アラーム録画はできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アラーム録画時間段の設定を間違えた。2つ時間段の設定は前小後大に設定してください。 ・ アラーム録画は連動チャンネルを選択してない、正確連動チャンネルを選択してください。 ・ アラームの触発は正しくありません。アラームのインプットとアラーム触発装置を検査してください。

10. クライアントとWEBログイン問題

10.1	クライアントがインストールできない、正常に表示していない。
10.2	操作システム：Windows XP SP2；Windows 2000、Windows 2003、Windows Vista、win7（Vista、win7は管理者しか使えません。）をサポートします。
10.3	LANケーブルを確認してください。
10.4	WEBコントロールをインストールする時に、システムからブロックされたというテキストボックスをポップアップする場合、IEブラウザを検査しなければなりません。Internet Explore ブラウザの Internet オプションを開き、レベルのカスタマイズを選択し、“スクリプトを実行しても安全だとマークされていない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行→「無効にする」”と“未署名のActiveXコントロールのダウンロード”→「無効にする」” [OK] ボタンをクリックする。保存してからInternet Explore ブラウザを再起動します。
10.5	dx8.1或以上のバージョンをインストールしていない。クライアントがログインする時に接続の失敗を表示します。ソフトはアップグレードし、ビデオカードのドライブをアップグレードします。
10.6	まず、DVRのハードソフトの故障を検査してください。パソコンと直接接続します。DVRの故障なら、販売店に修理依頼してください。
10.7	DVRの故障がなければ、ネットワークの故障と考えてください。 A. DVRに使っているポートはオンにしているか確認してください。 （クライアントはtcpポート、デフォルトは8000；WEBはhttpポート、デフォルトは80） B. LANケーブルは正しいか確認してください。 C. DVRとパソコンは同じネットワーク環境推進にあるか確認してください。 同じネットワーク環境の機器（IPの最初3つ数字は一致です。次の1つは違います。サブネットマスクは一致です。） D. 違うネットワーク環境の機器とパソコンはサブネットマスクの設定を通します。或はスイッチボードとルータに設定します。両方のインターネットは相互にアクセスを保証してください。 E. ドメイン名でアクセスするなら、ドメイン名の解析は正確か確認してください。
10.8	ユーザー名とパスワードは違います。可シリアルポードでネットユーザー名を削除できます。
10.9	バージョンが違う。
10.10	クライアントのプレビュー画面と録画の再生時にモザイクします。本体の電波が悪く、ネットワークはよく接続できなく、それで、映像と音声はロスになりました。クライアントはモザイクの起こる期間、その他の原因があるか確認してください。クライアントは本体からデータを伝送しつつ、複数チャンネル再生をするなら、CPUの容量を使ってしまった。録画データはちゃんとハードディスクに書き込めないの、モザイクを起こします。

11. PTZコントロール

11.1	前端PTZ故障。PTZは使ってから、あまり時間を経っていない場合にも、よく動作していない或は動けないことがあります。PTZはよくある故障です。
11.2	PTZエンコーダの設定、接続ワイヤ、組立は正しくありません。エンコーダのタイプ、アドレス、Comポートは正しいか確認してください。信号ケーブルの付近に干渉電波がないか確認してください。よく接地していますか？485信号ケーブルは遮蔽線がおすすめです。485信号ケーブル両極の間違いがないか、A、Bケーブルの電圧は変化がないか（接続ワイヤが正しいなら電圧の変化はありません。485コントロールチップは問題があるかもしれない；負荷がない場合は485チップのアウトプット電圧は0.45~0.37V）；
11.3	インターフェイスは正しくありません。DVRのPTZコントロールは485インターフェイスがあります。クライアントの設備は232ポート或422ポートを使うなら、DVR485コントロール信号とつながれない。転換設備を追加するとPTZコントロールは正常に動作する保証がありません。
11.4	DVRのPTZの設定は正しくないかもしれない。DVRのPTZコントロールメニューの設定は正しいか確認してください。正しい協議は選択したか確認してください。ボーレートはエンコーダのボーレートと一致しているか、アドレスは相応しているか確認してください。
11.5	PTZエンコーダとDVRの接続が合わないです。
11.6	PTZエンコーダとDVRのアドレスが合わない。PTZエンコーダのメーカーが多いので、アドレスは0からのメーカーと1からのメーカーがあります。DVRのPTZ協議のアドレスは0からです。両方のアドレスは一致しなければなりません。
11.7	PTZエンコーダA Bケーブルの最大距離端は120オームの抵抗で反射解消とインピーダンスマッチングができます。そうしないとPTZコントロールは不安定になります。
11.8	距離が離れすぎ、コントロール信号は弱くなりすぎると、エンコーダが信号受信する時にPTZは不安定になります。

12. ハードディスクの故障検査

ハードディスクの故障で機器は起動できなくなる可能性があります。繰り返し再起動にされ、録画再生する時にエラーが起こるなどの問題があります。DVRはハードディスクの読み取りデータ量によって、ハードディスクが壊れることがあります。

ハードディスク検査方法：

12.1	まず、ハードディスクケーブルはよく接続しているか確認してください。
12.2	ハードディスクのコードを検査します。ハードディスクの容量は正しくなければ、コードの問題と考えられます。
12.3	ハードディスクが読み取り専用の場合には、DVRで修正できます。
12.4	IDEポートを交換してみてください。
12.5	DVRのハードディスクデータを検査してください。ハードディスクを見つからない場合には、ハードディスクの壊れが考えられます。
12.6	音を聞く。音声が異常なら、ハードディスクは壊れています。早く交換して下さい。
12.7	シリアルポート命令でハードディスクのデータを表示させます。データ内容によって、壊れているかどうか判断してください。
12.8	シリアルポート命令でファイル目録を表示させます。内容によって、壊れるか判断してください。
12.9	ハードディスクが論理的に壊れている場合、ファイルの資料は複雑になっています。お客様の了解をもらって、ハードディスクを整理することが出来ます。物理的に壊れた場合（開くのが遅い、日報のエキスポートは時間を超える情報が大量になる）、ハードディスクは交換して下さい。

13. 書き込み/USBピックアップはエラー

13.1	CDプレーヤーとハードディスクは同じデータケーブルで接続すると、ピックアップする時にエラーが出ます。
13.2	データ量が多すぎる時、CPUの資源が大きすぎます。停止して、再ピックアップが必要です。
13.3	データ量はピックアップ機器の容量を超える時に、エラーが出ます。
13.4	ピックアップする設備が壊れた。デバイスを交換して下さい。
13.5	書き込み時に、電源の効率が足りないので機器を再起動する。電源を交換して下さい。
13.6	ハードディスクのデータは複雑になっている。ハードディスクを整理したほうがいいです。ピックアップに影響します。
13.7	DVDドライブと光学式ディスクと合わない。

14. パスワードの忘れ

14.1	メーカーと連絡してください。
------	----------------

15. 日報の壊れ

15.1	ユーザーの本体はよく断電します。
15.2	何回も一台ハード配置は安定してない機器にビデオソフトに実行します。

16. アップグレードに注意

アップグレードする時に安定な電源があるか確認してください。アップグレードしている時停電になった場合、アップグレードは失敗になります。本体が動作できなくなる可能性もあります。この時、DVR本体に再アップグレードしてください。再アップグレードしても出来ない場合は販売店に連絡してください。